
令和2年度 事業報告書

社会福祉法人 鹿児島県社会福祉協議会

目 次

令和2年度事業実施概要	1
事業報告	
Ⅰ 会務の運営並びに連絡調整等	3
Ⅱ 地域福祉活動の推進	9
Ⅲ ボランティア活動の促進	19
Ⅳ 福祉相談活動の推進	30
Ⅴ 社会福祉施設・団体等の活動促進及びすこやか基金による活動助成等	32
Ⅵ 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進	36
Ⅶ 福祉人材の養成・確保	44
Ⅷ 介護実習・普及センターの運営	60
Ⅸ 生活福祉資金貸付事業の推進	68
Ⅹ すこやか長寿社会づくり運動の推進	73
Ⅺ 県社会福祉センターの管理・運営	76
Ⅻ 地域医療介護総合確保基金事業の推進	78

令和2年度事業実施概要

社会福祉を取り巻く環境は、市町村を基盤とした地域福祉の推進が図られる一方で、急速な少子高齢化などに伴う地域社会の変容や社会的孤立、制度の狭間の問題などの顕在化、人口減少問題が深刻化する中で困難さを増す介護人材の確保など対応すべき多くの課題があります。

また、新型コロナウイルスの感染拡大により、外出の自粛等による高齢者等の孤立、減収や失業による生活困窮者の増加、地域福祉活動の停滞や居場所の喪失による地域のつながりの希薄化などの新たな課題も生じています。

地域福祉の中核的推進組織である県社協は、複合化・複雑化してきた福祉ニーズに的確に応えるために、令和2年度の基本目標を次のとおり定め、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、地域福祉の推進に全力を傾注してまいりました。

この中で、具体的な事業としては、生活福祉資金貸付事業において、新型コロナウイルス感染症の影響による生活困窮の課題に対応するため、緊急小口資金や総合支援資金の特例貸付を適切に実施しました。

また、福祉人材の安定的な確保を図るための社会福祉従事者等に対する各種研修等においては、新型コロナウイルス感染防止に配慮した研修開催や必要な機器を整備した上での、オンデマンドやオンラインによる研修開催を進めました。

さらに、共同募金配分金を財源としたこどもイキキ地域つながりプロジェクト事業における不登校児やひきこもり支援に関する取り組みなど、市町村社協等における地域福祉活動の充実・強化や地域医療介護総合確保基金を活用した福祉・介護人材確保事業や介護分野への元気高齢者等参入促進セミナー事業等による介護未経験者や高齢者等の多様な人材の参入を図るための取り組みを進めました。

以上に加え、ボランティア活動の促進、福祉サービスの利用支援や苦情解決の推進、すこやか長寿社会づくり運動の推進等についても、関係機関・団体と連携を図りながら引き続き取り組みました。

基本目標

1 地域福祉活動の推進

- (1) 生活困窮者自立支援制度への適切な対応
- (2) 社会的孤立等に対応する地域支援基盤づくりの推進
- (3) 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進
- (4) 生活福祉資金貸付事業の的確な運用と債権管理の推進

2 福祉人材の養成・確保の強化

- (1) 障害福祉人材育成事業の推進
- (2) 介護人材の確保・定着促進

3 社会福祉諸制度改革への適切な対応と関係機関・団体との連携

事業報告

I 会務の運営並びに連絡調整等			
1	役員会等の開催	所管部署	総務部
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
(1)	理事会の開催 3回(6月, 11月, 3月)	<p>① 第207回理事会(令和2年度第1回) <日時> 令和2年6月1日(月) 午前10時30分～ <場所> 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 <上程議案> 第1号議案 令和元年度事業報告について 第2号議案 令和元年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について 第3号議案 理事候補者の選定について 第4号議案 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会の開催について 第5号議案 令和2年度定時評議員会の招集について 第6号議案 評議員選任・解任委員の選任について 第7号議案 会計監査人の報酬について 報告第1号 専決処分の報告について 専第1号 令和元年度生活福祉資金会計第2次資金収支補正予算の件 専第2号 令和2年度生活福祉資金会計第1次資金収支補正予算の件 報告第2号 令和元年度福祉サービス運営適正化委員会業務報告について</p> <p>② 第208回理事会(令和2年度第2回) <日時> 令和2年11月25日(水) 午後1時30分～ <場所> 鹿児島県社会福祉センター 6階 研修室 <上程議案> 第1号議案 第187回評議員会の招集について 報告第1号 令和2年度上半期事業進捗状況・実績及び一般会計・生活福祉資金会計中間決算並びに監事監査の報告について 報告第2号 専決処分の報告について 専第1号 令和2年度事業計画の変更(追加)及び一般会計第1次資金収支補正予算の件 専第2号 令和2年度生活福祉資金会計第2次資金収支補正予算の件</p>	<p>本会の経営に重要な事業計画、予算、役員等改選及び諸規程等改正の審議のため、適宜理事会・評議員会を開催し、効率的かつ適正・確実な法人経営が図られた。</p>

	<p>専第3号 令和2年度生活福祉資金会計第3次資金収支補正予算の件 その他 会長及び常務理事の職務執行状況報告について</p> <p>③ 第209回理事会（令和2年度第3回） 〈日時〉 令和3年3月19日(金) 午前10時00分～ 〈場所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 〈上程議案〉</p> <p>第1号議案 令和2年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支補正予算（案）について 第2号議案 令和3年度事業計画（案）について 第3号議案 令和3年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支予算（案）について 第4号議案 評議員候補者の選定及び評議員選任・解任委員会の開催について 第5号議案 職員就業規則の一部改正について 第6号議案 職員給与規程の一部改正について 第7号議案 県社会福祉センター設置管理規程の一部改正について 第8号議案 第188回評議員会の招集について 報告第1号 専決処分の報告について 専第1号 令和2年度生活福祉資金会計第4次資金収支補正予算の件 専第2号 令和2年度生活福祉資金会計第5次資金収支補正予算の件 専第3号 令和2年度一般会計第2次資金収支補正予算の件（障害児者養成研修等の受講機会拡大への支援事業） その他 会長及び常務理事の職務執行状況の報告について</p>	
<p>(2) 評議員会の開催 3回（6月，11月，3月）</p>	<p>① 第186回評議員会（定時評議員会） 〈日時〉 令和2年6月17日(水) 午後1時30分～ 〈場所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 〈上程議案〉</p> <p>第1号議案 令和元年度事業報告について 第2号議案 令和元年度一般会計及び生活福祉資金会計決算について 第3号議案 理事の選任について 報告第1号 専決処分の報告について</p>	

1	役員会等の開催	所管部署	総務部
	令和2年度事業計画	事業実施概要等	
		具体的成果等	
	<p>専第1号 令和元年度生活福祉資金会計第2次資金収支補正予算の件</p> <p>専第2号 令和2年度生活福祉資金会計第1次資金収支補正予算の件</p> <p>② 第187回評議員会（令和2年度第2回） 〈日 時〉 令和2年12月2日(水) 午後1時30分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 〈上程議案〉</p> <p>報告第1号 令和2年度上半期事業進捗状況・実績及び一般会計・生活福祉資金会計中間決算並びに監事監査の報告について</p> <p>報告第2号 専決処分の報告について</p> <p>専第1号 令和2年度事業計画の変更（追加）及び一般会計第1次資金収支補正予算の件</p> <p>専第2号 令和2年度生活福祉資金会計第2次資金収支補正予算の件</p> <p>専第3号 令和2年度生活福祉資金会計第3次資金収支補正予算の件</p> <p>③ 第188回評議員会（令和2年度第3回） 〈日 時〉 令和3年3月23日(火) 午前10時00分～ 〈場 所〉 鹿児島県社会福祉センター 7階 大会議室 〈上程議案〉</p> <p>第1号議案 令和2年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支補正予算（案）について</p> <p>第2号議案 令和3年度事業計画（案）について</p> <p>第3号議案 令和3年度一般会計及び生活福祉資金会計資金収支予算（案）について</p> <p>報告第1号 職員就業規則の一部改正について</p> <p>報告第2号 職員給与規程の一部改正の件</p> <p>報告第3号 県社会福祉センター設置管理規程の一部改正について</p> <p>報告第4号 専決処分の報告について</p> <p>専第1号 令和2年度生活福祉資金会計第4次資金収支補正</p>		

	<p>予算の件 専第2号 令和2年度生活福祉資金会計第5次資金収支補正 予算の件 専第3号 令和2年度一般会計第2次資金収支補正予算の件 (障害児者養成研修等の受講機会拡大への支援事業)</p>	
<p>(3) 監事会の開催 2回 (5月, 11月)</p>	<p>① 令和2年度第1回監事会 <日 時> 令和2年5月21日(木) 午前10時30分～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室 <協議事項> ・会計監査人の報酬に関する同意について <監査事項> ・令和元年度事業実施報告, 令和元年度一般会計及 び生活福祉資金会計決算について ・財務諸表及び証拠書類等の監査 ・監査結果の講評</p> <p>② 令和2年度第2回監事会 <日 時> 令和2年11月11日(水) 午前10時30分～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 7階 第2会議室 <監査事項> ・令和2年度上半期事業進捗状況・実績及び一般会計・ 生活福祉資金会計中間決算について ・財務諸表及び証拠書類等の監査 ・監査結果の講評</p>	<p>当初の予定どおり令和元年度の監査並びに令和2年度上半期の監査を行い、適正に処理されていることが認められた。また、上半期の事業実施状況及び中間決算を行うことで、下半期の事業を効果的かつ効率的に実施できた。</p>
<p>(4) 正副会長会の開催</p>	<p>上記役員会のほか円滑な法人運営を図るため、令和3年3月12日(金)に県社会福祉センターにおいて正副会長会を開催し、第209回(令和2年度第3回)理事会等の議案等について協議を行った。</p>	
<p>(5) 評議員選任・解任委員会の開催</p>	<p>① 令和2年度第1回評議員選任・解任委員会 <日 時> 令和2年6月10日(水) 午前10時30分～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室 <審議事項> 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会評議員の選任 について(2名辞任に伴う後任の選任)</p> <p>② 令和2年度第2回評議員選任・解任委員会 <日 時> 令和3年3月19日(金) 午後1時00分～ <場 所> 鹿児島県社会福祉センター 7階 第3会議室 <審議事項> 社会福祉法人鹿児島県社会福祉協議会評議員の選任 について(1名辞任に伴う後任の選任)</p>	

2 関係機関・団体との連絡調整	事業実施概要等	所管部署 総務部ほか関係部所
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(1) 市町村社会福祉協議会，種別協議会との連絡調整	<p>① 市町村社会福祉協議会会長及び事務局長会議の開催 ※新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み開催中止とした。</p> <p>② その他 社会福祉制度改正や新型コロナウイルスに関連する社会福祉法人運営等について，市町村社会福祉協議会及び種別協議会等の関係団体に対し，メール等により随時情報提供を行った。 また，種別協議会が実施する研修会等に参加し，社会福祉の新たな動向等についての説明や現状・課題等の説明及び各種別協議会活動支援のための研修費等の助成や後援等を行った。</p>	<p>市町村社協等への必要な情報の提供や研修会等の活動支援により，的確な法人運営に資することができた。</p>
(2) 社会福祉，保健衛生，社会教育など関係機関・団体との連絡調整	<p>① 県社会福祉審議会委員など国・県，社会福祉法人及び保健医療福祉関係諸団体等の役員や委員等に就任し，県社会福祉協議会として積極的に参画した。</p> <p>② 「小さな親切」運動県本部との協定に基づき，同本部の大会や研修会の開催，運営等の業務支援を行った。</p> <p>③ そのほか，市町村社協とも密接な関係を有する県共同募金会及び日本赤十字社鹿児島県支部とも連絡調整・連携を図った。</p>	
(3) 全国社会福祉協議会，九州社会福祉協議会連合会等関係会議への参加等	<p>① 全国社会福祉協議会の評議員，各種委員会委員及び九州社会福祉協議会連合会理事等に就任し，会議出席及び書面表決等の対応を行った。</p> <p>② 新型コロナウイルスの影響により，書面やオンラインでの開催となった全国社会福祉協議会及び九州社会福祉協議会主催の会議・研修会等において情報交換を行った。</p> <p>③ そのほか，大規模災害の発生に備え，九州ブロック災害時相互応援協定に基づく各種連絡窓口等の調整等を行った。</p>	<p>全社協及び九州ブロックの会議や研修会に書面やオンライン等で参画し，中央情勢等の情報や九州各県の取組等の情報交換により，種々の課題解決等につなげることができた。</p>
(4) 韓国 全羅北道社会福祉協議会との交流	<p>姉妹盟約に基づく全羅北道社会福祉協議会との交流事業については，国内外の情勢等により令和元年度から実施を保留している。</p>	

3 自主財源の確保				所管部署	総務部ほか関係部所
図書等の販売や斡旋	社会福祉に関する書籍等や帳簿類の販売・斡旋を行い、自主財源の確保に努めた。 〈書籍等販売・斡旋〉 (1) 民生委員・社会福祉手帳 (2) ボランティアTシャツ等 (3) 市町村社協帳簿用紙 (4) 介護体験ノート (5) 地域見守りネットワーク冊子 (6) 全社協等外部発行図書 (7) その他自動車保険・がん保険等の団体加入			書籍等販売・斡旋を通じて、社会福祉関係者等への福祉関連書籍等を円滑に提供できた。	
4 広報活動等の推進				所管部署	総務部
(1) 広報紙「ふくしのひろば」の発行 ア 発行回数：年6回(奇数月発行) イ 発行部数：13,700部／1回あたり	県民の福祉への関心と理解を深めるため、広報紙「ふくしのひろば」を発行し、福祉関係情報を提供した。 〈発行回数等〉 年6回(奇数月の1日) 〈発行部数〉 各回13,700部(12ページ/1部あたり) 〈配布先〉 市町村, 市町村社協, 民生委員, 社会福祉施設, 小・中・高校, 警察署, 病院, 金融機関ほか県内外関係機関・団体等			当初の予定どおり定期的に発行し、福祉関係者のみならず幅広い県民への広報に資することができた。	
(2) 本会ホームページの運営 (URL http://www.kaken-shakyo.jp/)	本会ホームページを通して、実施事業等の案内、保健福祉に関する情報等の提供に努めた。			福祉関係者を含む一般県民等幅広い閲覧者に対して、社協活動への理解促進につながった。	
		R2年度実績	R1年度実績	対前年度比(件数及び割合)	
アクセス件数		78,346	70,014	+8,332	111.9%

II 地域福祉活動の推進			
1	地域福祉推進支援事業		所管部署 地域福祉部
令和2年度事業計画		事業実施概要等	具体的成果等
(1) 地域福祉推進支援事業 ア 巡回指導及び研修会への職員派遣		在宅福祉サービス・地域福祉活動展開についての実施手法の指導や近隣保健福祉ネットワーク、社協運営等について、訪問及び研修会等での指導援助を行った。 市町村社協巡回指導数：14回 研修会等への指導：3回（市町村社協等）	市町村社協ほか関係機関等に積極的に出向き、福祉活動の支援に資することができた。
イ 市町村社協等への情報提供		① 地域福祉の分野で先駆的な活動として取り組まれている県内外の有益な情報を収集し、県下の地域福祉関係者に情報発信するとともに市町村で開催された在宅福祉アドバイザー等の研修会に反映させた。 ② 県内の地域福祉の一層の推進に資するため、県内外の先進的な地域福祉の取組事例や関連情報を収集・整理し、市町村社協等に情報提供を行った。77回（文書、ファックス、メール）	最新情報等を迅速に提供することで、市町村社協運営に関する情報共有につながった。
ウ コミュニティワーカー研修会の実施（2コース）		地域福祉に関わる人材の資質・技能等の向上を図るための研修会を実施した。	地域福祉に携わるコミュニティワーカーの資質向上のため、アセスメント手法等の相談支援技術や地域を基盤とした展開技術などの向上が図られた。
コース	基礎編		実践編
開催日	令和2年11月26日(木)		令和2年11月27日(金)
会場	県社会福祉センター 7階 大会議室		県青少年会館 3階 洋会議室
参加者	29人		29人
内容	〈講義・演習〉 地域で暮らす一人を大切にす個別支援を考える 〈講師〉 同志社大学社会学部 教授 空閑浩人 氏		〈講義・演習〉 地域で暮らす一人が大切にされる地域づくり・地域支援を考える 〈講師〉 同志社大学社会学部 教授 空閑浩人 氏

<p>(2) 福祉コミュニティづくり事業 ア あんしん・安全ネットワークセミナーの開催 (1回)</p>	<p>公的サービスや見守り、サロン活動だけでは対応できない地域住民の多様な生活課題に対応し、「誰もがあんしんで安全な生活を送れる地域社会」を作るという視点から、“地域づくり”についての県内の先駆的な事例を参考に、地域課題や生活課題への対応や地域の変化、住民の巻き込み方を学ぶことを目的に開催した。</p> <table border="1" data-bbox="712 379 1854 751"> <tr> <td>開催日・会場</td> <td>令和3年1月26日(火) 霧島市民会館 ホール</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>271人</td> </tr> <tr> <td>内容</td> <td>(1) 開会挨拶, 来賓挨拶 (2) パネルディスカッション コーディネーター: 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 パネリスト: 霧島市 小畑自治会長・民生委員 藏元悟 氏 始良市 俺たっがサロン代表 奥村司 氏 曾於市 ミニデイ★ななつ星 森岡千鳥 氏</td> </tr> </table>	開催日・会場	令和3年1月26日(火) 霧島市民会館 ホール	参加者	271人	内容	(1) 開会挨拶, 来賓挨拶 (2) パネルディスカッション コーディネーター: 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 パネリスト: 霧島市 小畑自治会長・民生委員 藏元悟 氏 始良市 俺たっがサロン代表 奥村司 氏 曾於市 ミニデイ★ななつ星 森岡千鳥 氏	<p>小地域ネットワーク活動における地域課題の把握や対応策等を共有することができた。また、地域で実施することで地域に密着でき、多くの住民参加を得ることができた。</p>
開催日・会場	令和3年1月26日(火) 霧島市民会館 ホール							
参加者	271人							
内容	(1) 開会挨拶, 来賓挨拶 (2) パネルディスカッション コーディネーター: 鹿児島県社会福祉協議会 地域福祉部 パネリスト: 霧島市 小畑自治会長・民生委員 藏元悟 氏 始良市 俺たっがサロン代表 奥村司 氏 曾於市 ミニデイ★ななつ星 森岡千鳥 氏							
<p>イ サロン活動研究集会の開催 (1回)</p>	<p>サロン活動を支援する関係者の資質向上、情報交換の場を提供することを通し、更なるサロン活動の一層の普及・定着を図ることを目的に、「ふれあい・いきいきサロン研究集会inかごしま」を開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和3年2月16日(火) 〈会 場〉 かごしま県民交流センター 1階 県民ホール他 〈参加者〉 135人 〈内 容〉</p> <p>① 全体会 基調講話「県内のサロンの状況について」 講演「コロナ対策の基礎知識」</p> <p>② 分科会 【第1分科会】 高齢者サロンいどばた会議 【第2分科会】 うた体操講座 【第3分科会】 薩摩狂句で楽しい人生を 【第4分科会】 ペーパークラフト講座 【第5分科会】 脳の活性化講座 【第6分科会】 昭和の田舎料理</p>	<p>サロン関係者の情報共有とレクリエーションなどの技能向上につながり、県内のサロン支援における民間ボランティア等のインフォーマルな活動への支援につながった。</p>						

2	県社会福祉協議会会長表彰事業の実施	所管部署	地域福祉部																		
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																			
<p>県社会福祉協議会会長表彰事業の実施（地域福祉推進大会で表彰）</p>	<p>永年，社会福祉の向上に貢献された個人と団体を表彰し，本県における社会福祉の一層の向上を図った。 なお，表彰は「地域福祉推進大会」において行った。</p> <p>〈表彰〉</p> <table border="0"> <tr> <td>① 民生委員児童委員</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>② ホームヘルパー</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>③ 相談員</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 社会福祉施設の長及び職員</td> <td>94人</td> </tr> <tr> <td>⑤ 社会福祉事業関係団体の役職員</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>⑥ 社会福祉事業関係団体</td> <td>4団体</td> </tr> <tr> <td>⑦ ボランティア個人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>⑧ ボランティアグループ・団体</td> <td>8団体</td> </tr> <tr> <td>⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者</td> <td>0人</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">合計（165人，12団体）</p> <p>〈審査会〉 令和2年8月27日(木)開催</p>	① 民生委員児童委員	20人	② ホームヘルパー	20人	③ 相談員	0人	④ 社会福祉施設の長及び職員	94人	⑤ 社会福祉事業関係団体の役職員	16人	⑥ 社会福祉事業関係団体	4団体	⑦ ボランティア個人	15人	⑧ ボランティアグループ・団体	8団体	⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者	0人	<p>全体の表彰数は前年度比93%であり，民生委員・児童委員が対前年度比65%（11人減），社会福祉施設の長及び職員が対前年度比119%（15人増），社会福祉事業関係団体の役職員が対前年度比47%（18人減）となった。</p> <p>表彰は，永年にわたり社会福祉の充実発展に尽力された多くの福祉関係者の励みとなっている。</p>	
① 民生委員児童委員	20人																				
② ホームヘルパー	20人																				
③ 相談員	0人																				
④ 社会福祉施設の長及び職員	94人																				
⑤ 社会福祉事業関係団体の役職員	16人																				
⑥ 社会福祉事業関係団体	4団体																				
⑦ ボランティア個人	15人																				
⑧ ボランティアグループ・団体	8団体																				
⑨ 社会福祉の向上に功績のあった者	0人																				
3	制度改正等対応市町村社協支援事業	所管部署	地域福祉部，生活支援部																		
<p>(1) 制度改正等説明会の開催 ア 制度改正等説明会（2回）</p> <p>イ 生活支援体制整備事業連絡会（2回）</p>	<p>市町村社協に対し，制度改正の情報提供や対応について支援を行うため開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和3年3月16日(火) 〈会 場〉 県社会福祉センター 6階 研修室（オンライン併用） 〈参加者数〉 97人 〈内 容〉</p> <p>講義1:改正社会福祉法と市区町村社協経営指針の改定について 講義2:生活福祉資金特例貸付の現状と今後の課題について 講義3:不祥事故防止について 説 明:かごしまおもいやりネットワーク事業について 講義4:介護保険制度の動向と報酬改定について</p> <p>市町村社協に対し，各市町村の生活支援体制整備状況を共有し，今後の展開について協議するための連絡会を予定していたが，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により実施を見送った。</p>	<p>社協活動に関連する法制度等の改正や，今後の社協活動のあり方について，必要な情報を提供することができた。</p>																			

<p>ウ 生活困窮者自立支援事業市町村社協担当職員研修会 (2回)</p>	<p>生活困窮者自立支援事業を受託している社協を中心に、それぞれの取組状況を把握・共有し、効果的な相談支援業務を展開するための研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により実施を見送った。</p>	
<p>(2) 市町村社協経営セミナーの開催 (1回)</p>	<p>県外の先駆的な社協活動の実践報告を参考に、県内市町村社協の今後の社協活動の展開やヒントを得るため開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により中止した。</p>	
<p>4 地域福祉推進大会開催事業</p>	<p>所管部署 地域福祉部</p>	
<p>地域福祉推進大会 ア 開催期日 令和2年11月20日(金) イ 場所 鹿児島市民文化ホール ウ 内容 ①永年地域福祉の発展に寄与された方々の表彰 ②地域福祉の推進に関する講演 ③見守り活動等の実践報告 エ 参加者数 1,200人程度</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から規模縮小及び時間短縮を行って、「地域共生社会～我が事・丸ごとの地域づくり～」をテーマに、地域福祉推進大会を開催した。 〈期 日〉 令和2年11月20日(金) 〈会 場〉 川商ホール（鹿児島市民文化ホール）第1ホール 〈参加者数〉 580人 〈内 容〉 ① 式典（表彰） ② 記念講演 演 題：「地域共生社会 ～みんなで支え合う地域社会づくりの実現に向けて～」 （講師）鹿児島純心女子大学 看護栄養学部 看護学科 学科長・教授 八田 冷子 氏</p>	<p>永年にわたり地域福祉の発展に寄与された方々の表彰や地域福祉に関する記念講演の開催により、地域福祉を推進する社協や関係機関・団体等が、今後の地域福祉のあり方を考える機運・醸成づくりにつながった。 また、感染防止の各種対策を講じる中で、幅広い関係機関から参加を得ることができた。</p>
<p>5 生活支援コーディネーター体制構築事業</p>	<p>所管部署 地域福祉部</p>	
<p>(1) 市町村における生活支援体制整備支援（県生活支援体制推進コーディネーターの設置） ア 市町村が設置する生活支援コーディネーターへの指導・助言、相談対応 イ 高齢者支援に係る担い手の育成・研修についての支援 ウ その他、市町村が設置する生活支援コーディネーターへの支援</p>	<p>県生活支援体制推進コーディネーターを設置し、市町村が設置する生活支援コーディネーターへの指導・助言・相談対応や高齢者の支援にかかる担い手の育成・研修についての支援など、市町村が実施する生活支援体制整備について支援を行った。 ① 市町村が設置する生活支援コーディネーターへの指導・助言・相談 〈相談件数〉（実件数） 69件 〈相談内容〉（延べ件数） 224件 ・協議体の運営方法について 20件 ・生活支援コーディネーターの選任について 8件 ・地域ニーズの見える化、問題提起 33件 ・地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけについて 44件 ・関係者のネットワーク化について 35件</p>	<p>生活支援体制を整備することを目的として市町村に配置された生活支援コーディネーターの人材育成及び資質向上を図ることにより、地域住民が主体的に関わりながら地域課題を解決する地域包括ケアシステムの構築に資することができた。</p>

5	生活支援コーディネーター体制構築事業	所管部署	地域福祉部
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>エ その他、市町村が設置する協議体への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す地域の姿・方針の共有・意識の統一について 44件 ・ 生活支援の担い手の養成やサービス開発について 20件 ・ ニーズとサービスのマッチングについて 11件 ・ その他 9件 <p>② 高齢者の支援に係る担い手の育成・研修についての支援 〈研修支援回数〉 5回 〈市町村等数〉 2市2町1村</p> <p>③ その他、市町村が設置する生活支援コーディネーターの支援等 〈訪問支援回数〉 17回（研修支援含む） 〈市町村等数〉 6市3町1村</p>		
<p>(2) 生活支援コーディネーター養成研修の企画 ア 研修企画会議の開催（年2回） イ 県独自カリキュラムの作成 ウ 生活支援コーディネーターのネットワーク構築を目的とした情報交換会の立ち上げ支援</p>	<p>① 第1回研修企画会議 〈期 日〉 令和2年6月25日(木) 〈場 所〉 県社会福祉センター 7階 第3会議室 〈参加者数〉 13名 〈内 容〉 基礎編の内容検討、実践編の方向性について他</p> <p>② 第2回研修企画会議 〈期 日〉 令和2年10月2日(金) 〈場 所〉 県社会福祉センター 7階 第3会議室 〈参加者数〉 11名 〈内 容〉 実践編の内容検討他</p>		
<p>(3) 生活支援コーディネーター養成研修の開催 ア 基礎編の開催（年1回） イ 実践編の開催（年1回）</p>	<p>① 基礎編 〈期 日〉 令和2年8月20日(木) 〈場 所〉 県青少年会館 大ホール 〈参加者数〉 39名 〈内 容〉 行政説明「地域包括ケアシステム構築の推進に向けて」グループワーク 他</p> <p>② 実践編 〈期 日〉 令和2年11月17日(火)～18日(水) 〈場 所〉 かごしま県民交流センター 大ホール 〈参加者数〉 47名 〈内 容〉</p>		

<p>(4) 生活支援コーディネーター養成研修並びに活動の評価 ア 研修等評価会議の開催（年1回）</p>	<p>特別講義「生活支援コーディネーターが拓く『ホンモノの支え・合い』～新しいつながりを築くための“3つのポイント”～」 実践報告・グループワーク 他</p> <hr/> <p>生活支援コーディネーター養成研修や県生活支援体制推進コーディネーターの活動を分析評価し、今後の支援を効果的に展開することを目的とした「生活支援コーディネーター養成研修等評価会議」を開催した。 〈期 日〉 令和3年2月10日(水) 〈場 所〉 県社会福祉センター 7階 第3会議室 〈参加者数〉 12名 〈内 容〉 ・生活支援コーディネーター養成研修に関する分析及び評価 ・県生活支援体制推進コーディネーター活動実績及び評価 ・次年度の研修内容の検討</p>		
6	こどもイキイキ地域つながりプロジェクト事業	所管部署	地域福祉部
<p>〔モデル地区を設定〕 (1) 外出支援事業 ア ひきこもり等に関する調査・分析</p> <p>イ 子ども・若者支援ネットワーク会議の開催</p>	<p>モデル地区（1ヶ所）：湧水町</p> <p>湧水町内の民生委員・児童委員を対象に「ひきこもり・不登校児の把握に関するアンケート調査」を実施し、担当地区内における対象者数や対象世帯の状況、具体的な支援の状況等について把握するとともに、事業内容を検討するツールとして活用した。</p> <p>湧水町子育て支援連絡会の開催に併せて「子ども・若者支援ネットワーク会議」を開催した。 〈期 日〉 ①令和2年7月29日(水) ②令和2年12月14日(月) 〈会 場〉 湧水町シルバーケアセンター 〈参加者〉 湧水町社協、湧水町役場、湧水町内の子育て支援関係機関・団体等 〈内 容〉 ①本事業の概要説明及び社会福祉法人等への協力依頼 ②本事業の実施状況報告 等</p>	<p>事業実施にあたっては、湧水町をモデル地区に設定し、湧水町社協（湧水くらし・しごとサポートセンター）と連携して重点的に事業展開を図った。</p> <p>不登校や孤立・孤食等で悩んでいる子、ひきこもりやその傾向がある子の「孤立感の解消」と「生活のしづらさの軽減」につなげるために、地域住民や民生委員・児童委員、学校・教育委員会、社会福祉法人等の関係機関や団体と連携を図りながら、外出支援、居場所づくり支援、学習支援、仲間づくり支援を効果的に実施することができた。</p>	

6	こどもイキイキ地域つながりプロジェクト事業	所管部署	地域福祉部
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
<p>ウ アウトリーチから相談支援 ・生活支援</p>	<p>湧水町ひきこもり・不登校児に関する民生委員・児童委員連絡会を行い、「ひきこもり・不登校児の把握に関するアンケート調査」の結果に基づき、担当地区内における対象者の生活状況等について相互に情報を交換し、生活支援策等の検討を行った。 〈期 日〉 令和2年12月9日(水) 〈会 場〉 湧水町栗野中央公民館 〈参加者〉 湧水町社協, 湧水町内の民生委員・児童委員 〈内 容〉 ①担当地区における対象者の生活状況等の報告 ②生活支援策等の検討等</p>		
<p>(2) 居場所づくり支援事業 ア 虐待・貧困・孤立に関する セミナー等の開催</p> <p>イ 居場所づくり支援者の養成</p>	<p>地域住民等を対象として、子どもの虐待や貧困、孤立について理解を深め、支援のための地域の関わり方について考えることを目的に「子どもの未来応援セミナーin湧水町」を開催した。 〈イベント名〉 子どもの未来応援セミナーin湧水町 〈期 日〉 令和3年2月27日(土) 〈会 場〉 湧水町栗野中央公民館 〈参加者〉 39名 〈内 容〉 講演：「子どもに寄り添う活動について」 (講師) ファミリーホーム富永さんち 代表 富永 正輝 氏 実践報告： 報告①「適応指導教室の活動について」 (報告者) 湧水町教育相談員 池田 イサ子 氏 報告②「子どもの居場所づくりの必要性について」 (報告者) 社会福祉士(「あさごはん食堂とみんなの居場所 SHIGETOMI」実行委員) 中村 紫穂 氏 報告③「湧水町における学習支援活動について」 (報告者) 湧水町社会福祉協議会 久木田 翔 氏</p> <p>令和2年9月24日(木)に開催した「子ども寄り添いボランティア養成講座」において、様々な困難(精神的・経済的)を抱えている子どもの「居場所」「拠り所」になるために支援者側としてどのような対応が必要か、支援のあり方について学ぶことができた。 ※参照 (3) 学習支援事業 ア 学習支援ボランティアの養成</p>		

<p>ウ 社会福祉法人との連携</p>	<p>湧水町内の子どもの関係機関・団体を訪問し、当事業の概要等の説明や協力依頼を行った。また、子育て支援連絡会を開催し、湧水町内における子育て関係機関・団体間の連携を図るとともに、子育て支援に関する課題等の共有化を図った。</p> <p>〈期 日〉 ① 令和2年7月29日(水) ② 令和2年12月14日(月)</p> <p>〈会 場〉 湧水町シルバーケアセンター</p> <p>〈参加者〉 湧水町社協, 湧水町役場, 湧水町内の子育て支援関係機関・団体等</p> <p>〈内 容〉 ①本事業の概要説明及び社会福祉法人等への協力依頼 ②本事業の実施状況報告 等</p> <p>※湧水町子育て支援連絡会の開催に併せて「子ども・若者支援ネットワーク会議」を開催した。</p>	
<p>(3) 学習支援事業 ア 学習支援ボランティアの養成</p> <p>イ 学びの場（機会）の創出</p>	<p>湧水町における学習支援の現状やボランティアについて基礎的な理解を深めることを目的に「子ども寄り添いボランティア養成講座」を開催した。</p> <p>〈期 日〉 令和2年9月24日(木)</p> <p>〈会 場〉 いきいきセンターくりの郷（湧水町）</p> <p>〈参加者〉 30名</p> <p>〈内 容〉 講義①：「子どもに寄り添う活動について～子どもの学習支援や居場所づくりについて～」 （講師）NPO法人ルネスかごしま 理事長 谷川 勝彦 氏 実践報告：「湧水町における子どもの学習・生活支援事業（生活困窮者自立支援事業）の実施状況について」 （報告者）湧水町社会福祉協議会 久木田 翔 氏 講義②：「子どもの居場所づくりの必要性について～不登校を経験した子どもの親として伝えたいこと～」 （講師）社会福祉士（「あさごはん食堂とみんなの居場所SHIGETOMI」実行委員） 中村 紫穂 氏</p> <p>よしまつふれあいの家内に、湧水くらし・しごとサポートセンターと共同で学習スペースを設置し、学習の場づくりとして活用した。また、湧水町社協と新たな学びの場の設置について検討を行った。</p>	

6	こどもイキイキ地域つながりプロジェクト事業	所管部署	地域福祉部
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>(4) 仲間づくり支援事業 ア 長期休暇における体験活動</p> <p>イ 地域活動への参画</p>	<p>湧水町の小・中学生を対象に、文化的経験・体験の機会を提供するため、夏・冬の長期休暇期間に体験活動を行った。</p> <p>〈期 日〉 夏：令和2年8月26日(水) 冬：令和2年12月19日(土)</p> <p>〈会 場〉 夏：湧水町シルバーケアセンター 冬：いきいきセンターくりの郷（湧水町）</p> <p>〈参加者〉 夏：34名 冬：23名</p> <p>〈内 容〉 夏：非常用炊き出し体験，工作活動，車椅子・アイマスク体験，バーベキュー 冬：ハーバリウムづくり，手話講習会</p> <p>令和2年8月26日(水)に実施した夏の体験活動において、非常用炊き出し体験や車椅子・アイマスク体験活動を通して、社会性を身に付けるとともに、ボランティア活動や社会貢献活動への関心を高め、地域活動への参画につながるきっかけを作ることができた。</p>		
<p>(5) 事業実施地区（令和元年度） のフォローアップ</p>	<p>令和元年度に当事業のモデル地区に指定したさつま町社協へのフォローアップを行った。さつま町社協とともに、冬の体験活動で同町内の小学生を対象に書道教室を開催した。</p>		
7	地域包括支援体制人材育成事業	所管部署	地域福祉部
<p>(1) 既存の相談員を対象とした相談支援包括化推進員の育成 ア 福祉分野の横断的な連携を図るため、他制度の政策を学ぶ研修会の開催 イ 包括的な相談支援を行っている先進県のコーディネーター等を講師に招いた講義 ウ グループワーク等の実践形式での研修会</p> <p>(2) 地域包括支援体制の整備に向けた各市町村の検討会（ワーキンググループ）の支援</p>	<p>市町村が、複合化・複雑化した課題や制度と制度の狭間の問題を抱える世帯に対する多機関・多分野協働による包括的相談支援体制を構築する上で、市町村において必要となる人材（相談支援包括化推進員）を育成することを目的に、北薩地区、南薩地区及び大隅地区の3地区で、「鹿児島県相談支援包括化推進員養成講座（全6回）」を次のとおり開催した。</p> <p>〈第1回〉 北薩（8/21）、南薩（8/27）、大隅（10/29） 講義①：記念講演「生活困窮・社会的孤立者に対する相談支援」 演習①：グループワーク「同上」 〈第2回〉 北薩（9/3）、南薩（9/16）、大隅（9/28） 講義②：「権利擁護について考える」 講義③：「地域包括ケアシステム・地域共生社会の実現」 演習②：「複合的な困難事例検討（高齢）」</p>	<p>福祉ニーズの多様化・複雑化に伴い、複合的な課題を有する要援護者に対する、包括的な相談から見立て、支援調整の組立て、地域資源の開発等を市町村単位で総合的に行うことのできる包括的相談支援体制の構築を促進することができた。</p> <p>全課程修了者65人（北薩地区25人、南薩地区9人、大隅地区31人）へ修了証書を交付し、全課程を修了できなかった受講者には受講証明書を発行した。</p>	

	<p>〈第3回〉 北薩 (11/11), 南薩 (11/16), 大隅 (11/25) 講義④:「障害者の地域生活と地域移行」 講義⑤:「相談業務から見たひきこもりへの対応」 演習③:「複合的な困難事例検討(障害)」</p> <p>〈第4回〉 北薩 (12/4), 南薩 (12/8), 大隅 (12/22) 講義⑥:「ライフステージにおける児童福祉と母子保健」 講義⑦:「発達障害への理解」 演習④:「複合的な困難事例検討(児童)」</p> <p>〈第5回〉 北薩 (1/13), 南薩 (1/20), 大隅 (1/29) 演習⑤:「これからの「まちづくり」を考えるいくつかのヒント」 演習⑥:「経験から生まれる地域支え合い」</p> <p>〈第6回〉 北薩 (2/15), 南薩 (2/5), 大隅 (2/3) 演習⑦:「コミュニティワーク「支え合いマップ」」 演習⑧:「講座のまとめ・目標設定」</p>	
--	--	--

Ⅲ ボランティア活動の促進				
1	県ボランティアセンターの運営	所管部署	ボランティアセンター	
令和2年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等
(1)	県ボランティアコーディネーターの設置	<p>県ボランティアセンター事業の推進を図るため、ボランティアコーディネーターを設置し、来所や電話でのボランティア相談に対応したほか、各種研修会の企画実施、市町村社協が主催するボランティア講座への支援、市町村社協ボランティア担当職員の研修等での指導助言を行った。</p> <p>また、令和2年7月豪雨による災害では、熊本県社協と八代市社協が設置した災害ボランティアセンターの運営支援及び応援職員の派遣調整等を行った。さらに、同豪雨による県内の状況把握に努めるとともに、被害の大きかった鹿屋市社協への物資支援を行った。</p> <p>注) 被災地支援ほか災害対応関連の取組については(5)に掲載。</p>		<p>多様な相談への対応や各種研修の企画及び実施、各団体が実施するボランティア講座等の支援を行うことを通じて、ボランティアへの理解と関心を高めることにつながった。</p> <p>また、被災地災害ボランティアセンターの支援にあたっては、県、九州各県・指定都市社協、県下市町村社協及び全国規模で活動する災害支援NPO等と連絡を図るなどし、平時の関係構築の成果を生かすことができた。</p>
(2)	福祉救援ボランティア活動連絡会の開催 (1回)	<p>県内外で大規模災害が発生した場合の福祉救援活動・災害ボランティア活動支援を迅速かつ効果的に行えるように、関係機関団体等の平常時や災害時の取組の情報共有、関係者間の顔の見える関係づくりなどを図るための連絡会を次のとおり開催した。</p> <p>〈日時〉 令和3年2月1日(月) 13:30~15:00</p> <p>〈会場〉 県社会福祉センター7階 第3会議室</p> <p>〈内容〉 ア 令和2年度の県社協災害ボランティア活動支援等の取り組みについて イ 災害ボランティアセンターに係る制度見直しや感染防止対策指針等について ウ 出席団体における防災・被災者支援等の取り組みについて エ その他情報交換</p> <p>〈出席者〉 県災害対策課、県社会福祉課、日本赤十字社県支部、県共同募金会、日本防災士会県支部、日本青年会議所九州地区鹿児島ブロック協議会、県生活協同組合連合会、県社会福祉士会の8機関10人</p>		<p>平時において、災害が発生した際の取組や連携等について、関係機関団体等との情報共有が図られたとともに、令和2年の災害で生じた被災地への円滑な応援など各機関団体との有機的な連携につながった。</p>

<p>(3) 県総合防災訓練，桜島火山爆発総合防災訓練への参加 (各1回) ア 県総合防災訓練（奄美市） イ 桜島火山爆発総合防災訓練（鹿児島市）</p>	<p>県総合防災訓練については，奄美市社協と次の内容で準備を進めていたが，新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止となった。</p> <p>① 県総合防災訓練 〈日 時〉 令和2年5月17日(日)午前9時から午前12時00分まで 〈会 場〉 奄美市の名瀬公民館金久分館ほか 〈実施予定案〉 災害ボランティアセンター設置・運営訓練 ボランティア受付，ボランティア活動保険加入手続き，ニーズ受付，マッチング，ボランティア派遣，仮設避難所での支援活動訓練，障害者や外国人等災害時要配慮者等への対応訓練等</p> <p>② 桜島火山爆発総合防災訓練への参加 鹿児島市が主催する桜島火山爆発総合防災訓練に参加し，鹿児島市社協が設置する災害ボランティアセンターの設置運営訓練にかかる訓練資材の貸出し及び当日の運営支援を行った。 なお，今回の訓練は感染拡大防止のため参加人数の制限が設けられ，この訓練には，鹿児島市社協と県社協のみの参加となった。</p> <p>〈日 時〉 令和3年1月9日(土)午前9時から午後12時30分まで 〈会 場〉 鹿児島市立城西中学校グラウンド 〈参 加 者〉 20人（鹿児島市社協及び県社協のみ） 〈実施内容〉 災害ボランティアセンター設置・運営訓練 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮したボランティア受付，ボランティア活動保険加入手続き，ニーズ受付，マッチング，ボランティア派遣，仮設避難所での支援活動訓練，県内在留外国人対応など</p>	<p>桜島火山爆発総合防災訓練の実施については，人数制限はあったものの，新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した災害ボランティアセンター設置・運営訓練が実施できたことで，三密・滞留等の回避といった課題に，工夫改善すべき点があることがわかった。</p> <p>また，訓練参加者は多くの役割を体験できたことから，災害時に多くの役割を担える人材育成につながった。</p> <p>参加者数：前年度比 △105人</p>
<p>(4) 指導・連絡・研修</p>	<p>市町村社協及び行政，教育委員会等が行うボランティア講座等（研修会，委員会）へ出席要請を受け，助言指導等を行った。</p> <p>〈講座等出席回数〉 計14講座 〈上 記 の 内 訳〉 市町村社協等の講座11回，その他の講座3回</p>	<p>コロナ禍により中止が相次ぐ中，感染拡大防止に配慮しながら，ボランティア活動への理解と関心を高める貴重な機会を生かすことができた。</p> <p>・出席回数：前年度比 11回減</p>

1 県ボランティアセンターの運営		所管部署	ボランティアセンター			
令和2年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等			
(5) 被災地支援ほか災害対応関連の取り組み	<p>令和2年度に発生した災害関連への対応や環境整備等にあたっては、市町村社協や関係団体等と連携を図りながら次のとおり行った。</p> <p>① 令和2年7月豪雨に伴う被災地への人的支援 九州ブロック社会福祉協議会災害時相互応援協定に基づき、県内市町村社協と連携し、熊本県社協及び八代市社協が設置した災害ボランティアセンターの運営支援のため、次のとおり応援職員を派遣した。</p>		<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県外からの支援が得られにくい中、県内外の被災地域の復旧・復興に寄与することが出来た。</p>			
	ケル	派遣期間		県社協	市町村社協	派遣先の災害VC
	①	7月26日(月)～30日(木)		1人	－人	熊本県災害VC
	②	8月3日(月)～7日(金)		－人	1人(曾於市)	八代市災害VC
	③	8月7日(金)～11日(火)		1人	－人	熊本県災害VC
	合 計			2人	1人	
	② 令和2年7月豪雨に伴う被災地への物的支援					
		物資提供先		物資の内容		
	7/13 (月)	熊本県社会福祉法人経営者協議会 (鹿児島県社会福祉法人経営者協議会を通して)		被災福祉施設への支援物資として 2ℓ水120本		
	7/15 (水)	鹿屋市社会福祉協議会 (県ボラセンから直接渡し)		ボランティア活動用資材として、フェイスガード40枚・ ゴム手袋2箱・500ml手指消毒液6本・2ℓ水60本		
7/18 (土)	人吉青年会議所 (青年会議所鹿児島ブロック協議会を通して)	被災地支援物資として 2ℓ水48本				
7/26 (日)	八代市災害ボランティアセンター (県ボラセンから直接渡し)	ボランティア活動用資材として 2ℓ水60本				

	<p>③ その他（企業・団体との連携等）</p> <p>ア 青年会議所と地区社協連絡協議会又は市町村社協との間で、災害支援体制構築のため推進する災害時応援協定の締結について、令和2年度は奄美大島青年会議所と大島地区社協連絡協議会との協定を働きかけ、令和3年2月16日(火)に締結に至った。</p>	<p>青年会議所との協定については、残り2市を残すのみとなった。</p>
	<p>イ 令和2年12月18日(金)にオンライン形式で開催された内閣府主催の「災害ボランティア連携・協働研修会～官民の多様な支援主体の連携・協働に向けて～（鹿児島県）」の中で、社協災害ボランティアセンターの歩みと機能強化等の取り組みについて説明を行った。</p>	<p>内閣府主催の研修会のため、市町村行政からの参加も多く社協の災害支援をアピールする機会となった。</p>
	<p>ウ 震災がつなぐ全国ネットワークとの共催により「移動寺小屋 in鹿児島～技術系ボランティア・NPOから水害時の取り組みを学ぶ～」を次のとおり開催した。</p> <p>〔日 時〕 令和3年2月24日(水) 午前10時30分から午後4時まで</p> <p>〔会 場〕 県青少年会館1階大ホール及び隣接ピロティ</p> <p>〔参加者数〕 37人（市町村社協、市町村行政、ボランティア・NPO、医療関係）</p> <p>〔講 師〕 災害対応NPO・MFP代表 松山文紀 氏 NPO法人災害救援レスキューアシスト 代表理事 中島武志 氏</p> <p>〔内 容〕 趣旨説明・震災がつなぐ全国ネットワークの紹介 講義（水害に遭うということ、水害後の生活再建までのタイムライン、被災家屋への対応） 模擬キットを使っての実践講習（和室・洋室） ふりかえり（質疑応答含む）</p>	<p>九州初開催となる災害技術系ボランティアの講習会であったことから、県内各地の幅広い分野から参加が得られた。</p>
	<p>エ その他企業・団体等からボランティアセンターに寄贈等の申出のあったもので、災害時に活用できる物品について、積極的に受け入れを行った。</p>	<p>災害時に要する寄贈物品受入実績は以下のとおり。</p> <p>①九州電力鹿児島支店 ・長期保存水（2ℓ） 348本 ・長期保存食 768食</p> <p>②生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会鹿児島県協会 ・非接触型体温計10個</p>

2 福祉教育推進事業	事業実施概要等	所管部署 ボランティアセンター																								
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																								
<p>(1) 児童・生徒のふれあいボランティア活動啓発促進事業</p> <p>ア 未導入市町村社協への導入促進</p> <p>イ 導入済社協連絡会の開催 (1回)</p> <p>ウ ポイントカード・スタンプの作成配布</p>	<p>地域における児童・生徒の様々なボランティア活動にスタンプを付与し、スタンプが一定量貯まると活動認定証を交付する取組を普及啓発するため、スタンプを400個、カードを小学校用15,000枚と中学校・高校用15,000枚作成し、実施市町村社協へ配布した。</p> <p>また、未導入の市町村社協へ導入を促すための働きかけを行うとともに、「児童・生徒のふれあいボランティア活動事業担当者連絡会」を次のとおり行った。</p> <p>① 導入促進 延べ11市町を訪問して働きかけた結果、令和2年度から新たに出水市、奄美市、錦江町及び屋久島町の4社協が導入を決め、令和2年度中に事業を開始した。</p> <p>② 連絡会 ア 日 時：令和3年1月28日(木)午後1時30分～午後4時 イ 会 場：県社会福祉センター7階 第3会議室 ウ 参加社協：実施社協14か所、導入検討中社協3か所 エ 内 容： (ア) 講義：福祉教育推進事業のねらいと本事業の推進方法について (イ) パネルディスカッション ・児童・生徒のふれあいボランティア活動の効果的な取り組みについて ・他関係機関との連携、広報、啓発活動のあり方等 (ウ) まとめ（県社会福祉課、ボランティアセンター）</p> <p>③ 活動認定証の交付状況（単位：人）</p> <table border="1" data-bbox="725 1074 1550 1235"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>小学生</th> <th>中学生</th> <th>義務教育学校</th> <th>高校生</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>前年度までの累計 A</td> <td>2,979</td> <td>272</td> <td>7</td> <td>289</td> <td>3,547</td> </tr> <tr> <td>令和2年度実績 B</td> <td>668</td> <td>16</td> <td>7</td> <td>18</td> <td>709</td> </tr> <tr> <td>交付総数 (A+B)</td> <td>3,647</td> <td>288</td> <td>14</td> <td>307</td> <td>4,256</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	小学生	中学生	義務教育学校	高校生	合 計	前年度までの累計 A	2,979	272	7	289	3,547	令和2年度実績 B	668	16	7	18	709	交付総数 (A+B)	3,647	288	14	307	4,256	<p>導入促進に向けて積極的に働き掛けたことで、この事業を導入する社協が24社協から28社協に増えた。</p> <p>また、コロナ禍ではあったものの、活動認定証の交付も順調に推移しており、児童生徒がボランティア活動を行いやすい環境づくりにつながった。</p> <div data-bbox="1570 603 2009 1090" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>既導入社協（24社協）</p> <p>鹿児島市、薩摩川内市、伊佐市、垂水市、日置市、南さつま市、南大隅町、始良市、志布志市、さつま町、霧島市、西之表市、龍郷町、伊仙町、天城町、喜界町、肝付町、鹿屋市、湧水町、南九州市、阿久根市、曾於市、中種子町、南種子町</p> <p>新規導入社協（4社協）</p> <p>出水市、奄美市、錦江町、屋久島町</p> </div>
区 分	小学生	中学生	義務教育学校	高校生	合 計																					
前年度までの累計 A	2,979	272	7	289	3,547																					
令和2年度実績 B	668	16	7	18	709																					
交付総数 (A+B)	3,647	288	14	307	4,256																					
<p>(2) 大学・短大生等ボランティア連携促進事業</p> <p>ア 学生ボランティア交流会 (1回)</p>	<p>① 学生ボランティア交流会の開催 県内の大学・短大生等のボランティア活動の更なる活性化と連携・協働の促進を図るため、交流イベントの開催希望のあった鹿児島国際大学で次のとおり実施した。</p>	<p>コロナ禍で学生が登校せず学生の動向が掴めない中、大学側もボランティア活動に関する学びや交流の機会を確保したい意</p>																								

<p>イ 大学・短大ボランティア支援担当部署との情報交換の実施 (1回)</p>	<p>〈交流会名〉 鹿児島国際大学ボランティア研修・交流会 〈日 時〉 令和3年1月27日(水) 午後1時～午後4時 〈会 場〉 鹿児島国際大学 2号館225教室及びフィールドハウス 〈参加人員〉 49人 (学生46, 大学職員3人) 〈講 師〉 鹿児島パラアスリートクラブ代表 福水優士 氏 県障害者自立交流センター企画係長 丸野奈央 氏 〈内 容〉 ア 開会挨拶及び趣旨説明 イ 障害者スポーツ概論 (座学) ウ 視覚障害者の伴走研修・パラスポーツ「ボッチャ」研修 (実技) エ 障害者スポーツボランティアについてのまとめ</p> <hr/> <p>② 大学・短大ボランティア担当職員意見交換会 大学・短大生のボランティア活動の活性化を図るため、大学・短大ボランティア支援担当職員との意見交換会を次のとおり行った。 〈日 時〉 令和2年8月7日(金) 午後2時～午後3時30分 〈会 場〉 県社会福祉センター7階 第3会議室 〈内 容〉 ア 学生ボランティア交流会について (前年度報告・今年度交流の提案等) イ ボランティア活動を行う学生に対する支援についての情報交換等 〈参加大学〉 鹿児島大学, 鹿屋体育大学, 鹿児島国際大学, 第一工業大学, 志学館大学, 鹿児島純心女子大学, 鹿児島純心女子短期大学, 第一幼児教育短期大学の8大学から8人</p>	<p>向を持っており、鹿児島国際大学以外の複数の大学からも交流会実施希望や打診等があったところであるが、新型コロナウイルス感染再拡大により、実施が見送られた。</p>
<p>(3) 福祉教育推進セミナー(1回) (介護実習・普及センターとの共管事業)</p>	<p>教育・福祉関係従事者、地域住民など幅広い関係者による福祉教育の多様な取り組みを推進し、心豊かな子どもたちの育みや地域の福祉力向上を図るため、次のとおり開催した。 〈日 時〉 令和2年11月17日(火) 午後1時～午後4時30分 〈会 場〉 県民交流センター東棟3階「大研修室第1」 〈参加者〉 32人 (市町村教委, 学校教諭, 市町村社協職員, 児童委員, NPO等) 〈内 容〉 行政説明「文部科学省が提唱している『地域学校協働活動』の解説及び本県の福祉教育の現状等について」 説明者：鹿児島県教育委員会社会教育課社会教育主事兼専門員 橋口盛文 氏</p>	<p>学校教諭や教育委員会、市町村社協職員及び児童委員などから参加が得られ、幅広い関係者が一体となって福祉教育の推進や連携のあり方について理解を深めることに繋がった。 ・参加者数：前年度比 △10人</p>

2 福祉教育推進事業	事業実施概要等	所管部署	ボランティアセンター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
	<p>事例発表「薩摩川内市の福祉教育の取り組み ～認知症体験者養成講座を通して～」 発表者：薩摩川内市協地域包括支援課保健師 宮田保江 氏 講演「新型コロナウイルス感染症と人権」 講師：きいれ浜田クリニック院長 濱田 努 氏 介護実習・普及センターの事業紹介 まとめ「本日のセミナーを振り返って」</p>		
3 養成・研修事業		所管部署	ボランティアセンター
<p>(1) ボランティアコーディネーター・ボランティア担当職員セミナー (1回)</p>	<p>ボランティア活動団体・NPO団体及び福祉関係団体等との連絡調整、活動プログラムの企画や需給調整、各種ボランティア活動者の養成及び災害対応等を担うボランティアコーディネーター・担当職員の資質向上等を図るため、次のとおり開催した。 〈日時〉令和2年11月5日(木)～6日(金) 〈会場〉ホテルリブマックス鹿児島2階「ピコットホール」 〈参加者〉市町村社協ボランティアコーディネーター及びボランティア担当職員30人 〈内容〉 【1日目】 説明Ⅰ「コロナ禍における災害ボランティアセンターの各種指針について」 説明者：県社協ボランティアセンター所長 講演「災害VCと技術系ボランティア・NPOとの連携」 講師：災害対応NPO MFP代表 松山文紀 氏 【2日目】 セッション「コロナ禍の中で災害ボランティア活動を支援して」 発表者：曾於市社協地域福祉課長 新川好敏 氏 出水市社協事業課長 前田雅樹 氏 鹿屋市社協地域福祉課長補佐 富松謙一 氏 助言者：災害対応NPO MFP代表 松山文紀 氏 進行：県社協ボランティアセンター所長 説明Ⅱ「災害VCに係る一部経費の国庫負担化と協定・委託契約等について」 説明者：県社協ボランティアセンター所長</p>		<p>感染拡大防止に留意しながら被災者支援活動を行うことの難しさを浮き彫りにした令和2年7月豪雨災害の教訓から、社協ボランティアセンターが取り組むべき課題や社協以外の民間セクターとの連携協働のあり方について理解を深めることにつながった。 ・参加者数：前年度比 +4人</p>
<p>(2) シニアボランティア講座 (1回)</p>	<p>シニア層が長年培ってきた豊かな経験や知識、趣味などをボランティア活動に活かしてもらうため、ボランティア活動の最新情報や現に活動するシニア層のボランティア活動事例を紹介し、ボランテ</p>		<p>ボランティア活動の担い手として期待のかかるシニア層に向けて、地域活動や観光分野の活</p>

	<p>ィア活動への参画を促す機会となるよう次のとおり開催した。 なお、講座の対象者がシニア層であることから、定員を例年の3割減とするなど、特に新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した。 〈日 時〉 令和2年12月4日(金)午後1時～午後4時30分 〈会 場〉 ホテルウェルビュー鹿児島3階 桜島 〈参加者〉 26人 〈内 容〉 講 義:「シニアボランティアの意義と役割について」 講 師:県社協ボランティアセンター所長 実践事例紹介Ⅰ:霧島市「上小川はつらつ会」池田まゆみ 氏 実践事例紹介Ⅱ:日置市「駅前あやめ会」池満久代 氏 活動の場の紹介:鹿児島市「観光ボランティアの取り組み」野入太 氏 振り返り:講座のまとめ及び質疑応答 進行:県社協ボランティアセンター推進員</p>	<p>動など多様な取組を紹介することで、ボランティア活動への理解を深めることに繋がった。 ・参加者数:前年度比 △9人</p>
<p>(3) 災害ボランティアセンター 運営支援者養成講習会 (1回)</p>	<p>災害ボランティア活動に関心のある方や地域のボランティアリーダー等を対象に、災害発生時にボランティアセンター運営を支援するボランティア養成のための講習会を次のとおり開催した。 なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、定員を例年の半数ほどに制限し、またグループワークでは受講者全員にマスク、フェイスシールド等を装着するなどして実施した。 〈日 時〉 令和2年6月29日(月) 午前9時55分～午後3時30分 〈会 場〉 県社会福祉センター7階 第3会議室及び大会議室 〈受講者数〉 市町村行政職員、市町村社協職員、民生委員児童委員ボランティア等 22人(修了者数22人) 〈内 容〉 講義Ⅰ:「災害ボランティアセンターとは“歴史の変遷、被災者支援の基本的理解等”」 講義Ⅱ:「災害VCを支えるために～コロナ禍における色々な運営支援の形を考える～」 ワーク:「“新型コロナウイルス感染症対策を加味した”避難所 HUG」 ※上記内容の指導者は全て県社協ボランティアセンター所長</p>	<p>災害ボランティアの歴史的変遷、被災者支援の基本的な考え方、支援活動の流れなどの基礎的知識から、ボランティア活動者や災害ボランティアセンター運営者向けに出された最新の感染防止対策指針まで、幅広い知識を持つ運営支援者の養成につながった。 ・修了者数:前年度比 △18人</p>
<p>4 広報啓発事業</p>	<p>所管部署 ボランティアセンター</p>	
<p>(1) 啓発用物品の整備・提供 ア ボランティア手帳の発行 (発行部数2,000部)</p>	<p>市町村社協等が開催するボランティア講座や研修会用資料として、また、学校でのボランティア学習用として、新たに掲載内容を更新した「私のボランティア手帳」を4,000部を作成し、市町村社協等へ配布した。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、講義やテキストを使った講座スタイル等が多かったことなどが影響し、手帳の需要が当初の見込みを上回った。</p>

4 広報啓発事業		所管部署	ボランティアセンター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
イ 啓発用物品の貸出・整備等	<p>ボランティア学習・介護体験講座等に使用する疑似体験セット、車椅子、アイマスク等の貸し出しについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月9日から令和3年2月21日まで貸し出しを停止した。〔貸出数量：36個〕</p> <p>なお、令和2年2月22日からの貸し出し再開にあたっては、貸し出し数量をそれぞれ10までに制限するとともに、利用者間隔の確保や検温、手指消毒、マスク着用、使用後の清拭等を遵守してもらうため、新たに誓約書の提出を義務づけた。</p>	<p>疑似体験セットなどの装具は、交互に身に付けあったり、装着を補助しあったりする。また、学校では学級・学年単位で使用するケースも多いことから、大人数での使用を抑制するなど感染リスクの低減を優先した。</p> <p>(対前年度比564個減)</p>	
ウ ボランティアルーム・コーナーの提供	<p>③ ボランティアルーム・コーナー（会議室）の提供</p> <p>ボランティアグループ等の活動の利便性を確保するため、同グループ等が行う研修会や講習会、打合せ等の場に活用できる会議室を提供した。</p> <p>ボランティアルーム：利用回数 85回、利用人員502人 ボランティアコーナー：利用回数108回、利用人員309人</p>	<p>ボランティアルーム 利用回数：前年度比 +21回 利用人員：前年度比 +94人</p> <p>ボランティアコーナー 利用回数：前年度比 △ 9回 利用人員：前年度比 △21人</p>	
(2) 広報紙・ホームページ等による情報提供	<p>① 広報紙の発行（年6回）</p> <p>県社協広報紙「ふくしのひろば」にボランティアセンターが行う事業や県内のボランティア・市民活動の様子、災害ボランティア活動支援の状況など最新のボランティア関連記事を掲載し、広報に努めた。</p> <p>〈部数〉 13,700部×6回 〈配布先〉 市町村社協、市町村、学校、銀行、病院、その他関係機関・団体等</p> <p>② その他WEBによる情報提供</p> <p>県社協ホームページ内に、ボランティア活動に関する活動種別や内容等の基本的事項を常時掲載するとともに、助成金情報や市町村社協に登録するボランティア団体等の情報を更新するなど情報発信に努めた。</p>	<p>広報紙で活動事例等を紹介することで、県民やボランティア活動団体等への啓発や活動の推進が図られた。</p> <p>また、検索性や即時性の高い情報をウェブで情報提供することで、迅速かつ効率的な情報提供が図られた。</p>	
(3) その他 ア サマーボランティア体験月間の実施	<p>① サマーボランティア体験月間（7月～8月）</p> <p>地域や社会福祉施設等でのボランティア・介護体験等をとおして、県民のボランティア活動への理解と関心を深めるとともに、ボランティア活動への参加のきっかけづくりとするため、「サマーボランティア体験月間」の実施を呼びかけたところであるが、</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大により、福祉施設やサロンといった主な体験先の受入れが困難になる中、8社協が感染拡大防止に配慮した体験プログラムを実</p>	

	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんどが活動中止となった。また、実施した社協のプログラム内容も人との接触機会の少ないものがほとんどとなった。</p> <p>〈内 容〉プログラム数：11件（県内8市町村社協が実施）</p> <p>〔 認知症サポーター養成講座，災害炊き出し訓練，防災講座，ボランティア講習，市街地周辺の清掃活動，手話による伝言ゲーム，福祉・ボランティアについて考える個人ワーク等 〕</p> <p>〈参加者数〉202人 (男82人・女120人，小学生計65人，中学生計68人，高校生計11人，その他大学生から社会人等58人)</p>	<p>施するなどボランティア体験機会の確保に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム件数：前年度比△188件 ・実施市町村数：前年度比△21社協 ・参加者総数：前年度比△3,325人 															
<p>イ ボランティアTシャツ等の頒布</p>	<p>② ボランティアTシャツ・半袖ポロシャツの頒布</p> <p>ボランティアTシャツと半袖ポロシャツを製作し、有料頒布した。また、令和2年に発生した災害による被災者支援に役立ててもらうため、頒布益金から総額20万円を次のとおり寄付した。</p> <p>〈頒布着数〉Tシャツ…463着，半袖ポロシャツ…3,389着</p> <p>〈義 援 金〉…100,000円〔令和2年7月豪雨災害義援金（鹿児島県共同募金会へ）〕</p> <p>〈支 援 金〉…100,000円〔令和2年7月豪雨に伴う災害ボランティア活動支援金（熊本県社会福祉協議会へ）〕</p>	<p>ボランティア活動等に対する普及啓発が図られた。また、収益の一部を令和2年7月豪雨災害の被災者及び支援団体に、義援金並びに活動支援金として寄付することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頒布着数：前年度比Tシャツ△23着，ポロシャツ+843着 															
<p>ウ 届け!!みんなの使用済み切手 (使用済み切手でボランティア)</p>	<p>県内の事業所や個人等から寄せられた使用済み切手を換金・積み立てた財源をもとに、令和2年度に本県で開催予定だった「全国障害者スポーツ大会」参加アスリートのための宿泊支援用具（シャワーチェアやバスボード等）を提供することで準備を進めていたが、令和5（2023）年に延期となったため、これらの提供を見送ることとなった。</p> <p>なお、令和2年度までの換金実績及び累計額は次のとおりであり、令和5年に本県で開催される「特別全国障害者スポーツ大会」まで積み立てることとしている。</p> <table border="1" data-bbox="667 1150 1550 1394"> <thead> <tr> <th></th> <th>換金額 A</th> <th>換金累計額 B</th> <th>支出額 C</th> <th>残 額 D (B-C) (翌年度への繰越額)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>106,000円</td> <td>106,000円</td> <td>0円</td> <td>106,000円</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>46,175円</td> <td>152,175円</td> <td>0円</td> <td>152,175円</td> </tr> </tbody> </table>		換金額 A	換金累計額 B	支出額 C	残 額 D (B-C) (翌年度への繰越額)	令和元年度	106,000円	106,000円	0円	106,000円	令和2年度	46,175円	152,175円	0円	152,175円	<p>使用済み切手集めがボランティア活動に繋がることが徐々に県民に浸透しつつある。今後も「いつでも・どこでも・だれでも」できるボランティアとして、多くの県民に周知を図ることとしたい。</p>
	換金額 A	換金累計額 B	支出額 C	残 額 D (B-C) (翌年度への繰越額)													
令和元年度	106,000円	106,000円	0円	106,000円													
令和2年度	46,175円	152,175円	0円	152,175円													

5 市町村ボランティアセンターの活動促進		所管部署	ボランティアセンター																									
令和2年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等																									
(1) ボランティア活動保険加入促進事業（助成総額 1,000千円）	<p>ボランティア活動に安心して参加できるようボランティア活動保険の加入を促進するため、ボランティア活動保険の掛金の補助を行っている市町村社協に対し助成を行った。</p> <p>〈対象加入者数〉 13,404人（20市町村社協）</p> <p>〈助成金額〉 1,000千円（@74.61円）</p> <p>〈助成対象期間〉 令和2年4月から令和2年5月までの2か月間</p> <p>〈助成条件等〉 1人あたり100円以上の助成を行う市町村社協</p>		<p>計画どおり1,000千円の助成を行い、ボランティア活動に安心して参加できる環境と掛金補助を行う市町村社協の財政支援に寄与した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入者数：前年度比△935人 ・市町村数：前年度比±0社協 																									
(2) ボランティア講座開催事業 ア 助成先 5市町村社協 イ 助成額 80千円上限 ／1か所あたり	<p>ボランティア活動への参加のきっかけづくりや地域のボランティアの掘り起こし、ボランティア活動リーダーの育成や組織化等を図るため、継続型（概ね4回以上）のボランティア講座を実施する市町村社協に事業費の一部を補助するとともに、講座の実施方法等について情報提供を行うなど支援した。</p> <p>〈助成額〉 80千円を上限／1か所あたり</p> <p>〈実施社協〉 5か所（実施状況は下表のとおり）</p>		<p>市町村社協のボランティア講座開催支援を通して、地域の実情に応じたボランティアの育成に寄与できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ参加者総数：前年度比△46人 																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>社協名</th> <th>講座内容等</th> <th>回数</th> <th>延参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日置市</td> <td>地域みんなが主役!! ボランティア養成講座 ～地域生活応援隊の養成～</td> <td>4回</td> <td>48人</td> </tr> <tr> <td>阿久根市</td> <td>「団塊世代」のボランティアグループ養成講座</td> <td>5回</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>曾於市</td> <td>曾於市ボランティア養成講座 ～傾聴人材の養成～</td> <td>4回</td> <td>91人</td> </tr> <tr> <td>薩摩川内市</td> <td>レッツコミュニケーション!子ども・子育て支援 ボランティア養成講座</td> <td>5回</td> <td>80人</td> </tr> <tr> <td>始良市</td> <td>手話体験講座</td> <td>5回</td> <td>92人</td> </tr> </tbody> </table>				社協名	講座内容等	回数	延参加者数	日置市	地域みんなが主役!! ボランティア養成講座 ～地域生活応援隊の養成～	4回	48人	阿久根市	「団塊世代」のボランティアグループ養成講座	5回	76人	曾於市	曾於市ボランティア養成講座 ～傾聴人材の養成～	4回	91人	薩摩川内市	レッツコミュニケーション!子ども・子育て支援 ボランティア養成講座	5回	80人	始良市	手話体験講座	5回	92人
社協名	講座内容等	回数	延参加者数																									
日置市	地域みんなが主役!! ボランティア養成講座 ～地域生活応援隊の養成～	4回	48人																									
阿久根市	「団塊世代」のボランティアグループ養成講座	5回	76人																									
曾於市	曾於市ボランティア養成講座 ～傾聴人材の養成～	4回	91人																									
薩摩川内市	レッツコミュニケーション!子ども・子育て支援 ボランティア養成講座	5回	80人																									
始良市	手話体験講座	5回	92人																									

IV 福祉相談活動の推進

1	相談センターにおける福祉相談業務の推進	所管部署	長寿社会推進部																																																																																								
令和2年度事業計画		事業実施概要等																																																																																									
		<p>鹿児島シルバー110番による相談 高齢者及びその家族が抱える心配ごと等の相談に対応するため、福祉相談員及び専門相談員による相談業務を実施した。 今年度の相談件数は527件で、相談実績概要は次のとおり</p> <p>[利用形態別相談状況]</p>																																																																																									
<table border="1"> <tr> <th>相談種目</th> <th>相談日</th> <th>相談員</th> </tr> <tr> <td>生活・福祉</td> <td>月～金</td> <td>福祉相談員</td> </tr> <tr> <td>健康・介護</td> <td>火・金/午後</td> <td>保健師</td> </tr> <tr> <td>医療</td> <td>第1・3水/午後</td> <td>医師</td> </tr> <tr> <td>年金</td> <td>第3水/午前</td> <td>社会保険労務士</td> </tr> <tr> <td>法律</td> <td>月・木/午後</td> <td>弁護士</td> </tr> <tr> <td>税金</td> <td>第3木/午前</td> <td>税理士</td> </tr> <tr> <td>住宅</td> <td>第2・4木/午前</td> <td>建築士</td> </tr> </table>		相談種目	相談日	相談員	生活・福祉	月～金	福祉相談員	健康・介護	火・金/午後	保健師	医療	第1・3水/午後	医師	年金	第3水/午前	社会保険労務士	法律	月・木/午後	弁護士	税金	第3木/午前	税理士	住宅	第2・4木/午前	建築士	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区 分</th> <th>相談件数</th> <th>構成比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談種別</td> <td>一般相談</td> <td>376</td> <td>71.3</td> </tr> <tr> <td>専門相談</td> <td>151</td> <td>28.7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">性 別</td> <td>男性</td> <td>151</td> <td>28.7</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>376</td> <td>71.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">方 法 別</td> <td>電話相談</td> <td>428</td> <td>81.2</td> </tr> <tr> <td>面接相談</td> <td>99</td> <td>18.8</td> </tr> <tr> <td>文書相談</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">相談者別</td> <td>本人</td> <td>374</td> <td>71.0</td> </tr> <tr> <td>家族</td> <td>116</td> <td>22.0</td> </tr> <tr> <td>知人等</td> <td>30</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td>各機関</td> <td>7</td> <td>1.3</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">地 域 別</td> <td>鹿児島市</td> <td>257</td> <td>48.8</td> </tr> <tr> <td>本土の鹿児島市以外の市</td> <td>139</td> <td>26.4</td> </tr> <tr> <td>本土の町村</td> <td>83</td> <td>15.7</td> </tr> <tr> <td>離島の市町村</td> <td>8</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>28</td> <td>5.3</td> </tr> <tr> <td>不詳</td> <td>12</td> <td>2.3</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合 計</td> <td>527</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>		区 分		相談件数	構成比 (%)	相談種別	一般相談	376	71.3	専門相談	151	28.7	性 別	男性	151	28.7	女性	376	71.3	方 法 別	電話相談	428	81.2	面接相談	99	18.8	文書相談	0	0	相談者別	本人	374	71.0	家族	116	22.0	知人等	30	5.7	各機関	7	1.3	地 域 別	鹿児島市	257	48.8	本土の鹿児島市以外の市	139	26.4	本土の町村	83	15.7	離島の市町村	8	1.5	県外	28	5.3	不詳	12	2.3	合 計		527	100.0
相談種目	相談日	相談員																																																																																									
生活・福祉	月～金	福祉相談員																																																																																									
健康・介護	火・金/午後	保健師																																																																																									
医療	第1・3水/午後	医師																																																																																									
年金	第3水/午前	社会保険労務士																																																																																									
法律	月・木/午後	弁護士																																																																																									
税金	第3木/午前	税理士																																																																																									
住宅	第2・4木/午前	建築士																																																																																									
区 分		相談件数	構成比 (%)																																																																																								
相談種別	一般相談	376	71.3																																																																																								
	専門相談	151	28.7																																																																																								
性 別	男性	151	28.7																																																																																								
	女性	376	71.3																																																																																								
方 法 別	電話相談	428	81.2																																																																																								
	面接相談	99	18.8																																																																																								
	文書相談	0	0																																																																																								
相談者別	本人	374	71.0																																																																																								
	家族	116	22.0																																																																																								
	知人等	30	5.7																																																																																								
	各機関	7	1.3																																																																																								
地 域 別	鹿児島市	257	48.8																																																																																								
	本土の鹿児島市以外の市	139	26.4																																																																																								
	本土の町村	83	15.7																																																																																								
	離島の市町村	8	1.5																																																																																								
	県外	28	5.3																																																																																								
	不詳	12	2.3																																																																																								
合 計		527	100.0																																																																																								
		<p>相談件数は、前年度に比べ298件の減少となったが、依然として高齢者やその家族の抱える心配ごと等は多く、こうした問題の解決につなげることができた。</p> <p>(令和元年度実績 825件) 対前年度比 63.9%</p> <p>・相談件数：前年度比△298件</p>																																																																																									
		<p>[事項別相談状況]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>家族・家庭</th> <th>法 律</th> <th>経済・生活</th> <th>福祉サービス</th> <th>生きがいづくり</th> <th>保健・医療</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>149</td> <td>175</td> <td>32</td> <td>43</td> <td>6</td> <td>122</td> <td>527</td> </tr> <tr> <td>構成比%</td> <td>28.3</td> <td>33.2</td> <td>6.1</td> <td>8.2</td> <td>1.1</td> <td>23.1</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>		区 分	家族・家庭	法 律	経済・生活	福祉サービス	生きがいづくり	保健・医療	合 計	相談件数	149	175	32	43	6	122	527	構成比%	28.3	33.2	6.1	8.2	1.1	23.1	100																																																																
区 分	家族・家庭	法 律	経済・生活	福祉サービス	生きがいづくり	保健・医療	合 計																																																																																				
相談件数	149	175	32	43	6	122	527																																																																																				
構成比%	28.3	33.2	6.1	8.2	1.1	23.1	100																																																																																				

2	相談関係機関との連携及び相談体制の支援	所管部署	長寿社会推進部
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
<p>(1) 相談事業関係情報の収集・管理・提供</p>	<p>① 県社協広報紙「ふくしのひろば」(年6回発行, 発行部数各13,700部)に, 「シルバー110番」のページを設け, 高齢者福祉に関する情報等を掲載し, 福祉関係団体をはじめ, 医療, 教育, 金融, 警察等, 関係機関に配布した。</p> <p>② 鹿児島シルバー110番の周知と利用促進を図るため, パンフレット「鹿児島シルバー110番のご案内」, 冊子「各種相談窓口名簿」を関係機関に配布した。</p> <p>また, 県社会福祉センターの来館者及び各種研修会等の参加者にも配布した。</p>	<p>高齢者福祉に関する情報提供や鹿児島シルバー110番の周知と利用促進を図ることができた。</p>	
<p>(2) 市町村相談体制の支援</p>	<p>① 市町村における相談体制を支援するとともに, 相談員の資質向上を図るため, 心配ごと相談所, 地域包括支援センター, 市町村社会福祉協議会において相談業務に携わる職員等や民生委員を対象に「各種相談員研修会」を実施した。</p> <p>〈開催日〉 令和2年12月11日(金)</p> <p>〈会場〉 かごしま県民交流センター</p> <p>〈参加者〉 255人</p> <p>〈内容〉 講義1「地域福祉の現状と課題」 講義2「身近な法律問題」</p> <p>② 市町村の心配ごと相談所等の相談員等が相談業務を行う際の参考冊子「高齢者相談の手引き(第1巻)」を改訂し, 第2巻及び第3巻とともに, 要望のあった機関・団体等に配布した。</p>	<p>関係機関・団体の相談員の資質の向上を図り, 相談体制を支援することができた。</p>	

V 社会福祉施設・団体等の活動促進及びすこやか基金による活動助成等

1	社会福祉振興資金の貸付	所管部署	地域福祉部(施設)
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
民間社会福祉振興資金貸付事業		<p>社会福祉施設整備のための貸付資金について、本会広報紙に記事を掲載するなど周知に努めた。 なお、既貸付分の償還管理や残高照会など種々の問い合わせに適切に対応した。</p>	
〔民間社会福祉振興資金 年度別貸付・償還状況〕		<p>新規貸付については2件の借入相談があったが、貸付まで至らなかった。 既貸付分の償還状況は以下のとおり。</p>	
区分	貸付額(円)	償還計画額(円)	償還済額(円)
年度別	年度別	年度別	年度別
令和元年度	0 1,544,561,000	2,086,000	1,456,877,500
令和2年度	0 1,544,561,000	1,551,000	1,458,428,500

2	福祉施設経営指導事業	所管部署	地域福祉部(施設)
(1) 個別相談及び集団指導の実施 福祉施設経営相談コーナーを設置し、専任職員及び兼任指導員による社会福祉施設経営上の各種相談に応じるとともに、役職員を対象に研修を行う。		<p>公認会計士・税理士の専門家を配置し専門的な指導・助言により県下の社会福祉施設等の健全な運営に寄与できた。</p>	
ア 相談コーナーの運営		<p>① 相談内容は、会計税務 87件、定款諸規程 5件、施設整備 1件で、会計税務に関する相談が93.5%を占めた。(昨年度：95件) ② 施設別では、老人福祉施設 24件(41件)、障害者支援施設 23件(25件)、児童福祉施設6件(2件)、市町村社協等の他の施設 18件(5件)、法人本部22件(22件)となった。()内は昨年度実績。</p>	
区分	施設経営一般	会計税務	入所者待遇
			職員待遇
			安全防災
			衛生管理
			施設整備
			人材確保対策
			労使問題
			預かり金
			地域交流
			定款諸規程
			その他
			合計
訪問			
来所相談			1
電話文書	63		
集団指導	24		
合計	87		1

2	福祉施設経営指導事業	所管部署	地域福祉部(施設)								
令和2年度事業計画		具体的成果等									
		事業実施概要等									
<p>イ 研修会の実施 (7) 社会福祉法人会計研修(3回)</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、広い会場を使い、参加者数(定員)を抑えた形で、ソーシャルディスタンスを確保するとともに、マスク着用・手指消毒・検温等の予防策を講じた上で開催した。また、後半はオンライン併用とした。</p> <p>① 第1回会計研修 [令和2年 9月16日(水), 参加者118人] ② 第2回会計研修 (1) 鹿児島会場 [令和2年10月29日(木), 参加者108人] (2) 奄美会場 [令和2年11月17日(火), 参加者 44人] (※会場20人・オンライン 24人) ③ 第3回会計研修 [令和3年 2月 8日(月), 参加者160人] (※会場48人・オンライン112人)</p>	<p>経験年数が比較的短い職員や役員等を対象に、会計の基礎的知識と適正な税務会計処理等会計全般について、公認会計士が解説するとともに、決算書類の見方、個別相談事例及び決算処理の留意点等に関する研修を実施し、適正な会計事務及び健全な施設経営に寄与した。</p>									
<p>(1) 県社会福祉法人経営者協議会と連携した研修・セミナー等の実施</p>	<p>社会福祉施設の役員等を対象に、直面する課題等をテーマに県社会福祉法人経営者協議会が主催する経営者セミナー等への運営支援を行った。(オンライン併用)</p> <p>① 制度改正対応等研修 (奄美会場：参加者 51人) [令和2年11月17日(火), 会場17人・オンライン 34人] ② 第8回県社会福祉法人経営者大会 (参加者：136人) [令和2年12月 7日(月), 会場61人・オンライン 75人] ③ 社会福祉法人経営者セミナー (参加者：131人) [令和3年 3月11日(木), 会場24人・オンライン107人]</p>	<p>研修・セミナー等の運営を支援することで、更なる知識の向上を図るとともに、施設の経営安定の促進を支援した。</p>									
<p>(2) 福祉施設経営指導連絡協議会の開催</p>	<p>円滑かつ効果的な事業推進を図るため、県・市の行政関係職員及び福祉団体役員で構成する経営指導連絡協議会を設置。 今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面報告とした。[送付先：県経営指導連絡協議会委員] (県・市福祉関係課長及び県経営協正副会長等12人)」</p>	<p>個別相談・集団指導及び研修に関する企画等を検討する場が無くなったが、他の機会により関係行政機関と福祉団体との連絡調整が図られた。</p>									
3	種別協議会の活動促進	所管部署	総務部 生活支援部 地域福祉部								
<p>(1) 種別協議会研修費助成(8協議会)</p>	<table border="0"> <tr> <td>① 県民生委員児童委員協議会</td> <td>971千円</td> </tr> <tr> <td>② 県老人福祉施設協議会</td> <td>500千円</td> </tr> <tr> <td>③ 県保育連合会</td> <td>544千円</td> </tr> <tr> <td>④ 県知的障害者福祉協会</td> <td>150千円</td> </tr> </table>	① 県民生委員児童委員協議会	971千円	② 県老人福祉施設協議会	500千円	③ 県保育連合会	544千円	④ 県知的障害者福祉協会	150千円	<p>本会からの助成をとおして、種別協議会等の活動の円滑な事業実施を支援することができた。</p>	
① 県民生委員児童委員協議会	971千円										
② 県老人福祉施設協議会	500千円										
③ 県保育連合会	544千円										
④ 県知的障害者福祉協会	150千円										

	⑤ 県児童養護協議会 200千円 ⑥ 県母子生活支援施設協議会 50千円 ⑦ 県市町村社会福祉協議会連絡協議会 50千円 [研修費助成総額:2,465千円] (⑧県障害者支援施設協議会は研修会中止のため助成なし。)	
(2) 種別協議会行事開催費助成 (5行事)	① 知的障害者施設球技大会 400千円 ② 知的障害施設作品展覧会 350千円 ③ 知的障害者関係施設文化祭 800千円 ④ 児童養護施設球技大会 300千円 [行事開催費助成総額:1,850千円] (⑤社会就労支援センター協議会作品展覧即売会は中止のため助成なし。)	
(3) 各種民生委員・児童委員研修への支援	① 各種研修会開催への支援 (5回) [研修会参加者 延べ 748人] ② 各種委員会等への支援 (12回)	各種研修会を開催することにより、高齢者の孤立・孤独の防止や児童虐待等社会的課題を学ぶことができ、各々の単位民児協及び各委員の日常活動の活性化が図られた。
(4) その他 「かごしまおもいやりネットワーク事業」への支援	県社会福祉法人経営者協議会が、社会福祉法人連携による「地域における公益的な取り組み」として平成30年7月に開始した「かごしまおもいやりネットワーク事業」について、周知・広報のほか、研修会等の運営支援を行った。	令和3年3月末現在 107法人加入(施設法人86, 県市町村社協21)
4 すこやか基金による活動助成等		所管部署 総務部, 長寿社会推進部
(1) シルバー文化作品展「寺園賞」等の贈呈	すこやか基金の運用果実により、シルバー文化作品展入賞者へ記念品の贈呈(助成)を行った。 <助成内容> 寺園勝志賞・県社協会長賞(カップ) 他 <助成額> 64,350円	高齢者の創作活動への励みとなっており、高齢者の生きがいづくりにつながった。
(2) 民間社会福祉活動等への助成 (計画:16件)	すこやか基金の運用果実により、次の県内の障害児通所支援事業所を行う特定非営利活動法人等に活動に必要な機器等の備品購入助成を行った。[実績:22件 2,127,576円]	財政基盤の弱い福祉事業所への助成を通じて、活動支援に資することができた。

4	すこやか基金による活動助成等	所管部署	総務部, 長寿社会推進部																																																																																																
令和2年度事業計画		事業実施概要等																																																																																																	
		<p>具体的成果等</p> <p>〈すこやか基金助成状況〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="707 304 757 336">No.</th> <th data-bbox="757 304 1361 336">事業所名</th> <th data-bbox="1361 304 1541 336">助成額(円)</th> <th data-bbox="1541 304 2016 336">整備物品等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>かもう・子ども発達支援すくすく</td><td>100,000</td><td>マット ライフジャケット プリンタ</td></tr> <tr><td>2</td><td>特定非営利活動法人 愛夢里</td><td>100,000</td><td>車椅子用体重計</td></tr> <tr><td>3</td><td>子と親の発達支援塾ぽるて</td><td>77,660</td><td>パソコン キーボード</td></tr> <tr><td>4</td><td>一般社団法人 みかさの里</td><td>100,000</td><td>超音波次亜塩素酸水霧化機</td></tr> <tr><td>5</td><td>キッズパール</td><td>100,000</td><td>パソコン</td></tr> <tr><td>6</td><td>特定非営利活動法人 ジョイキッズ</td><td>100,000</td><td>ホワイトボード 液晶ディスプレイ</td></tr> <tr><td>7</td><td>NPO法人かごしま就労支援ラボ</td><td>100,000</td><td>オフィスチェア デスク</td></tr> <tr><td>8</td><td>特定非営利活動法人 ともの会</td><td>99,550</td><td>パソコン</td></tr> <tr><td>9</td><td>特定非営利活動法人こどもえんチャットのおうち</td><td>100,000</td><td>体操マット</td></tr> <tr><td>10</td><td>放課後等デイサービス・デフキッズ</td><td>100,000</td><td>ipad pro</td></tr> <tr><td>11</td><td>一般社団法人 藤幸会</td><td>100,000</td><td>絵カード トレーニングロープ ラベルライター</td></tr> <tr><td>12</td><td>一般社団法人マーガレット</td><td>91,463</td><td>耕運機</td></tr> <tr><td>13</td><td>児童発達支援事業所 ナチュファミ</td><td>100,000</td><td>体操マット 跳び箱</td></tr> <tr><td>14</td><td>一般社団法人 おおすみ笑顔のわ</td><td>95,801</td><td>ニールンアクション2他</td></tr> <tr><td>15</td><td>リトルオレンジズ</td><td>100,000</td><td>長縄跳び サッカーボール フラフーフ</td></tr> <tr><td>16</td><td>特定非営利活動法人 キッズきりしま</td><td>95,272</td><td>ノートパソコン</td></tr> <tr><td>17</td><td>特定非営利活動法人 ひとなる会</td><td>100,000</td><td>ipad mini</td></tr> <tr><td>18</td><td>特定非営利活動法人 陽だまり</td><td>91,000</td><td>平均台 バランスストーン</td></tr> <tr><td>19</td><td>放課後等デイサービス 愛かな</td><td>100,000</td><td>間仕切り壁 引き戸 クロス</td></tr> <tr><td>20</td><td>通所支援サービス事業所 きっずぼんぽこ</td><td>99,500</td><td>レゴ パズルブロック トミノセット</td></tr> <tr><td>21</td><td>一般社団法人はやぶさ福祉会</td><td>77,330</td><td>クッション プレイベース</td></tr> <tr><td>22</td><td>特定非営利活動法人 HAS発達支援センター</td><td>100,000</td><td>キックライター クリスマスツリー</td></tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>助成総額</td> <td>2,127,576</td> </tr> </tbody> </table>		No.	事業所名	助成額(円)	整備物品等	1	かもう・子ども発達支援すくすく	100,000	マット ライフジャケット プリンタ	2	特定非営利活動法人 愛夢里	100,000	車椅子用体重計	3	子と親の発達支援塾ぽるて	77,660	パソコン キーボード	4	一般社団法人 みかさの里	100,000	超音波次亜塩素酸水霧化機	5	キッズパール	100,000	パソコン	6	特定非営利活動法人 ジョイキッズ	100,000	ホワイトボード 液晶ディスプレイ	7	NPO法人かごしま就労支援ラボ	100,000	オフィスチェア デスク	8	特定非営利活動法人 ともの会	99,550	パソコン	9	特定非営利活動法人こどもえんチャットのおうち	100,000	体操マット	10	放課後等デイサービス・デフキッズ	100,000	ipad pro	11	一般社団法人 藤幸会	100,000	絵カード トレーニングロープ ラベルライター	12	一般社団法人マーガレット	91,463	耕運機	13	児童発達支援事業所 ナチュファミ	100,000	体操マット 跳び箱	14	一般社団法人 おおすみ笑顔のわ	95,801	ニールンアクション2他	15	リトルオレンジズ	100,000	長縄跳び サッカーボール フラフーフ	16	特定非営利活動法人 キッズきりしま	95,272	ノートパソコン	17	特定非営利活動法人 ひとなる会	100,000	ipad mini	18	特定非営利活動法人 陽だまり	91,000	平均台 バランスストーン	19	放課後等デイサービス 愛かな	100,000	間仕切り壁 引き戸 クロス	20	通所支援サービス事業所 きっずぼんぽこ	99,500	レゴ パズルブロック トミノセット	21	一般社団法人はやぶさ福祉会	77,330	クッション プレイベース	22	特定非営利活動法人 HAS発達支援センター	100,000	キックライター クリスマスツリー			助成総額	2,127,576
No.	事業所名	助成額(円)	整備物品等																																																																																																
1	かもう・子ども発達支援すくすく	100,000	マット ライフジャケット プリンタ																																																																																																
2	特定非営利活動法人 愛夢里	100,000	車椅子用体重計																																																																																																
3	子と親の発達支援塾ぽるて	77,660	パソコン キーボード																																																																																																
4	一般社団法人 みかさの里	100,000	超音波次亜塩素酸水霧化機																																																																																																
5	キッズパール	100,000	パソコン																																																																																																
6	特定非営利活動法人 ジョイキッズ	100,000	ホワイトボード 液晶ディスプレイ																																																																																																
7	NPO法人かごしま就労支援ラボ	100,000	オフィスチェア デスク																																																																																																
8	特定非営利活動法人 ともの会	99,550	パソコン																																																																																																
9	特定非営利活動法人こどもえんチャットのおうち	100,000	体操マット																																																																																																
10	放課後等デイサービス・デフキッズ	100,000	ipad pro																																																																																																
11	一般社団法人 藤幸会	100,000	絵カード トレーニングロープ ラベルライター																																																																																																
12	一般社団法人マーガレット	91,463	耕運機																																																																																																
13	児童発達支援事業所 ナチュファミ	100,000	体操マット 跳び箱																																																																																																
14	一般社団法人 おおすみ笑顔のわ	95,801	ニールンアクション2他																																																																																																
15	リトルオレンジズ	100,000	長縄跳び サッカーボール フラフーフ																																																																																																
16	特定非営利活動法人 キッズきりしま	95,272	ノートパソコン																																																																																																
17	特定非営利活動法人 ひとなる会	100,000	ipad mini																																																																																																
18	特定非営利活動法人 陽だまり	91,000	平均台 バランスストーン																																																																																																
19	放課後等デイサービス 愛かな	100,000	間仕切り壁 引き戸 クロス																																																																																																
20	通所支援サービス事業所 きっずぼんぽこ	99,500	レゴ パズルブロック トミノセット																																																																																																
21	一般社団法人はやぶさ福祉会	77,330	クッション プレイベース																																																																																																
22	特定非営利活動法人 HAS発達支援センター	100,000	キックライター クリスマスツリー																																																																																																
		助成総額	2,127,576																																																																																																
<p>(3) 福祉団体九州ブロック大会等助成 (4大会)</p> <p>ア 第20回全国障がい者スポーツ大会ふうせんバレーボール大会IN鹿児島(令和2年10月25日開催予定) →令和3年10月に延期 第25回ふうせんバレーボール交歓大会IN鹿児島</p> <p>イ 第56回九州地方更正保護女性大会(令和2年9月開催予定)→中止</p> <p>ウ 第54回全国ろうあ者体育大会(令和2年9月開催予定)→中止</p> <p>エ 第48回九州障害者支援施設研究大会(令和3年2月開催予定)→令和4年2月に延期</p>																																																																																																			

VI 福祉サービスの利用支援及び苦情解決の推進

1	福祉サービス利用支援事業の推進	所管部署	福祉サービス利用支援室
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
(1) 基幹的社協としての相談・支援業務の実施 【所管：鹿児島市・三島村・十島村】 (2) 市町村社協の支援（40か所）		福祉サービス利用支援事業を実施する基幹的社協（市町村社協）の円滑な事業運営を支援するための相談助言や情報提供等を行うとともに、鹿児島市において、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理等の利用者支援を行った。 県内における本事業の契約件数は、次のとおりとなっている。	

本事業の契約により、認知症や精神障害等で日常生活に支障のある方々が、住み慣れた地域で自立した生活が送れることの一助となった。
 ・実利用者数：前年度比+59人

〔契約締結件数及び契約終了件数（単位：人）〕

基幹的社協名	契約締結件数		契約終了件数		実利用者数	基幹的社協名	契約締結件数		契約終了件数		実利用者数
	2年度	累計	2年度	累計			2年度	累計	2年度	累計	
①県社協(鹿児島市分)	30	274	27	204	70	②③大崎町社協	1	11	1	7	4
②鹿屋市社協	17	412	13	316	96	④⑤東串良町社協	1	17	2	11	6
③枕崎市社協	3	33	3	28	5	⑥⑦錦江町社協	1	30	4	18	12
④阿久根市社協	12	205	1	154	51	⑧⑨南大隅町社協	3	32	3	19	13
⑤出水市社協	17	160	12	91	69	⑩⑪肝付町社協	6	80	15	56	24
⑥指宿市社協	3	43	2	26	17	⑫⑬中種子町社協	3	14	2	9	5
⑦西之表市社協	12	57	5	31	26	⑭⑮南種子町社協	1	13	2	10	3
⑧垂水市社協	5	60	2	35	25	⑯⑰屋久島町社協	5	29	3	16	13
⑨薩摩川内市社協	23	472	16	372	100	⑱⑲大和村社協	3	10	2	6	4
⑩日置市社協	13	125	12	82	43	⑳㉑宇検村社協	2	14	4	8	6
⑪曾於市社協	32	141	20	85	56	㉒㉓瀬戸内町社協	5	46	7	21	25
⑫霧島市社協	21	407	20	325	82	㉔㉕龍郷町社協	5	48	1	23	25
⑬いちき串木野市社協	5	58	2	32	26	㉖㉗喜界町社協	6	102	5	59	43
⑭南さつま市社協	9	302	13	236	66	㉘㉙徳之島町社協	10	76	5	41	35
⑮志布志市社協	10	171	17	109	62	㉚㉛天城町社協	4	41	4	29	12
⑯奄美市社協	4	295	4	240	55	㉜㉝伊仙町社協	0	23	1	20	3
⑰南九州市社協	3	103	2	80	23	㉞㉟和泊町社協	8	108	10	63	45
⑱伊佐市社協	2	26	0	17	9	㊱㊲知名町社協	9	31	2	14	17
⑲始良市社協	23	187	8	118	69	㊳㊴与論町社協	0	20	3	12	8
⑳さつま町社協	10	112	14	71	41	(県社協 H22年度まで)	0	133	0	133	0
㉑長島町社協	0	14	0	6	8	合計	334	4,592	275	3,266	1,326
㉒湧水町社協	7	57	6	33	24	※実利用者数＝契約締結件数（累計）－契約終了件数（累計）					

1 福祉サービス利用支援事業の推進		所管部署	福祉サービス利用支援室	
令和2年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等	
(3) 契約締結審査会の開催 (12回)	福祉サービス利用支援事業の契約及び解約をするに当たり、利用希望者並びに解約希望者の判断能力等に疑義がある場合等、専門の見地から審査を行った。		6人の構成委員による審査や助言等により、本事業の契約締結等が適切に行われた。	
	回	開催日	内 容	出席者
	第1回	令和2年5月19日(火)	審査案件(0件)、契約状況及び終了報告	6人
	第2回	令和2年7月21日(火)	審査案件(4件)、契約状況及び終了報告	6人
	第3回	令和2年9月15日(火)	審査案件(5件)、契約状況及び終了報告	6人
	第4回	令和2年11月17日(火)	審査案件(5件)、契約状況及び終了報告	5人
	第5回	令和3年1月19日(火)	審査案件(2件)、契約状況及び終了報告	6人
	第6回	令和3年3月16日(火)	審査案件(8件)、契約状況及び終了報告	5人
(構成委員) ・弁護士 1人 ・司法書士 1人 ・精神科医 1人 ・社会福祉士 1人 ・精神保健福祉士 1人 ・学識経験者 1人 計6人				
(4) 専門員会議の開催 (2回)	相談から契約の締結に至るまでの業務を担う専門員の資質向上を図るための会議及び講演等を行った。		本事業の担い手である専門員に必要とされる知識や技術の習得により、今後の利用者支援への一助となった。	
	【第1回】 〈開催日〉令和2年8月7日(金) 〈内 容〉ア 福祉サービス利用支援事業の実施状況及び実地業務調査等について イ 福祉サービス利用支援事業にかかる事務処理について ウ 講演 「精神障害者等への支援・関わり方について」 エ 質疑応答 〈出席者〉36人 【第2回】 〈開催日〉令和3年3月11日(木) 〈内 容〉ア 福祉サービス利用支援事業の実施状況、実地業務調査及び事業実施計画等について イ 福祉サービス利用支援事業の適正な実施について 〈出席者〉65人(うちオンライン43人)		・参加者数：前年度比△20人 ・参加者数：前年度比+16人	

1	福祉サービス利用支援事業の推進	所管部署	福祉サービス利用支援室		
令和2年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等	
		〔実施状況〕 〈実地調査及び書類調査〉			
		基幹的社協名	実施日	基幹的社協名	実施日
		①枕崎市社協	令和2年 9月17日(木)	⑪錦江町社協	令和2年10月 2日(金)
		②南九州市社協	令和2年 9月17日(木)	⑫肝付町社協	令和2年10月30日(金)
		③日置市社協	令和2年10月 7日(水)	⑬屋久島町社協	令和2年11月12日(木)
		④いちき串木野市社協	令和2年10月 9日(金)	⑭奄美市社協	令和2年11月19日(木)
		⑤さつま町社協	令和2年10月13日(火)	⑮大和村社協	令和2年11月18日(水)
		⑥長島町社協	令和2年 9月24日(木)	⑯宇検村社協	令和2年11月27日(金)
		⑦伊佐市社協	令和2年 9月29日(火)	⑰龍郷町社協	令和2年11月18日(水)
		⑧大崎町社協	令和2年10月22日(木)	⑱和泊町社協	令和2年12月 3日(木)
		⑨垂水市社協	令和2年10月22日(木)	⑲知名町社協	令和2年12月 3日(木)
		⑩鹿屋市社協	令和2年10月27日(火)	⑳与論町社協	令和2年12月10日(木)
		〈書類調査〉			
		基幹的社協名			
		①指宿市社協	⑪東串良町社協		
		②南さつま市社協	⑫南大隅町社協		
		③薩摩川内市社協	⑬西之表市社協		
		④阿久根市社協	⑭中種子町社協		
		⑤出水市社協	⑮南種子町社協		
		⑥霧島市社協	⑯瀬戸内町社協		
		⑦始良市社協	⑰喜界町社協		
		⑧湧水町社協	⑱徳之島町社協		
		⑨曾於市社協	⑲天城町社協		
		⑩志布志市社協	⑳伊仙町社協		

<p>(8) 関係機関・団体との連携</p>	<p>① 鹿児島県地域生活定着支援センター関係機関連絡会議 〈開催日〉 令和2年 8月26日(水) 〈参加者〉 県保護司会連合会, 県更生保護女性連盟, 更生保護法人草牟田寮, 県知的障害者福祉協会, 県民生委員児童委員協議会, 県社会福祉協議会, 鹿児島保護観察所, 鹿児島刑務所, 鹿児島少年鑑別所, 県精神保健福祉センター, 県こども総合療育センター, 県社会福祉課, 県高齢者生き生き推進課, 県青少年男女共同参画課, 鹿児島市長寿あんしん課, 鹿児島地方検察庁, 県弁護士会, 県社会福祉士会, 県地域生活定着支援センター</p> <p>〈内 容〉 ア 令和元年度鹿児島県地域生活定着支援センターの事業報告 イ 報告 「鹿児島市地域包括支援センターの取り組みと高齢者支援について」</p> <p>② 成年後見制度利用促進に係る検討会 〈開催日〉 令和2年 6月23日(火) 北薩地域 令和2年 6月25日(木) 南薩地域 令和2年 6月30日(火) 始良・伊佐地域 令和2年 7月10日(金) 大島地域 (徳之島) 令和2年 7月20日(月) 大隅地域 令和2年 7月30日(木) 熊毛地域 令和2年 8月12日(水) 鹿児島地域 令和2年 8月21日(金) 大島地域 (奄美大島)</p> <p>〈参加者〉 県社会福祉課, 各地域の市町村行政及び市町村社協, 家庭裁判所, 三士会 (県弁護士会, 成年後見センター・リーガルサポート鹿児島支部, 県社会福祉士会ぱあとなあ鹿児島)</p> <p>〈内 容〉 ア 県からの説明 ・「成年後見制度利用促進法」及び国の策定した「成年後見制度利用促進基本計画」において市町村に求めている取組 ・中核機関設置に向けた取組について ・中核機関設置, 成年後見制度利用促進基本計画策定等に向けた進め方について イ 意見交換 等</p>	<p>県及び関係機関等が主催する会議等へ出席し, 関係者との意見交換を行い本事業についての理解が得られ, 事業を推進するための関係機関等とのネットワーク構築が図られた。</p>
------------------------	--	--

1 福祉サービス利用支援事業の推進	事業実施概要等	所管部署 福祉サービス利用支援室
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
	<p>③ 住宅セーフティネット検討ワーキング 〈開催日〉 令和2年10月7日(水) 令和2年11月10日(火) 令和2年12月11日(金) 令和3年1月25日(月) 〈参加者〉 県弁護士会, 県司法書士会, 全日本不動産協会県本部, 県社会福祉協議会, 鹿屋市社会福祉協議会, 霧島市地域包括支援センター, 社会福祉法人南恵会, 鹿児島市住宅課, 県住宅政策室, NPO法人やどかりサポート鹿児島, 県住宅・建築総合センター 〈内 容〉 ・住宅セーフティネットワーキングのこれまでの取組 ・死後対応に関する現状・課題と検討スケジュール ・市町村における「身寄り」のない方の死後対応に関するアンケートについて ・関係団体の取組の報告 等</p>	
<p>(9) 広報・啓発活動の推進</p>	<p>① 県内各種関係機関団体研修会等での広報・啓発活動 ア 被保護世帯法律問題研修 〈開催日〉 令和2年9月16日(水) 〈会 場〉 県社会福祉センター 〈参加者〉 35人 〈内 容〉 福祉サービス利用支援事業について</p> <p>② リーフレットの配布 基幹的社協や行政等の関係機関に配布して, 事業の広報に努めた。</p> <p>③ 本会広報紙「ふくしのひろば」への情報掲載等 事業内容や連絡先等を広報紙に掲載し, 県内の各機関団体等に配布したほか, ホームページ等を通じて本事業の広報に努めた。</p>	<p>事業の説明や広報紙等の配布を行うことによって, 本事業への理解及び協力体制が深められた。</p>

2 福祉サービス苦情解決事業の推進		所管部署	長寿社会推進部
(1) 福祉サービス運営適正化委員会の運営 ア 運営適正化委員会の開催 (3回) イ 福祉サービス利用支援事業運営監視委員会の開催及び基幹的社協等現地訪問調査の実施 (委員会4回, 訪問調査10か所) ウ 福祉サービスに関する苦情解決委員会の開催 (6回) エ 運営適正化委員会委員を選考する委員会の開催 (1回) オ 九州ブロック運営適正化委員会事務局連絡会議への参加 (1回)	県社協に第三者機関として設置されている「福祉サービス運営適正化委員会」を運営し、福祉サービス利用支援事業の適正な運営を確保するとともに、福祉サービスに関する利用者等からの苦情の適切な解決に努めた。 また、多様化する苦情等の解決に向けた取組や情報共有等を図るため、オンラインで開催された全国や九州ブロックの運営適正化委員会に関する会議や研修会に参加した。 ① 運営適正化委員会 3回 (うち書面審議1回) ② 運営監視委員会 4回 (うち書面審議1回) ③ 運営監視委員会による基幹的社協訪問調査 10か所 ④ 苦情解決委員会 4回 (うち書面審議1回) ⑤ 運営適正化委員会委員を選考する選考委員会1回	定期的な委員会開催により、福祉サービス利用支援事業の適正な運営が確保されるとともに、利用者等からの苦情に対して速やかな対応がなされた。 また、オンラインで開催された全国及び九州ブロックの運営適正化委員会会議等に参加し、苦情案件の対応や事業所における苦情解決体制整備など情報交換の機会を得ることができた。	
(2) 相談・苦情の受付	福祉サービス利用者等からの苦情の受付 98件 [内訳] ① 申出人：利用者 56件, 家族 28件, 職員 5件, その他 9件 ② 対象種別：高齢者 23件, 障害者 58件, 児童 7件, その他 10件 ③ 解決結果：相談助言 73件, 紹介伝達 6件, あっせん 0件, 県への通知 0件, その他 3件, 継続中 0件, 不調 16件 その他問い合わせ・相談の受付 40件	受け付けた苦情については、助言や適切な機関等への伝達を図ることで、利用者等の福祉サービス利用につながった。 ・苦情の受付件数： 前年度比+12件 ・その他問い合わせ件数 前年度比+24件	
(3) 広報・啓発活動の実施 ア 広報紙「ふくしのひろば」、ホームページへの掲載 イ ポスター・リーフレットの配布	① 広報紙「ふくしのひろば」への掲載 (2回) ② 本会ホームページによる広報啓発 ③ ポスター, リーフレットの作成・配布 ポスター 作成：2,000部, 配布：623部 リーフレット 作成：なし, 配布：1,141部	ホームページに調査結果や関係資料等を掲載するなど内容充実を図り、福祉関係者及び一般県民へのより一層の制度周知につながった。	

2 福祉サービス苦情解決事業の推進		所管部署	長寿社会推進部
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等	
<p>(4) 研修会の実施 相談・苦情解決事業に関する研修会〔初級編〕(1回)</p>	<p>令和2年度福祉サービスに関する相談・苦情解決事業研修会(初級編)の開催 〈開催日〉 令和2年9月25日(金) 〈会場〉 かごしま県民交流センター 1階 県民ホール 〈参加者〉 苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員 254人 〈内容〉 講義1:「苦情を福祉サービスの質の向上に活かすポイント」 鹿児島県福祉サービス第三者評価機関 NPOさつま 評価調査者 森山 重康 氏 講義2:「苦情解決に必要なコミュニケーションスキル～対人援助スキルの基本となる『傾聴』について」 NPO法人かごしまメンタルパートナー協会 理事長 江並 智子 氏</p>	<p>事業者に必要な苦情解決の取組の基本や苦情解決に必要なコミュニケーションスキル等を学んだことで、各事業所における苦情対応への参考となり、苦情受付担当者・解決責任者・第三者委員の役割と対応について、なお一層の理解が深まった。</p> <p>・参加者数：前年度比△206人</p>	
<p>(5) 事業所への巡回訪問の実施 (30か所)</p>	<p>社会福祉事業の事業者段階における自主的な苦情解決が適切に行われるよう、県内の各事業所を訪問して苦情解決体制の整備状況を把握するとともに、体制整備に関する相談・助言に応じ、福祉サービスの質の向上につながることのできる苦情解決体制の構築に向けて、県内30事業所の巡回訪問を実施した。</p> <p>(巡回内訳) 高齢分野事業所：10か所、児童分野事業所：8か所 障害分野事業所：11か所、その他事業所：1か所 計 30か所</p>	<p>巡回訪問を行った結果、それぞれの体制整備状況を把握でき、かつ第三者委員等の体制整備が図れていない事業所について、体制整備の構築につながった。</p>	
<p>(6) 調査研究活動の実施 第三者委員設置状況調査の実施</p>	<p>県内福祉事業所を対象に、福祉サービス苦情解決に係る第三者委員の設置状況についての調査を行い、現状を把握するとともに、集計結果をホームページ等で公表した。</p>	<p>福祉事業所における第三者委員の設置状況調査を行い、ホームページ等で公表することで各事業所における苦情体制整備を促した。</p>	

VII 福祉人材の養成・確保		
1	福祉人材の安定的な確保を図るための支援	所管部署 福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(1) 福祉人材無料職業紹介業務 ア 求人開拓, 求人求職登録, 紹介斡旋	福祉施設及び福祉系学校を訪問し, 福祉人材無料職業紹介所の利用促進と求人求職者の開拓及び各種情報提供を行った。 また, 求人施設及び求職者に対して, 求人求職登録を推進した。 ① 求人求職者開拓 〈訪問箇所数〉 824か所 (事業所 323か所, 学校等 501か所) ② 求人求職登録, 紹介斡旋業務 〈求職者数〉 1,006人 〈求人数〉 8,826人 〈応募者数〉 580人 〈窓口来所者数〉 59人 〈採用者数〉 51人 (就職面談会等の実績含む) ③ 相談件数 1,365件	キャリア支援専門員が中心となり, 福祉施設及び福祉系学校等を訪問することにより, 福祉人材無料職業紹介所の周知と利用促進が図られた。 また, 求人や求職者の登録, 紹介斡旋業務を通じ, 求職者の就業支援及び求人施設の人材確保に資することができた。
イ 広報誌, インターネット等による各種情報の提供	福祉保健職場へ就職を希望する人等に対し, 事業所情報, 求人情報, 各種講座, イベントの開催, 資格取得方法等の詳細情報を提供した。	事業所情報, 求人情報, 各種講座, イベント開催, 資格取得の方法等の詳細情報提供により, 求職者の就業支援が図られた。
ウ 関係機関・団体との連携, 情報交換	福祉人材無料職業紹介事業を円滑に推進するため「無料職業紹介事業に係る連絡会議」を開催した。 〈開催日〉 令和2年6月26日(金) 〈会場〉 県社会福祉センター 〈参加者〉 鹿児島労働局需給調整事業室・職業対策課, 福岡出入国在留管理局鹿児島出張所, 鹿児島公共職業安定所, 県看護協会ナースセンター, 県医師協同組合, 県社会福祉課, 県社協福祉人材・研修センター 〈議題〉 所管事業の最近の動向, 福祉・保健医療職場の人材確保に関する情報交換及び事業面での協力・連携について	無料職業紹介事業に係る連絡会議の開催により, 関係機関・団体との連携が強化され, 求職者の就業支援が図られた。
(2) 福祉・保健医療職場就職ガイダンスの開催 ア 開催日 令和2年8月4日(火) イ 会場 鹿児島市	福祉・保健医療職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため, 「就職ガイダンス」を開催した。 〈開催日〉 令和3年2月11日(木) (祝日) 〈会場〉 鹿児島サロイヤルホテル	コロナにより開催時期を8月から2月に変更して開催した。 全国的に求人の増加傾向が見られる中, 福祉・保健医療職場

1 福祉人材の安定的な確保を図るための支援	所管部署	福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	
		具体的成果等
	<p>〈参加法人〉 84法人（66ブース） 〈求人数〉 693人 〈参加求職者〉 79人 〈面談者延人数〉 242人 〈採用決定者数〉 13人 〈共催団体〉 全国社会福祉協議会など4団体</p>	<p>の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>
<p>(3) 福祉の職場就職面談会の開催 ア 開催日 令和3年2月11日(木) (祝日)</p>	<p>コロナにより延期した、福祉・保健医療職場就職ガイダンスとして開催した。</p>	
<p>(4) 福祉人材総合メニュー講座の開催 ア 福祉職場就職支援講座 令和2年10月31日(土)、 11月7日(土)</p>	<p>福祉に係る知識・技術の習得、福祉人材に関する情報を提供し、地域住民のニーズに即した福祉サービスの確保に資するため各種講座を開催した。 ① 福祉職場就職支援講座 〈開催日〉 令和2年10月31日(土)、11月7日(土) 〈回数〉 全4講座 〈会場〉 かごしま県民交流センター 〈参加人員〉 全4講座で延べ62人 〈対象者〉 福祉職場に就職・復職を希望する一般の方々及び学生 〈内容〉 介護技術の基礎（立位、ベッド上での移動、車いすの介助、衣服の着脱、排泄の介助）など</p>	<p>福祉についての理解を深めてもらうとともに、進路選択や福祉の職場で働くために必要な知識や技術を習得してもらう講座を開催することにより、就職活動への支援が図られた。</p>
<p>イ 福祉職場就活応援セミナー (2)の就職ガイダンスと同日開催</p>	<p>② 福祉人材養成講座(福祉職場就活応援セミナー) 〈開催日〉 令和3年2月11日(木) 〈会場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈参加人員〉 70人 〈対象者〉 福祉職場への就職を希望するなど福祉に関心がある者(シニア層含)、大学、短大、専門学校等の最終学年在学者 〈内容〉 (1) 福祉の職場の現状と就職の心構え (2) 働くは最高のアンチエイジング (3) 福祉の仕事のこれからと地域への貢献</p>	<p>福祉職場への就職希望者に対する福祉職場に関するイメージアップと就業意欲の向上に資することができた。</p>

<p>(5) 福祉人材確保支援セミナーの開催</p> <p>ア 開催日 令和3年2月19日(金)</p> <p>イ 会場 かごしま県民交流センター</p>	<p>質の高い福祉人材を安定的に確保し、また、安定した福祉経営を確立するため、適切な労務管理と働きやすい職場づくりなど、福祉職員の定着のための方策を学ぶためのセミナーを開催した。</p> <p>〈開催日〉 令和3年2月12日(金)</p> <p>〈会場〉 ホテルウェルビューかごしま</p> <p>〈参加者〉 79人</p> <p>〈対象者〉 社会福祉法人代表者・役員、社会福祉施設等の施設長・事務長・人事担当者等</p> <p>〈内容〉 (1) 働き方改革を踏まえた労務管理について (2) 新型コロナウイルス感染症と福祉施設における感染対策 (3) 外国人介護人材確保支援事業等について</p>	<p>福祉分野への求職者が減少する中、福祉人材の確保のためのセミナーを開催することにより、安定した福祉経営と福祉人材の確保・定着に資することができた。</p>																																													
<p>2 福祉・介護人材確保事業</p>		<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p>																																													
<p>(1) キャリア支援専門員の配置</p> <p>県社協本所2人 鹿屋市社協1人 奄美市社協1人 合計4人</p>	<p>キャリア支援専門員4人を次のとおり配置し、求職者のニーズに合わせた職場開拓や職場紹介等を行った。</p> <p>① 配置先 県社協本所2人、鹿屋市駐在(市社協)1人、奄美市駐在(市社協)1人 合計4人</p> <p>② キャリア支援専門員巡回活動状況</p> <table border="1" data-bbox="725 858 1447 1161"> <thead> <tr> <th>各ブロック</th> <th>訪問施設延件数</th> <th>相談</th> <th>紹介</th> <th>採用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鹿児島</td> <td>109</td> <td>295</td> <td>23</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>南薩,種子・屋久</td> <td>27</td> <td>96</td> <td>9</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>始良・伊佐</td> <td>59</td> <td>69</td> <td>20</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日置</td> <td>12</td> <td>63</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>大隅</td> <td>156</td> <td>250</td> <td>42</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>北薩</td> <td>40</td> <td>136</td> <td>42</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>大島</td> <td>421</td> <td>385</td> <td>55</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>824</td> <td>1,294</td> <td>191</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	各ブロック	訪問施設延件数	相談	紹介	採用	鹿児島	109	295	23	2	南薩,種子・屋久	27	96	9	1	始良・伊佐	59	69	20	0	日置	12	63	0	0	大隅	156	250	42	10	北薩	40	136	42	2	大島	421	385	55	15	計	824	1,294	191	30	<p>キャリア支援専門員の巡回により、管轄下の施設・事業所との連携が図られ、求職者のニーズに合わせた職場開拓等や、求人施設と求職者のマッチングを行い、円滑な就労・定着等が図られた。</p> <p>・当事業による採用 30人</p>
各ブロック	訪問施設延件数	相談	紹介	採用																																											
鹿児島	109	295	23	2																																											
南薩,種子・屋久	27	96	9	1																																											
始良・伊佐	59	69	20	0																																											
日置	12	63	0	0																																											
大隅	156	250	42	10																																											
北薩	40	136	42	2																																											
大島	421	385	55	15																																											
計	824	1,294	191	30																																											
<p>(2) 就職面談会の開催 (県内2か所)</p>	<p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動を支援するため、就職面談会を開催した。</p> <p>① 介護の職場就職面談会《鹿屋市》</p> <p>〈開催日〉 令和2年9月26日(土)</p> <p>〈会場〉 かのやグランドホテル</p> <p>〈参加法人〉 20法人(20ブース)</p> <p>〈求人数〉 91人</p>	<p>福祉職場の人材確保及び就職希望者の求職活動が支援できた。</p>																																													

2 福祉・介護人材確保事業	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修センター															
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等															
	<p>〈参加求職者〉 22人 〈面談者延人数〉 46人 〈採用決定者数〉 6人 〈共催団体〉 鹿屋・大隅公共職業安定所, 鹿屋市, 鹿屋市社会福祉協議会</p> <p>② 介護の職場就職面談会《薩摩川内市》 〈開催日〉 令和2年11月28日(土) 〈会場〉 薩摩川内市総合福祉会館 〈参加法人〉 24法人(23ブース) 〈求人数〉 150人 〈参加求職者〉 15人 〈面談者延人数〉 40人 〈採用決定者数〉 1人 〈共催団体〉 川内・出水・伊集院公共職業安定所, 薩摩川内市, 薩摩川内市社会福祉協議会</p>																
3 介護福祉士修学資金等の貸付		所管部署 生活支援部															
<p>(1) 介護福祉士修学資金(等)貸付事業</p> <p>ア 介護福祉士修学資金貸付 介護職を目指す学生に修学資金等の貸付 (7) 修学金(月額) 50千円以内 (イ) 入学準備金 200千円以内(初回交付時) (ロ) 就職準備金 200千円以内(最終回交付時) (ニ) 生活費加算(月額)30千円以内 ※ (イ)は生活保護世帯等が対象</p> <p>イ 介護福祉士実務者研修受講資金貸付 介護福祉士の資格取得を目指す実務者研修受講者に受講資金の貸付 (7) 貸付額 100千円以内</p> <p>ウ 介護人材再就職準備金貸付 離職した介護職員で介護職へ再就職する者に再就職準備金の貸付 (7) 貸付額 400千円以内</p>	<p>県社協ホームページへの掲載のほかリーフレットや手引きを作成し, 県内外の養成施設(大学等)や市町村社協等を通じて借入希望者や関係者へ資料配付・説明を行うなど, 制度の利用促進に努めた。</p> <p>[令和2年度貸付状況]</p> <table border="1" data-bbox="696 1011 1491 1182"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計 画</th> <th>実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士修学資金</td> <td>67</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>介護福祉士実務者研修受講資金</td> <td>50</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>介護人材再就職準備金</td> <td>30</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>147</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p>	区 分	計 画	実 績	介護福祉士修学資金	67	57	介護福祉士実務者研修受講資金	50	29	介護人材再就職準備金	30	8	合 計	147	94	<p>修学資金等の貸付により, 若い人の福祉・介護分野への参入を促進し, 質の高い人材の確保と定着のための環境整備が図られた。</p>
区 分	計 画	実 績															
介護福祉士修学資金	67	57															
介護福祉士実務者研修受講資金	50	29															
介護人材再就職準備金	30	8															
合 計	147	94															

<p>(2) 介護福祉士(等)修学資金貸付事業 平成21年度から平成23年度までの3年間に介護福祉士コース等の学生に貸し付けた修学資金の償還管理</p>	<p>平成21年度から平成23年度までの3年間に貸し付けた介護福祉士等修学資金借受者について、返還などの償還管理を行った。 ※参考：貸付(送金)は、平成27年度で終了。</p> <p>[令和2年度の状況] ① 返還免除 0人 ② 返還状況</p> <p>(単位：千円)</p> <table border="1" data-bbox="696 464 1776 679"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>償還計画額 A</th> <th>償還済額 B</th> <th>未償還額 (A-B)</th> <th>償還率 % (B/A*100)</th> <th>返還対象人数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過年度分</td> <td>5,620</td> <td>430</td> <td>5,190</td> <td>7.7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>700</td> <td>348</td> <td>352</td> <td>49.7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,320</td> <td>778</td> <td>5,542</td> <td>12.3</td> <td>実人員 8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	償還計画額 A	償還済額 B	未償還額 (A-B)	償還率 % (B/A*100)	返還対象人数 (人)	過年度分	5,620	430	5,190	7.7	7	現年度分	700	348	352	49.7	3	計	6,320	778	5,542	12.3	実人員 8	
区分	償還計画額 A	償還済額 B	未償還額 (A-B)	償還率 % (B/A*100)	返還対象人数 (人)																					
過年度分	5,620	430	5,190	7.7	7																					
現年度分	700	348	352	49.7	3																					
計	6,320	778	5,542	12.3	実人員 8																					
<p>4 保育士修学資金貸付等事業</p>		<p>所管部署 生活支援部</p>																								
<p>(1) 保育士修学資金貸付 保育士養成施設に通う学生に対し、修学資金の貸付を行う。 ア 貸付月額：50千円以内(2年間を限度) イ 入学準備金：200千円以内(初回交付時) ウ 就職準備金：200千円以内(卒業時)</p> <p>(2) 未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付 未就学児を持つ潜在保育士に対し、自身が支払うべき未就学児の保育料の一部貸付を行う。 ○貸付月額：27千円以内(1年間を限度)</p> <p>(3) 就職準備金 潜在保育士に対し、再就職する場合の就職準備金の貸付を行う。 ○貸付額：200千円以内(1回限り)</p>	<p>保育士を目指す学生の就学を支援するとともに、卒業後の保育現場への就労・定着を促進するため、修学資金等を貸付けた。 また、離職した一定の経験を有する潜在保育士等の再就職支援を促進するため、就職準備金等の貸付を行った。</p> <p>[令和2年度貸付状況] (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="696 1066 1496 1270"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>計 画</th> <th>実 績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保育士修学資金貸付</td> <td>50</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>就職準備金</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>58</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	計 画	実 績	保育士修学資金貸付	50	50	未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付	4	1	就職準備金	4	2	合 計	58	53	<p>保育士を目指す学生の修学を容易にすることにより、質の高い保育士の養成と県内の保育現場の人材確保に向けて環境整備が図られた。 また、潜在保育士の再就職支援等を行うことにより、保育現場の人材確保が図られた。</p>									
区 分	計 画	実 績																								
保育士修学資金貸付	50	50																								
未就学児を持つ保育士に対する保育料の一部貸付	4	1																								
就職準備金	4	2																								
合 計	58	53																								

5 社会福祉事業従事者等研修		所管部署	福祉人材・研修センターほか	
令和2年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等
(1) 県委託研修 ア 社会福祉施設等職員研修 (6コース)	社会福祉事業従事者の資質向上等を図るため、次の研修を実施した。 ア 社会福祉施設等職員研修 (6コース)			研修内容等について、研修受講者から概ね高評価を得ている。
	研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考
	① 新任職員研修 (経験年数1年未満の職員)	令和2年9月29日～30日 8月25日～26日	125人	・受講者数：対前年比△194人
	② 中堅職員研修 (新任研修後3年経過職員)	令和2年10月1日～2日	44人	・受講者数：対前年比△76人
	③ 監督職員研修 (指導監督職員で、経験年数10年を経過した職員)	令和2年9月3日～4日	17人	・受講者数：対前年比△38人
	④ 施設長等運営管理職員研修 (正副施設長、事務長等の運営管理職員)	令和2年10月1日～2日	7人	・受講者数：対前年比△8人
	⑤-1 社会福祉施設監事等 研修 (法人の理事、監事及び施設長・事務長)	令和2年9月9日	40人	・受講者数：対前年比△43人
	⑤-2 市町村社会福祉協議会 監事研修 (市町村社協の監事)	令和2年9月11日	25人	・受講者数：対前年比△19人
イ 社会福祉行政職員研修 (1コース)	イ 社会福祉行政職員研修 (1コース)			
	研修区分 (受講対象)	実施日	受講者数	備考
	① 社会福祉行政職員研修 (福祉事務所及び各種相談所並びに県立福祉施設に 勤務する職員 (生活保護担当者除く))	令和2年10月9日	23人	・受講者数：対前年比△3人
ウ 被保護世帯法律問題等研修 (5コース)	ウ 被保護世帯法律問題等研修 (5コース) 受講対象者：県・市町村福祉事務所等の生活保護担当職員			
	研修区分	実施日	受講者数	備考
	① 新任生活保護担当職員研修	令和2年8月19～21日	66人	・受講者数：対前年比△2人
	② 生活保護担当職員研修	令和2年10月22日～23日	18人	・受講者数：対前年比△7人
	③ 法律問題研修 (扶養)	令和2年9月15日～16日	34人	・受講者数：対前年比△20人
	④ 法律問題研修 (資産)	令和2年10月 6日～ 7日	37人	・受講者数：対前年比△11人
⑤ 法律問題研修 (他法他施策)	令和2年11月12日～13日	40人	・受講者数：対前年比△9人	

<p>エ 福祉サービス第三者評価調査者継続研修 (2コース)</p>	<p>福祉サービス第三者評価調査者に対して、業務を継続的に実施するために必要な知識等の付与及び資質向上のための福祉サービス第三者評価調査者継続研修を実施した。 〈開催日〉 令和2年9月19日, 10月17日 〈場所〉 県社会福祉センター6階 研修室 〈対象者〉 鹿児島県の評価調査者養成研修修了者名簿に記載されている者 〈受講者数〉 36人 〈内容〉 講義「第三者評価の実施状況と課題」 講義「理念とサービス提供の関係」 演習「事例に学ぶ経営理念とサービスの実践」</p>			<p>円滑な評価が行えるよう演習主体の研修を実施することで、調査者の資質向上が図られた。</p>
<p>(2) 独自研修 (社会福祉関係職員課題別研修)</p> <p>ア 職場内研修担当者研修 (養成1回, フォローアップ1回)</p> <p>イ カウンセリング研修 (基礎2回, 発展1回)</p> <p>ウ 救急法研修 (2回)</p> <p>エ 警戒警備危機管理研修 (1回)</p> <p>オ エルダー・メンター研修 (1回)</p>	<p>社会福祉関係職員課題別研修</p>			
	<p>研修区分 (受講対象)</p>	<p>実施日</p>	<p>受講者数</p>	<p>備考</p>
<p>ア 職場内研修担当者研修 (養成1回, フォローアップ1回)</p>	<p>① 職場内研修担当者研修 養成コース(職場内研修を推進する担当者)</p>	<p>中止</p>		
<p>ア 職場内研修担当者研修 (養成1回, フォローアップ1回)</p>	<p>② 職場内研修担当者研修 フォローアップコース(職場内研修を推進する担当者)</p>	<p>中止</p>		
<p>イ カウンセリング研修 (基礎2回, 発展1回)</p>	<p>③ カウンセリング研修(基礎) (各種相談業務従事職員)</p>	<p>(基礎) 令和2年10月25~26日</p>	<p>21人</p>	<p>・受講者数：対前年比△69人</p>
<p>イ カウンセリング研修 (基礎2回, 発展1回)</p>	<p>④ カウンセリング研修(発展) (各種相談業務従事職員)</p>	<p>(発展) 中止</p>		<p>・受講者数：対前年比△53人</p>
<p>ウ 救急法研修 (2回)</p>	<p>⑤ 救急法研修 (福祉施設及び社協に勤務する職員)</p>	<p>令和2年11月5日</p>	<p>26人</p>	<p>・受講者数：対前年比△33人</p>
<p>エ 警戒警備危機管理研修 (1回)</p>	<p>⑥ 警戒警備危機管理研修 (社会福祉施設等に勤務する職員)</p>	<p>中止</p>		<p>・受講者数：対前年比△53人</p>
<p>オ エルダー・メンター研修 (1回)</p>	<p>⑦ エルダー・メンター研修 (社会福祉施設等における中堅・チームリーダーの役割を担う職員)</p>	<p>中止</p>		<p>・受講者数：対前年比△39人</p>
<p>カ 福祉サービス苦情解決研修会 [中級編] (2回)</p>	<p>※新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み開催中止とした。</p>			
<p>キ 福祉サービス苦情解決研修会 [上級編]</p>	<p>※新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み開催中止とした。</p>			

6 社会福祉事業従事者の福利厚生等	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
<p>(1) 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の運営</p>	<p>① 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の実施状況(令和3年3月31日現在) 契約法人290法人 543施設 加入者数10,917人</p> <p>ア 退職金の給付状況 退職給付金 1,297件 1,223,251,665円</p> <p>イ 新規契約・解除の状況 新規契約 11施設 契約解除 2施設</p> <p>ウ 退職共済積立金の状況(令和3年3月31日現在) 退職共済積立金額 15,130,024,539円…A (参考:元本 12,721,817,168円) 退職給付金要支給額 12,735,219,488円…B 差引(A-B) 2,394,805,051円(積立率118.8%)</p> <p>② 運営委員会の開催 3回 県民間社会福祉施設職員退職共済事業の適正な運営を期するため運営委員会を開催した。</p> <p>ア 第1回運営委員会 〈開催日〉令和2年7月10日(金)(Web会議システム Zoom) 〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退職共済事業実施状況について ・令和元年度事業実績及び収支決算について ・令和元年度年金財政決算報告について ・退職共済事業積立金の運用状況について <p>イ 第2回運営委員会 〈開催日〉令和2年10月21日(金)(Web会議システム Zoom) 〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長の選任及び職務代理者の指名について ・令和2年度上期退職共済事業実施状況について ・コロナ禍における退職共済事業の運用と今後の対応について <p>ウ 第3回運営委員会 〈開催日〉令和3年3月17日(水)(Web会議システム Zoom) 〈内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度退職共済事業実績及び収支決算見込について 	<p>契約法人が退職給付金支払資金に充当するための積立金を、運用基本方針に基づき金融機関3行に信託し、安定的な資産の運用・管理が適切に実施された。</p> <p>本事業の適正な運営に努め、県内の民間社会福祉施設職員の福利を増進し、社会福祉事業の振興に寄与することができた。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度退職共済事業計画及び収支予算案について ・令和2年度退職共済積立資産運用状況について ・令和3年度運用計画及び方針・提案について <p>③ 契約法人に対する説明会 〈開催日〉 令和3年1月21日（木）（Web会議システム Zoom） 〈参加者数〉 132法人 338施設 204人 〈内 容〉 説明Ⅰ 令和元年度事業実施状況・資産運用状況について 説明Ⅱ 退職共済事業事務手続きと様式の変更について 説明Ⅲ 福利厚生センター（ソエルクラブ）について</p>																																									
<p>(2) 福利厚生センター（ソエルクラブ）への加入促進，利用促進及び会員交流事業の実施</p>	<p>① 会員交流事業 福利厚生センター（ソエルクラブ）に加入している会員を対象に，安価な経費で会員間の親睦や交流を図る次の事業を実施した。</p>	<p>多くの会員の方の参加が得られ，福利厚生の上昇が図られた。</p>																																								
<p>〔会員交流事業実績〕</p>																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="651 778 696 826"></th> <th data-bbox="696 778 996 826">事業名</th> <th data-bbox="996 778 1310 826">開催日・期間</th> <th data-bbox="1310 778 1612 826">場 所</th> <th data-bbox="1612 778 2013 826">参加人員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="651 826 696 914">①</td> <td data-bbox="696 826 996 914">かごしま水族館 年間パスポート</td> <td data-bbox="996 826 1310 914">令和2年8月 ～1年間有効</td> <td data-bbox="1310 826 1612 914">かごしま水族館</td> <td data-bbox="1612 826 2013 914">427人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 914 696 1002">②</td> <td data-bbox="696 914 996 1002">葉加瀬 太郎 コンサート</td> <td data-bbox="996 914 1310 1002">令和2年11月21日</td> <td data-bbox="1310 914 1612 1002">川商ホール</td> <td data-bbox="1612 914 2013 1002">72人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1002 696 1090">③</td> <td data-bbox="696 1002 996 1090">会食ランチ ホテル 京セラ</td> <td data-bbox="996 1002 1310 1090">令和2年10月1日～ 令和3年6月30日</td> <td data-bbox="1310 1002 1612 1090">ホテル 京セラ</td> <td data-bbox="1612 1002 2013 1090">443人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1090 696 1177">④</td> <td data-bbox="696 1090 996 1177">会食ランチ ホテルさつき苑</td> <td data-bbox="996 1090 1310 1177">令和2年10月1日～ 令和3年3月31日</td> <td data-bbox="1310 1090 1612 1177">ホテル さつき苑</td> <td data-bbox="1612 1090 2013 1177">194人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1177 696 1265">⑤</td> <td data-bbox="696 1177 996 1265">会食ランチ 城山ホテル 鹿児島</td> <td data-bbox="996 1177 1310 1265">令和2年10月1日～ 令和3年6月30日</td> <td data-bbox="1310 1177 1612 1265">城山ホテル鹿児島</td> <td data-bbox="1612 1177 2013 1265">1,491人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1265 696 1353">⑥</td> <td data-bbox="696 1265 996 1353">会食ランチ ホテルウエストコート奄美</td> <td data-bbox="996 1265 1310 1353">令和2年10月1日～ 令和3年3月31日</td> <td data-bbox="1310 1265 1612 1353">ホテルウエストコート奄美</td> <td data-bbox="1612 1265 2013 1353">12人</td> </tr> <tr> <td data-bbox="651 1353 696 1453">⑦</td> <td data-bbox="696 1353 996 1453">劇団四季ミュージカル コーラスライン</td> <td data-bbox="996 1353 1310 1453">令和3年1月17日</td> <td data-bbox="1310 1353 1612 1453">川商ホール</td> <td data-bbox="1612 1353 2013 1453">81人</td> </tr> </tbody> </table>				事業名	開催日・期間	場 所	参加人員	①	かごしま水族館 年間パスポート	令和2年8月 ～1年間有効	かごしま水族館	427人	②	葉加瀬 太郎 コンサート	令和2年11月21日	川商ホール	72人	③	会食ランチ ホテル 京セラ	令和2年10月1日～ 令和3年6月30日	ホテル 京セラ	443人	④	会食ランチ ホテルさつき苑	令和2年10月1日～ 令和3年3月31日	ホテル さつき苑	194人	⑤	会食ランチ 城山ホテル 鹿児島	令和2年10月1日～ 令和3年6月30日	城山ホテル鹿児島	1,491人	⑥	会食ランチ ホテルウエストコート奄美	令和2年10月1日～ 令和3年3月31日	ホテルウエストコート奄美	12人	⑦	劇団四季ミュージカル コーラスライン	令和3年1月17日	川商ホール	81人
	事業名	開催日・期間	場 所	参加人員																																						
①	かごしま水族館 年間パスポート	令和2年8月 ～1年間有効	かごしま水族館	427人																																						
②	葉加瀬 太郎 コンサート	令和2年11月21日	川商ホール	72人																																						
③	会食ランチ ホテル 京セラ	令和2年10月1日～ 令和3年6月30日	ホテル 京セラ	443人																																						
④	会食ランチ ホテルさつき苑	令和2年10月1日～ 令和3年3月31日	ホテル さつき苑	194人																																						
⑤	会食ランチ 城山ホテル 鹿児島	令和2年10月1日～ 令和3年6月30日	城山ホテル鹿児島	1,491人																																						
⑥	会食ランチ ホテルウエストコート奄美	令和2年10月1日～ 令和3年3月31日	ホテルウエストコート奄美	12人																																						
⑦	劇団四季ミュージカル コーラスライン	令和3年1月17日	川商ホール	81人																																						

6 社会福祉事業従事者の福利厚生等		所管部署	福祉人材・研修センター																
令和2年度事業計画		事業実施概要等			具体的成果等														
	⑧	下野達也指揮 & NHK交響楽団 コンサート	令和3年3月5日	川商ホール	41人														
	⑨	図書カード販売 (離島会員限定)	(カード販売) 有効期限10年	離島会員	40人														
	⑩	映画チケット販売 (パラダイスチケット)	令和3年3月1日～ 令和3年8月31日	天文館シネマ パラダイス	56人														
	⑪	映画チケット販売 (シネマチケット)	令和3年3月1日～ 令和3年9月30日	シネマサンシャイン始良	408人														
	⑫	映画チケット販売 (ミッテ10チケット)	令和3年3月1日～ 令和3年8月31日	鹿児島ミッテ10	436人														
	合 計				延べ 3, 701人														
		② 福利厚生センター加入勧奨活動 (1) 未加入法人等への戸別訪問 (未加入10事業所訪問) ← 中止 (2) 福利厚生センター概要パンフレットの配布 (3) 加入勧奨のためのPR 県社協機関誌「ふくしのひろば」への掲載			(総加入数の状況) 加入法人数：51法人103事業所 会員職員数：2,769人														
7 県指定事業		所管部署	福祉人材・研修センターほか																
(1) 介護支援専門員実務研修受講試験 ア 試験月 令和2年10月頃 イ 試験会場 鹿児島市(4会場) 奄美市(1会場) ウ 受験見込者 約1,400人	<試験日> 令和2年10月11日(日) <試験会場> 3会場(鹿児島市：2会場, 奄美市：1会場) 県社会福祉センター 鹿児島国際大学2・4号館 県立大島高校 <受験申込者数> 1,145人 <受験者数> 974人 <合格者数> 139人 <合格率> 14.3%	介護保険制度において、中核的な役割を果たす介護支援専門員の確保・養成に寄与した。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 60%;"></th> <th style="width: 10%; text-align: center;">前年度</th> <th style="width: 10%; text-align: center;">増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験申込者</td> <td style="text-align: right;">1,178人</td> <td style="text-align: right;">33人減</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td style="text-align: right;">1,036人</td> <td style="text-align: right;">62人減</td> </tr> <tr> <td>合格者数</td> <td style="text-align: right;">161人</td> <td style="text-align: right;">22人減</td> </tr> <tr> <td>合格率</td> <td style="text-align: right;">15.5%</td> <td style="text-align: right;">1.2%減</td> </tr> </tbody> </table>				前年度	増減	受験申込者	1,178人	33人減	受験者数	1,036人	62人減	合格者数	161人	22人減	合格率	15.5%	1.2%減
	前年度	増減																	
受験申込者	1,178人	33人減																	
受験者数	1,036人	62人減																	
合格者数	161人	22人減																	
合格率	15.5%	1.2%減																	

<p>(2) 介護支援専門員更新・再研修 (1回)</p>	<p>介護支援専門員の対象者及び再研修の対象者(証発行なし・期限切れの者)に対して、介護支援専門員再研修(1回延べ10日間)を実施した。なお、更新研修(実務経験3年未満の者等)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年間の特例扱いとし、中止した。</p> <p>〈研修時間〉 54時間 10日間 〈研修日程〉 前期：令和2年8月31日(月)～9月 4日(金) 後期：令和2年9月14日(月)～9月18日(金)</p> <p>〈受講者数〉 100人 〈修了者数〉 99人</p>	<p>受講者数 前年度より2人増</p>														
<p>(3) 介護支援専門員実務研修 (1回)</p>	<p>介護支援専門員実務研修受講試験合格者に対して、介護支援専門員実務研修(1回延べ16日間)を実施した。</p> <p>〈研修時間〉 87時間 16日間(実習3日間以上) 〈研修日程〉 前期：令和3年1月5日(火)～8日(金), 25日(月)～29日(金) 後期：令和3年3月3日(火)～5日(金), 9日(火)～12日(金)</p> <p>〈受講者数〉 143人 〈修了者数〉 139人(うち合格者132人, 過年度合格者7人)</p>	<p>受講者数 前年度より9人減</p>														
<p>(4) 認知症介護実践者等研修</p> <p>ア 認知症介護実践者研修 (3回)</p> <p>イ 認知症介護実践リーダー研修 (1回)</p>	<p>介護保険施設等における認知症高齢者介護の実務者及びその指導的立場となる者を対象に、介護サービスの適正な運営と質の向上を図ることを目的に、認知症介護実践者等研修を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="651 970 1563 1433"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>実施年月日</th> <th>参加見込</th> <th>修了者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">認知症介護実践者研修</td> <td>①令和2年 5月19日～ 5月22日 令和2年 6月30日～ 7月 1日 ※新型コロナ対策のため中止</td> <td rowspan="3">240人</td> <td rowspan="3">79人</td> </tr> <tr> <td>②令和2年 9月 1日～ 9月 4日 令和2年10月20日～10月21日 ※新型コロナ対策のため中止</td> </tr> <tr> <td>③令和2年12月 8日～12月11日 令和3年 2月 2日～ 2月 3日</td> </tr> <tr> <td>認知症介護実践リーダー研修</td> <td>令和2年 7月22日～ 7月25日 令和2年 8月19日～ 8月22日 令和2年 9月24日～ 9月25日 ※新型コロナ対策のため中止</td> <td>35人</td> <td>中止</td> </tr> </tbody> </table>	研修名	実施年月日	参加見込	修了者数	認知症介護実践者研修	①令和2年 5月19日～ 5月22日 令和2年 6月30日～ 7月 1日 ※新型コロナ対策のため中止	240人	79人	②令和2年 9月 1日～ 9月 4日 令和2年10月20日～10月21日 ※新型コロナ対策のため中止	③令和2年12月 8日～12月11日 令和3年 2月 2日～ 2月 3日	認知症介護実践リーダー研修	令和2年 7月22日～ 7月25日 令和2年 8月19日～ 8月22日 令和2年 9月24日～ 9月25日 ※新型コロナ対策のため中止	35人	中止	<p>認知症高齢者の介護業務に従事する実践者や管理者等に対する研修機会を提供することにより、専門性の高い認知症介護の知識・技術の習得が図られ、サービスの質の確保につながるとともに、適正なサービス運営に資することができた。</p>
研修名	実施年月日	参加見込	修了者数													
認知症介護実践者研修	①令和2年 5月19日～ 5月22日 令和2年 6月30日～ 7月 1日 ※新型コロナ対策のため中止	240人	79人													
	②令和2年 9月 1日～ 9月 4日 令和2年10月20日～10月21日 ※新型コロナ対策のため中止															
	③令和2年12月 8日～12月11日 令和3年 2月 2日～ 2月 3日															
認知症介護実践リーダー研修	令和2年 7月22日～ 7月25日 令和2年 8月19日～ 8月22日 令和2年 9月24日～ 9月25日 ※新型コロナ対策のため中止	35人	中止													

7 県指定事業		所管部署	福祉人材・研修のほかにほか		
令和2年度事業計画		事業実施概要等			具体的成果等
ウ	認知症対応型サービス事業 管理者研修 (2回)	認知症対応型 サービス事業 管理者研修	①令和2年11月17日～11月18日 ※新型コロナ対策のため延期 ②令和3年2月4日～2月5日 ※新型コロナ対策のため令和3年度へ延期	80人	22人
エ	小規模多機能型サービス等 計画作成担当者研修 (1回)	小規模多機能型サ ービス等計画作成 担当者研修	令和3年2月18日～2月19日 ※新型コロナ対策のため令和3年度へ延期	35人	延期
オ	認知症対応型サービス事業 開設者研修 (1回)	認知症対応型サ ービス事業開設者研 修	令和2年11月6日	15人	13人
カ	認知症介護基礎研修 (1回)	認知症介護基礎研 修	令和3年2月26日 ※新型コロナ対策のため令和3年度へ延期	100人	延期
		計		505人	114人
(5) 障害福祉人材育成研修の開催		相談支援専門員及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者等の資格取得希望者に対して、障害福祉人材育成研修を実施した。			新型コロナウイルス感染症拡大に伴い定員を削減したり、日程や手法の変更はあったが、計画どおり研修を実施し、県内における相談支援専門員及びサービス管理責任者、児童発達支援管理責任者、強度行動障害支援者の人材育成が推進された。
ア	相談支援従事者研修(14日間)				
(7)	相談支援従事者初任者研修 (前期)	(7) 初任者研修 (前期) 〈期 日〉 令和2年8月9日(日)～8月15日(土) 〈手 法〉 オンデマンド配信 〈受講者数〉 500人 〈修了者数〉 488人			
	相談支援従事者初任者研修 (中期)	初任者研修 (中期) 〈期 日〉 令和2年8月26日(水)～27日(木) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 119人 〈修了者数〉 102人			
	相談支援従事者初任者研修 (後期)	初任者研修 (後期) 〈期 日〉 令和2年9月25日(金)、10月19日(月)～20日(火) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 101人 〈修了者数〉 99人			(前期) 定員430人に対し、113.5% (中期～後期) 定員110人に対し、90.0%

<p>(イ) 相談支援従事者現任研修 (4日間)</p> <p>(ウ) 相談支援従事者専門コース別研修 (1日間)</p> <p>(エ) ファシリテーター研修(2日間)</p>	<p>(イ) 現任研修 <期日①> 令和3年1月27日(水)～2月2日(火) <手 法> オンデマンド配信 <期日②> 令和3年2月12日(金), 3月3日(水)～4日(木) <手 法> Web会議システム「Zoom」 <受講者数> 94人 <修了者数> 87人</p> <p>(ウ) 専門コース別研修 <期 日> 令和3年1月15日(金) <手 法> Web会議システム「Zoom」 <受講者数> 26人 <修了者数> 25人</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み開催中止とした。</p>	<p>定員110人に対し, 79.0%</p> <p>定員60人に対し, 41.7%</p>
<p>イ サービス管理責任者等研修 (7) 基礎研修 (1日研修) + (2日間×3回)</p>	<p>(7) 基礎研修 (共通講義) <期 日> 令和2年9月3日(木)～9日(水) <手 法> オンデマンド配信</p> <p>基礎研修-1 (演習) <期 日> 令和2年10月5日(月)・7日(水) <会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル <受講者数> 99人 <修了者数> 94人</p> <p>基礎研修-2 (演習) <期 日> 令和2年10月8日(木)～9日(金) <会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル <受講者数> 111人 <修了者数> 101人</p> <p>基礎研修-3 (演習) <期 日> 令和2年11月24日(火)～25日(水) <会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル <受講者数> 117人 <修了者数> 106人</p> <p>基礎研修-4 (演習) <期 日> 令和2年12月3日(木)～4日(金) <会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル <受講者数> 119人 <修了者数> 107人</p>	<p>定員115人に対し, 81.7%</p> <p>定員115人に対し, 87.8%</p> <p>定員115人に対し, 92.2%</p> <p>定員115人に対し, 93.0%</p>

7 県指定事業	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修課ほか
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(4) 更新研修 (1日間×3回)	(4) 更新研修-1 〈期 日〉 令和2年9月11日(金) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 99人 〈修了者数〉 90人 更新研修-2 〈期 日〉 令和2年10月28日(水) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 99人 〈修了者数〉 94人 更新研修-3 〈期 日〉 令和3年2月19日(金) 〈手 法〉 Web会議システム「Zoom」 〈受講者数〉 90人 〈修了者数〉 75人	定員100人に対し、90.0% 定員100人に対し、94.0% 定員100人に対し、75.0%
ウ 強度行動障害支援者養成研修 (7) 基礎研修 (2日間×2回)	(7) 基礎研修(共通講義) 〈期 日〉 令和2年9月27日(日)～10月3日(土) 〈手 法〉 オンデマンド配信 基礎-A(演習) 〈期 日〉 令和2年10月15日(木) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 114人 〈修了者数〉 102人 基礎-B(演習) 〈期 日〉 令和2年10月16日(金) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 113人 〈修了者数〉 91人 基礎-B'(演習) 〈期 日〉 令和2年11月18日(水) 〈会 場〉 鹿児島サンロイヤルホテル 〈受講者数〉 114人 〈修了者数〉 90人	定員115人に対し、88.6% 定員115人に対し、79.1% 定員115人に対し、78.3%

<p>(イ) 実践研修 (2日間) × 2回</p>	<p>(イ) 実務研修 (共通講義) <期 日> 令和2年11月22日(日)~28日(土) <手 法> オンデマンド配信</p> <p>実践研修-C (演習) <期 日> 令和3年2月24日(水)~25日(木) <会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル <受講者数> 114人 <修了者数> 90人</p> <p>実践研修-D (演習) <期 日> 令和3年3月9日(火)・11日(木) <会 場> 鹿児島サンロイヤルホテル <受講者数> 116人 <修了者数> 84人</p>	<p>定員115人に対し, 78.3%</p> <p>定員115人に対し, 73.0%</p>								
<p>エ 障害児者養成研修等の受講機会拡大への支援事業によるオンライン機器等の整備 (追加)</p>	<p>障害児者養成研修等の受講機会拡大への支援事業補助金を活用し, オンライン研修やオンデマンド配信に必要な機器等を整備した。</p>	<p>障害福祉人材育成研修をオンライン等で実施できる環境が整備された。</p>								
<p>(6) 福祉用具専門相談員養成研修 ア 研修期間 令和2年5月~6月(当初) イ 研修時間 51時間(延べ8日間) ウ 定員 30人 エ その他 研修修了者は福祉用具専門相談員の資格取得</p>	<p>介護保険法で定められた福祉用具販売・貸与事業所で勤務するために必要な「福祉用具専門相談員」の資格を取得するための研修会を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="651 868 1565 1171"> <thead> <tr> <th>実 施 日</th> <th>定 員</th> <th>修了者数</th> <th>講 座 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和2年 9月19, 20日, 10月 3, 4, 24, 25日, 11月 14, 15日 (8日間 51時間) ※新型コロナウイルス対策のため延期</td> <td>30人</td> <td>26人</td> <td>福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と仕組み, からだとこころの理解, 福祉用具の特徴など</td> </tr> </tbody> </table>	実 施 日	定 員	修了者数	講 座 内 容	令和2年 9月19, 20日, 10月 3, 4, 24, 25日, 11月 14, 15日 (8日間 51時間) ※新型コロナウイルス対策のため延期	30人	26人	福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と仕組み, からだとこころの理解, 福祉用具の特徴など	<p>福祉用具専門相談員26人を養成することができた。</p> <p>修了者数 定員に比べ4人減 前年度より8人減</p>
実 施 日	定 員	修了者数	講 座 内 容							
令和2年 9月19, 20日, 10月 3, 4, 24, 25日, 11月 14, 15日 (8日間 51時間) ※新型コロナウイルス対策のため延期	30人	26人	福祉用具の役割, 職業倫理, 介護保険制度等の考え方と仕組み, からだとこころの理解, 福祉用具の特徴など							
<p>8 教員免許介護等体験受入調整事業</p>		<p>所管部署 福祉人材・研修センター</p>								
<p>教員免許介護等体験受入調整事業 (対象学生予定数: 530人)</p>	<p>小学校及び中学校の教諭の免許状を取得しようとする大学等入学者に対する介護等体験の社会福祉施設への受入調整を行った。 <介護等体験申込者数> 529人 <介護等体験終了者数> 513人 <介護等体験期間> 令和2年7月6日(月)~令和3年2月12日(金)</p>	<p>教員免許取得志望者の資質向上及び学校教育の充実に寄与できた。 ①介護等体験申込者数 前年度より10人減 ②介護等体験終了者数 前年度より20人減</p>								

9	外国人介護人材受入支援事業	所管部署	福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>(1) 技能実習生等を対象とする外国人介護人材集合研修の実施</p> <p>① 開催期間 令和2年12月～令和3年2月</p> <p>② 実施地域 5か所(鹿児島, 北薩, 始良・伊佐, 大隅, 大島)</p> <p>③ 回数 10回(5地域×2回)</p>	<p>技能実習生等を対象とする外国人介護人材集合研修を県内5地域で実施した。</p> <p>〈開催月〉 令和2年12月～令和3年2月</p> <p>〈実施地域〉 5か所(鹿児島, 北薩, 始良・伊佐, 大隅, 大島)</p> <p>〈回数〉 10回(5地域×2回)</p> <p>〈参加者数〉 91人(延べ人数)</p> <p>〈内容〉 鹿児島県の災害・防災について, 介護現場で使うオノマトペ・鹿児島のことばについて 老化及び認知症の理解, 介護の技術等</p>		<p>入国後の期間が短い技能実習生に対する集合研修及び相互交流を通じ, 生活や介護に関する不安を払拭するとともに, 介護に関する基本的な知識を深めることができた。</p>

Ⅷ 介護実習・普及センターの運営					
1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター		
令和2年度事業計画		事業実施概要等			具体的成果等
(1) 介護に関する情報収集・提供 ア 図書・ビデオ等の貸出	① 貸出状況				図書・ビデオ等の貸出により、介護に関する情報提供が図られた。
	区分 \ 年度	令和2年度	令和元年度	増減	
	図 書	71冊	132冊	△61冊	
	ビ デ オ	1本	1本	±0本	
	D V D	18本	42本	△24本	
	② 整備状況				
区分 \ 年度	令和元年度まで	令和2年度	計		
図 書	591冊	0冊	591冊		
ビ デ オ	79本	0本	79本		
D V D	44本	(除却)△3本	41本		
イ リーフレットの配布	<p>介護実習・普及センターの実施事業等の周知を図り、研修及び講座等への参加を募るため、15,000部のリーフレットを作成し、一般県民、介護施設及び県内関係機関等に配布した。</p> <p>また、当センターに展示してある福祉用具の紹介や研修案内などを周知するための広報チラシを作成し、かごしま県民交流センター内で行われた他の部・所等が実施するイベントで配布した。</p>				リーフレット等の配布により、介護実習・普及センター事業の周知が図られ、多くの県民の参加を得ることができた。
ウ 全国会議及び九州ブロック会議への参加	<p>① 全国福祉用具相談・研修機関協議会/1名 〈期 日〉 令和3年3月2日 〈会 場〉 リモート開催</p> <p>② 九州ブロック介護実習・普及センター代表者及び担当者会議 ※次年度へ延期</p> <p>③ 国際福祉機器展 随時閲覧 〈期 日〉 令和2年10月21日～年度末 〈会 場〉 W e b開催に変更</p>				福祉用具に関する新たな知識や九州各県等の情報を広く共有し、業務遂行に役立てることができた。
(2) 介護知識・技術の普及及び体験学習等（一般県民向け） ア やさしい介護教室 (6回・定員各30人)	<p>家庭で介護を行っている家族や介護に関心のある県民に対し、専門家講師の指導による介護の初歩的な知識と介護方法の習得のための講座を開催した。</p>				県民の介護に対する関心を高め、介護の知識や技術の普及促進につながった。

1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター			
令和2年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等		
		実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ111人減 前年度より34人減
		〈前期〉 令和2年 6月20日 令和2年 7月10日 令和2年 8月 1日	30人	中止	・ 認知症の理解, 声かけ, 接し方 ・ 排泄用具の選び方, 使い方 ・ 福祉用具の選び方・使い方 ・ 誤嚥をふせぐ食事の介助方法 ・ 衣服の着脱, 歩行の介助方法 ・ 寝返りから移乗までの介助法	
		30人	中止			
		30人	14人			
		〈後期〉 令和2年10月 3日 令和2年11月 5日 令和2年11月28日	30人	18人		
		30人	20人			
30人	17人					
計	180人	69人				
イ 地域介護講座 (4か所(回)・定員各30人) (北薩地区, 南薩地区, 大隅地区, 奄美地区)		地域において介護技術の普及・啓発を図るため, 県内4地区 で 専門家講師の指導による講座を開催した。				参加者数 定員に比べ51人減 前年度より62人減
		実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
		鹿屋市 令和2年 8月26日	30人	18人	・ らくらく!寝返り, 起き上 がり, 立ち上がり, 移乗の介 助方法	
		薩摩川内市 令和2年 9月12日	30人	12人	・ ここに注意!誤嚥をふせぐ 食事の介助方法	
		指宿市 令和2年10月28日	30人	21人	・ これは助かる!福祉用具の 選び方, 使い方	
		宇検村 令和2年12月18日	30人	18人		
計	120人	69人				

ウ 快護生活フェス！オンライン特別セミナーfromかごしま【内容変更】 (1回) 併催： 介護ロボット鹿児島フォーラム	「10月1日福祉用具の日」に関連して、高齢者や障がい者等の生活に役立つ福祉用具をもっと身近に感じてもらうためのイベントとして、例年開催していた「快護生活フェス」について、感染症拡大防止対策により、オンライン特別セミナーとして開催した。併せて、昨年度に引き続き厚生労働省委託事業「介護ロボット鹿児島フォーラム」を行った。				多くの参加者があり、最新の福祉用具や介護知識・技術の普及啓発が図られ、「福祉用具の日」及び「介護の日」の周知に寄与できた。 参加者数 前年度より2,290人減	
	実施日	参加者数	内容			
	令和3年2月23日	960人	最新の福祉用具（機器）を紹介する動画を配信、「介護ロボット鹿児島フォーラム」を含む介護ロボットの活用状況・効果などの発表・報告			
エ 交通バリアフリー講習会への協力【追加】 (1回)	〈期 日〉 令和2年12月24日 〈会 場〉 かごしま県民交流センター 鹿児島市交通政策課が主催した交通バリアフリー講習会に参加した交通事業者やボランティアの方に対し、実際に乗り合いバスを使用し、車いす体験及び高齢者疑似体験を行った。				交通事業者や関心を持つボランティアのバリアフリーへの理解が深まり、高齢者や障がいのある方へのサービスの向上に寄与した。	
オ 福祉体験教室 (随時)	福祉用具見学、車いす体験及び高齢者疑似体験を通して、介護・福祉への理解を深めてもらうため体験教室を開催した。				生活に役立つ車いすなど福祉用具を広く知ってもらうことで、介護やバリアフリーについて理解を深めることにつながった。 実施回数 前年度より2回減	
	実施日	R2年度	R元年度	増減		実施回数
	通年	1,104人	1,657人	△553人	144回	
カ 公立学校共済組合鹿児島支部介護講座 (3回)	公立学校共済組合からの委託を受け、教職員を対象に、専門家講師の指導による介護講座（基礎・技術コース）を開催した。				教職員やその家族への介護に関する知識・技術の普及・啓発が図られた。 参加者数 定員に比べ38人減 前年度より5人減	
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容		
	令和2年8月5日	40人	34人	・介護保険制度の理解と介護の心得 ・口腔ケアのポイント		
	令和2年8月6日	40人	22人	・心身機能低下予防/ロコモ運動 ・認知症の理解		
	令和2年8月7日	40人	26人	・着替え、歩行の介助 ・誤嚥を防ぐ食事の介助		
	計	120人	82人	・福祉用具の選び方、使い方 ・介護用ベッド・車いすでの介助 ・介護用おむつの選び方、使い方		

1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター		
令和2年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等	
(3) 介護専門職員向け研修 ア 介護レクリエーション研修 (2回・定員各30人)	社会福祉施設等の介護専門職を対象に、介護の基礎技術を確認し、さらなるスキルアップを図るための研修を開催した。			介護専門職の介護技術向上を図ることにより、より良いサービス提供を行う人材育成に寄与した。 参加者数 定員に比べ30人減 前年度より35人減	
	実施日	参加定員	参加者数		講座内容
	〈前期〉 令和2年 5月15日	30人	中止		・簡単な運動や創作を楽しむ介護状態別レクリエーション
	〈後期〉 令和2年11月21日	30人	30人		
	計	60人	30人		
イ 介護食調理教室 (2回・定員各25人)				参加者数 定員に比べ50人減 前年度より47人減	
	実施日	参加定員	参加者数		講座内容
	〈前期〉 令和2年 6月14日	25人	中止		・高齢者が食べやすく、栄養バランスの取れた調理方法、補助食品の紹介
	〈後期〉 令和2年12月 6日	25人	中止		
	計	50人	0人		
ウ 介護職の体リフレッシュ研修 (2回・定員各20人)				参加者数 定員に比べ22人減 前年度より35人減	
	実施日	参加定員	参加者数		講座内容
	〈前期〉 令和2年 5月28日	20人	中止		・介護職(自分)の身体状態把握と自己改善を図るストレッチ体操
	〈後期〉 令和2年11月27日	20人	18人		
	計	40人	18人		

エ 介護職基礎研修 (4回・定員各30人)	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ90人減 前年度より68人減
	A：第1回 令和2年6月26日 令和2年6月27日	30人	中止	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度の理解と介護の心得 身体状況に応じたおむつの選び方、あて方、交換方法 	
	A：第2回 令和2年9月17日 令和2年9月18日	30人	12人	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のための転倒予防体操 心身機能低下予防体操 身体や腰に負担をかけない起居、移乗、移動の介助方法 	
	B：第1回 令和2年7月8日 令和2年7月9日	30人	中止	<ul style="list-style-type: none"> 誤嚥をふせぐ食事の姿勢と介助方法 体位変換、ポジショニングケア方法 	
	B：第2回 令和2年11月13日 令和2年11月14日	30人	18人	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の選び方、使い方等 認知症疾患別の理解ケア、コミュニケーションのとり方 	
	計	120人	30人		
オ 介護職スキルアップ研修 (7) 口腔ケア (2回・定員各30人)	(7) 口腔ケア				参加者数 定員に比べ39人減 前年度より52人減
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	令和2年6月19日	30人	中止	<ul style="list-style-type: none"> 口腔ケアの基礎知識と方法 拒否される方への対応 	
	令和3年1月15日	30人	21人	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションの取り方 口腔ケア体操 	
	計	60人	21人		
(4) 認知症ケア (3回・定員各30人)	(4) 認知症ケア				参加者数 定員に比べ70人減 前年度より88人減
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	
	令和2年5月29日	30人	中止	<ul style="list-style-type: none"> 認知症疾患別援助の方法 事例を通しての理解(グループワーク) 	
	令和2年10月23日	30人	20人		
	令和3年1月8日	30人	中止		
計	90人	20人			

1 介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター			
令和2年度事業計画	事業実施概要等				
具体的成果等					
(ウ) 体位変換・ポジショニングケア (3回・定員各30人)	(ウ) 体位変換・ポジショニングケア				
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ58人減 前年度より61人減
	令和2年 6月21日	30人	中止	・褥瘡の基礎知識 ・座位、寝姿勢別体位変換、 ポジショニング方法 ・車いすのシーティング方法	
	令和2年 8月29日	30人	15人		
	令和3年 1月16日	30人	17人		
計	90人	32人			
(イ) 排泄ケア (4回・定員各20人)	(イ) 排泄ケア				
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ50人減 前年度より62人減
	令和2年 6月25日	20人	中止	・排泄・失禁についての基礎知識 ・スキンケア方法 ・麻痺、拘縮のある方の おむつ交換	
	令和2年 9月 9日	20人	16人		
	令和2年12月10日	20人	14人		
令和3年 2月 3日	20人	中止			
計	80人	30人			
(オ) 感染症予防対策と褥瘡ケア (2回・定員各30人)	(オ) 感染症予防対策と褥瘡ケア				
	実施日	参加定員	参加者数	講座内容	参加者数 定員に比べ 34人減 前年度より47人減
	令和2年 6月 5日	30人	中止	・褥瘡ケア、感染症の予防 対策・汚染物の処理方法	
	令和2年11月 4日	30人	26人		
計	60人	26人			
カ 専門職団体等連携講座 (3回)	各職能団体と連携し、地域における在宅介護や施設介護のリーダー育成を図るための講義や実技等の講座開催を支援した。				
	団体名	実施日	参加者数	専門職の知識・技術の向上につながった。 参加者数 前年度より266人減	
	県言語聴覚士会	令和2年 5月17日	28人		
	県理学療法士協会	令和2年 7月19日	中止		
	県作業療法士会	令和3年 2月21日	リモート独自開催		
	計		28人		

(4) 福祉用具・バリアフリー住宅の展示・相談、福祉用具の情報収集・提供等

介護実習・普及センターの来所者に対し、福祉用具やモデルハウスの案内・説明等を行うとともに、福祉用具等介護に関する相談に対応した。

県民への福祉用具・介護用品等への周知に寄与できた。

〔来所者数〕

人数等 \ 年度	令和2年度	令和元年度	増 減
来所者数	4,980人	14,583人	△9,603人
開所日数	※ 307日	309日	△2日
1日平均	16人	47人	△31人

※ うち15日間（令和2年4月18日～5月6日）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般県民の来所相談は原則中止し、電話対応のみ行った。

〔相談件数〕

（単位：件）

相談内容 \ 年度	令和2年度	令和元年度	増 減
介護保険	43	658	△615
研修関係	504	1,551	△1,047
移動機器	144	311	△167
排 泄	39	204	△165
入 浴	30	70	△40
起居移乗	24	299	△275
資 格	9	90	△81
住宅改修	35	162	△127
障害福祉	4	159	△155
図書ビデオ	95	138	△43
自 助 具	46	162	△116
介護食	5	133	△128
そ の 他	520	2,028	△1,508
計	1,498	5,965	△4,467

1	介護実習・普及センター運営事業	所管部署	介護実習・普及センター							
令和2年度事業計画		事業実施概要等		具体的成果等						
		〔展示数〕 (単位:点)								
	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="651 284 875 347">分類別</th> <th data-bbox="875 284 1115 347">年度</th> <th data-bbox="1115 284 1355 347">令和2年度</th> <th data-bbox="1355 284 1568 347">令和元年度</th> <th data-bbox="1568 284 2013 347">増減</th> </tr> </table>	分類別	年度	令和2年度	令和元年度	増減				
分類別	年度	令和2年度	令和元年度	増減						
	治療訓練用具	14	12	2						
	義肢・装具	0	0	0						
	パソコン等関連用具	257	250	7						
	移動機器	134	129	5						
	家事用具	95	94	1						
	家具・建具建築設備	45	39	6						
	コミュニケーション関連用具	12	11	1						
	操作用具	16	16	0						
	環境改善機器・作業用具	0	0	0						
	レクリエーション用具	7	7	0						
	その他	45	44	1						
	計	625	602	23						
	100社の福祉用具販売（貸与）事業所・メーカーによる使用貸借契約等による展示品									

Ⅸ 生活福祉資金貸付事業の推進

1	総合支援資金，福祉資金，教育支援資金，不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付	所管部署	生活支援部	
		令和2年度事業計画		事業実施概要等
(1) 総合支援資金，福祉資金，教育支援資金，不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付		低所得世帯等援助を必要とする方々の経済的自立と生活意欲の助長及び社会参加の促進を図るため，資金の貸付や必要な援助指導を行った。（貸付決定状況については下表のとおり。） また，新型コロナウイルス感染症の影響を受け，収入減少や失業した方等を対象に特例貸付を実施した。		新型コロナウイルス感染症の影響を受け，経済雇用情勢が急速に悪化したことに伴い，特例貸付の件数，金額が大幅に増加した。

〔令和2年度生活福祉資金申込及び貸付決定状況〕

（単位：千円）

区分 資金の種類		申込状況		貸付決定状況			申込に対する決定の比較		前年度貸付決定状況		前年度に対する比較増減	
		件数	金額	件数	金額	構成率%	件数%	金額%	件数	金額	件数	金額
総合支援資金	生活支援費	7,543	5,426,870	7,543	5,426,870	71.3	100.0	100.0	1	354	7,542	5,426,516
	(内数)特例貸付	7,535	5,421,470	7,535	5,421,470	—	100.0	100.0	0	0	7,535	5,421,470
	住宅入居費	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0
	一時生活再建費	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0
福祉資金	福祉費	161	42,031	161	42,031	0.5	100.0	100.0	140	33,159	21	8,872
	緊急小口資金	11,223	2,091,018	11,223	2,091,018	27.5	100.0	100.0	193	22,522	11,030	2,068,496
	(内数)特例貸付	11,101	2,080,200	11,101	2,080,200	—	100.0	100.0	88	14,900	11,013	2,065,300
教育支援資金		112	55,389	112	55,389	0.7	100.0	100.0	127	68,760	△15	△13,371
不動産担保型生活資金	不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	—	—	1	14,400	△1	△14,400
	要保護世帯向け不動産担保型生活資金	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0
合計		19,039	7,615,308	19,039	7,615,308	100.0	100.0	100.0	462	139,195	18,577	7,476,113
(内数)特例貸付		18,636	7,501,670	18,636	7,501,670	—	100.0	100.0	88	14,900	18,548	7,486,770

1	総合支援資金、福祉資金、教育支援資金、不動産担保型生活資金及び離職者生活支援つなぎ資金の貸付					所管部署	生活支援部						
	令和2年度事業計画			事業実施概要等			具体的成果等						
〔令和2年度離職者生活支援つなぎ資金申込及び貸付決定状況〕					※ 平成21年10月創設			(単位：千円)					
区分		申込状況		貸付決定状況		申込に対する決定の比較		前年度貸付決定状況		前年度に対する比較増減			
資金の種類		件数	金額	件数	金額	件数%	金額%	件数	金額	件数	金額		
離職者生活支援つなぎ資金		0	0	0	0	-	-	0	0	0	0		
ア 適正な資金貸付の推進 市町村社協と連携して審査体制を充実し、適正な貸付を実行することにより、制度の趣旨に基づく生活福祉資金の運営を推進する。		生活福祉資金貸付審査等運営委員会の開催（年3回）											
イ 生活福祉資金の広報及び活用促進 県社協広報紙及びホームページ等において、資金の広報啓発を行う。		県社協のホームページ、広報誌「ふくしのひろば」ほか、各市町村の社協だより等により周知を図った。											
ウ 市町村社協職員研修 資金貸付から債権回収までの一連の留意事項について周知を図るとともに、相談支援技術の向上を目的とした研修を行い、市町村社協担当職員のスキルアップを図る。		市町村社協生活福祉資金事務担当者研究協議会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症に係る特例貸付に対応するため、研修会の開催を中止した。								新型コロナウイルス感染症の影響を受け収入減少や失業した方等を対象にした特例貸付を、優先的に実施した。			
エ 市町村社協の貸付事務指導 市町村社協の担当者との連携を十分に図り、適正な貸付事務ができるように年間を通じて指導を行う。		市町村社協担当職員からの相談・問い合わせに対して、事務処理にあたっての留意事項等の指導を行った。								市町村社協への迅速な事務指導により、円滑な資金貸付業務に寄与することができた。			
オ 各市町村民生委員児童委員協議会定例会研修等への職員派遣		県内の各市町村民児協からの要請により職員を派遣するとともに、研修会実施の支援を行った。								民生委員児童委員への制度の認識が深められた。			
						〈派遣回数等〉〈対象者数〉							
				市町村単位民児協 定例会・研修会		2回		136名					

<p>(2) 市町村社協の相談支援体制の充実 相談支援体制を充実するため相談員を増員配置する市町村社協に対し、財政的支援を行う。 (対象社協7社協)</p>	<p>平成21年10月からの資金貸付制度の大幅な見直し・実施に伴い、市町村社協において相談件数の急増に対応し配置している専任の相談員の経費について、相談・貸付の状況に応じて財政的な支援を行った。</p> <p>〈対象社協数〉 7市社協 〈交付総額〉 28,742千円 〈内 容〉 相談員の人件費に対する経費の助成</p>	<p>市町村社協の相談員が増員配置されたこと等により、借入相談者への丁寧で適切な相談支援が図られ、過重となっている相談員の負担軽減が図られた。</p>	
<p>2 債権管理の強化</p>		<p>所管部署</p>	<p>生活支援部</p>
<p>(1) 市町村社協等との連携による債権管理の充実 市町村社協や民生委員との緊密な連携の下、借入者の状況、償還状況等の把握と情報の整理、共有化に努める。 また、市町村社協の償還指導等に対し、適切な指導・助言を行う。</p>	<p>償還指導推進員を設置し、債権管理強化体制を強化した。</p> <p>〈設置数〉 県社協 2人 鹿児島市社協 1人</p>	<p>専任者の配置により、債権管理体制が強化され借受関係者の状況把握や償還指導の充実が図られた。</p>	
<p>(2) 債権管理の強化、推進 償還督促月間を設け、滞納債務者に督促状や催告書を、計画的償還履行者へは残額通知を送付し、債務状況の認識と償還意識の高揚を図るとともに、償還指導を強化する。特に滞納期間が長い者、償還実績が無い者等の悪質な滞納債務者に対しては、直接訪問し償還指導を行うとともに、必要に応じて法的処置を講ずる。</p>	<p>借受関係者の債務状況を確認するため、市町村社協へ償還月次報告書を毎月送付した。</p> <p>なお、滞納債務者等に対しての「督促状」及び「残高のお知らせ」の発送、また市町村社協を訪問しての個別指導は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入減少や失業した方等を対象にした特例貸付に対応するため実施できなかったが、特例貸付申請者の中に滞納者がいた場合は、確約書を徴求するなど償還指導を行った。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、収入減少や失業した方等を対象にした特例貸付を優先的に実施した。</p>	

2 債権管理の強化		令和2年度事業計画						事業実施概要等	所管部署	生活支援部
		令和2年度生活福祉資金資金種類別償還状況						具体的成果等		
		(単位：千円)								
		償還計画額 A	償還免除額 B	償還予定額 C=A-B	償還済額 D	未償還額 C-D	償還率 D/C %	貸付中 の件数	前年度 償還率%	前年度に対す る比較増減
総合支援資金		61,139	0	61,139	7,850	53,289	12.8	7,702	5.5	7.3
福祉資金	更生資金	33,621	0	33,621	2,711	30,910	8.1	102	5.1	3.0
	障害者更生資金	7,977	0	7,977	458	7,519	5.7	18	4.9	0.8
	生活資金	2,828	0	2,828	103	2,725	3.6	7	3.8	△0.2
	福祉資金	69,881	0	69,881	27,952	41,929	40.0	478	39.4	0.6
	住宅資金	21,520	0	21,520	473	21,047	2.2	49	5.5	△3.3
	療養介護等資金	290	0	290	18	272	6.2	7	7.1	△0.9
	災害援護資金	2,194	0	2,194	231	1,963	10.5	12	8.7	1.8
	生活復興支援資金	521	0	521	0	521	0	1	0	0
	緊急小口資金	45,600	0	45,600	20,065	25,535	44.0	11,628	27.2	16.8
小計		184,432	0	184,432	52,011	132,421	28.2	12,302	22.8	5.4
教育支援資金		146,387	0	146,387	37,487	108,900	25.6	1,293	24.7	0.9
不動産担保型生活資金		0	0	0	38,141	△38,141	—	1	—	—
要保護世帯向け不動産担保型生活資金		0	0	0	2,590	△2,590	—	12	—	—
離職者支援資金		48,294	0	48,294	1,616	46,678	3.3	45	3.1	0.2
合計		440,252	0	440,252	139,695	300,557	31.7	21,355	19.1	12.6
合計中	現年度分	84,488	0	84,488	71,053	13,435	84.1		72.2	11.9
	過年度分	355,764	0	355,764	68,642	287,122	19.3		7.2	12.1
〔令和2年度離職者生活支援つなぎ資金償還状況〕		(単位：千円)								
		償還計画額 A	償還免除額 B	償還予定額 C=A-B	償還済額 D	未償還額 C-D	償還率 D/C %	貸付中 の件数	前年度 償還率%	前年度に対す る比較増減
離職者生活支援つなぎ資金		977	0	977	24	953	2.5	15	14.9	△12.4

<p>(3) 償還困難案件の適切な処理 償還困難で償還免除の適格要件を具備する債権について、適切な処理を行う。</p>	<p>訪問による償還指導や市町村社協を通じた状況調査等を実施し、借入関係者が死亡するなど免除要件に該当している案件については、償還免除を行い、貸付債権の適切な整理を図った。</p>	<p>〈償還金免除〉…………… 1件 貸付利子免除額 2,264,188円 延滞利子免除額 1,692,785円</p>
<p>(4) 市町村社協における債権管理の充実 ア 民生委員との連携による不良債権の債務者生活実態の把握 イ 滞納者に対する償還指導</p>	<p>不良債権の回収など市町村社協における債権管理機能を一層強化するため、市町村社協に対し次のとおり助成金を交付した。 〈交付社協数〉 34社協 〈交付総額〉 2,400千円</p>	

X すこやか長寿社会づくり運動の推進		
1	すこやか長寿社会づくり運動の推進	所管部署 長寿社会推進部
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
(1) 広報媒体による意識啓発 ア 広報紙「ふくしのひろば」による広報(発行部数:13,700部×6回) イ ホームページによる広報 ウ リーフレットの作成及び配布(作成部数:10,000部) エ ポスターの作成及び配布(作成部数:300部) オ 「老人の日・老人週間」のポスター配布	すこやか長寿社会運動の推進を図るため、次の広報活動を行った。 ① 「ふくしのひろば」による広報(13,700部×6回 2ヶ月に1回) ② ホームページによる広報 ③ リーフレット(10,000部)・ポスター(300部)の作成 配布先:市町村社協, 県・市町村老連, 市町村担当課, 県関係機関, 各種福祉施設等 ④ 「老人の日・老人週間」のポスター配布(100枚)	広報紙等の啓発活動により、定期的・継続的な情報提供ができた。
(2) シルバー文化作品展の開催 ア 展示期間 令和2年9月9日(水)~13日(日) ※搬入日 9月4日(金) イ 会場 県歴史・美術センター黎明館 ウ 対象部門 日本画, 洋画, 書, 工芸, 写真, 彫刻の6部門 エ 対象者 県内在住の60歳以上の者 オ 出品料 1,000円 カ その他 施設等での入賞作品の展示	高齢者の趣味活動や文化創作意欲を高めるとともに、高齢者の作品を広く県民に紹介するため、シルバー文化作品展を開催した。 〈部門〉日本画, 洋画, 書, 工芸, 写真, 彫刻 〈会場〉県歴史・美術センター黎明館 〈会期〉令和2年9月9日(水)~13日(日) 〈出品数〉日本画28点, 洋画65点, 書49点, 工芸48点, 写真34点, 彫刻10点 計234点 〈入場者数〉2,332人 〈表彰〉(87点) 県知事賞 1点(工芸) 特別賞(寺園勝志賞) 1点(洋画) 県社会福祉協議会会長賞 6点(各部門1点) ねんりんピック鹿児島メリアル賞 6点(各部門1点) 審査委員長賞 3点 { 洋画1点, 写真1点, 彫刻1点 } 金賞 14点 { 日本画2点, 洋画3点, 書3点, 工芸3点, 写真2点, 彫刻1点 } 銀賞 15点 { 日本画2点, 洋画4点, 書3点, 工芸3点, 写真2点, 彫刻1点 } 銅賞 18点 { 日本画2点, 洋画4点, 書4点, 工芸4点, 写真3点, 彫刻1点 } 奨励賞 18点 { 日本画2点, 洋画4点, 書4点, 工芸4点, 写真3点, 彫刻1点 }	高齢者の趣味活動や文化創作意欲を高めるとともに、幅広い世代にすこやか長寿社会運動をPRすることができた。 R元年度出品数 264点 対前年度比 88.6% R元年度入場者数 2,156人 対前年度比 108.2%

	<p>高齢者賞 5点 (彫刻を除く各部門1点) <入賞作品の貸出> 作品展の入賞者に対し、福祉施設等への展示依頼を行い、施設等の入所者等に作品鑑賞機会を提供した。(貸出…12点)</p>	
<p>(3) いきいきシルバースポーツ大会の実施 ア 実施箇所 県下7地区 イ 実施方法 県老人クラブ連合会に委託</p>	<p>高齢者の心身の健康と生きがいの助長を図るとともに、高齢者に対する地域住民の理解と関心を高めるため、県老人クラブ連合会に事業の実施を委託してシルバースポーツ大会を実施した。 <開催時期> 令和2年6月～令和3年3月 <開催場所> 県下7地区 (鹿児島, 南薩, 北薩, 始良・伊佐, 大隅, 熊毛, 大島) <参加者数> 4,648人</p>	<p>高齢者の健康づくりに資することができた。 R元年度参加者数 9,025人 対前年比 51.5%</p>
<p>(4) 全国健康福祉祭派遣事業 ア 派遣期間 令和2年10月31日(土)～11月3日(火) イ 派遣地 岐阜県(17市5町) ウ 派遣人員 約146人</p>	<p>高齢者の健康と福祉に関する総合的な普及啓発イベントである「第33回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜2020)」に選手を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大会の開催が令和3年度へ延期となった。 <参加予定だったイベント> 総合開・閉会式, スポーツ交流大会, ふれあいスポーツ交流大会, 文化交流大会, 美術展</p>	<p>大会の開催が1年延期となり、選手を派遣できなかった。</p>
<p>(5) 高齢者による社会参加活動の促進 ア 社会参加活動希望者への情報提供等の支援 イ 世代間交流機会等の提供</p>	<p>高齢者による社会参加活動を支援するため、活動機会や活動情報の提供等を行った。 地域活動に意欲のある高齢者を「いきいきシニア人材バンク」に登録し本会主催行事等の運営ボランティアとしての活動機会を提供し、社会参加の促進を図ってきたが、今年度はコロナ感染症拡大のため、全てのボランティア活動の募集を中止した。 (ア) 「いきいきシニア人材バンク」の広報 「いきいきシニア人材バンク」新規登録者募集のチラシを作成し、各種イベントで配布することで、登録者数の増加を図った。 (イ) 人材バンク登録件数 団体：17団体 個人：90人 元気高齢者と児童・生徒等の異なる世代とふれ合う機会を提供するため、自主活動グループの支援を行った。 【支援対象団体】 ・鹿児島県おもちゃ病院連絡協議会 ・読み聞かせグループ たけとんぼ ・なかよしパソコンお絵かきクラブ</p>	<p>社会参加活動希望者に対する活動機会の提供や活動情報の発信等により、高齢者による社会参加活動の促進が図られ、地域活動の活性化に資することができた。</p>

1	すこやか長寿社会づくり運動の推進	所管部署	長寿社会推進部		
令和2年度事業計画		事業実施概要等			具体的成果等
		<p>【支援実績】 会議室の無償貸し出し ・鹿児島県おもちゃ病院連絡協議会はコロナ感染症拡大の為中止 ・読み聞かせグループ たけとんぼ（年10回）</p>			
2	かごしまシニア人材育成活用事業	所管部署	長寿社会推進部		
<p>(1) 研修・講座の運営 ア 実施内容 (ア) 人材育成講座（2日間） 対象者：開催地域の高齢者 (イ) 基礎研修（1日間） 対象者：市町村行政職員・市町村社会福祉協議会職員 (ウ) 実践研修（1日間） 対象者：市町村行政職員・市町村社会福祉協議会職員 ※ 実践研修と人材育成講座2日目は合同開催。</p>		<p>地域活動に意欲のある高齢者の社会参加を図るため、必要な知識を習得する機会を提供し、人材育成を行うほか、地域が行う人材育成及び活用の体制づくりを支援するため、下記3地域で研修・講座を実施した。</p>			<p>地域リーダーとなる高齢者に対して、講座受講の機会を提供すると同時に、市町村行政職員及び市町村社会福祉協議会職員を対象にシニア人材の育成・活用に必要な研修の機会を提供することで、地域の実情に応じた活動の実践につなげることができた。</p>
<p>イ 開催地域及び日程 (ア) 熊毛地域 令和2年6月9日(火)～11日(木) (イ) 肝属地域 令和2年7月14日(火)～16日(木) (ウ) 北薩地域 令和2年8月19日(水)～21日(金)</p> <p>(2) 実施後の開催地域社協等のフォローアップ</p>		<p>実施内容 開催地域・日程</p>	<p>人材育成講座 (高齢者)</p>	<p>基礎研修 (行政・社協)</p>	<p>実践研修</p>
		<p>北薩地域 令和2年10月19日(月)～21日(水)</p>	<p>18人</p>	<p>19人</p>	<p>行政・社協：21人 高齢者：13人</p>
		<p>肝属地域 令和2年11月16日(月)～18日(水)</p>	<p>22人</p>	<p>13人</p>	<p>行政・社協：14人 高齢者：21人</p>
		<p>熊毛地域 令和2年12月1日(火)～3日(木)</p>	<p>13人</p>	<p>13人</p>	<p>行政・社協：11人 高齢者：11人</p>

XI 県社会福祉センターの管理・運営

1	県社会福祉センターの整備及び維持管理，利用促進等	所管部署	総務部																																																		
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等																																																			
<p>(1) 県社会福祉センターの維持管理（緊急を要する修繕工事のほか，法令等に基づく設備等の更新・改修工事等を含む）</p>	<p>民間社会福祉団体の活動拠点施設として，適切かつ効率的な管理運営に努め利用促進等を図った。</p> <p>① 法定による保守点検等の実施と届出 「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に基づく保守点検及び消防用設備等の必要な維持管理を行った。</p> <p>② 施設整備（小規模補修は除く）</p> <p>(1) 2階入口・別館入口自動ドア修理工事 (2) 展示センターチャンネル文字看板撤去工事 (3) 外階段タイル補修工事 (4) 第2・第3会議室LEDランプ取替・配線替工事 (5) 外構花壇用散水栓設置工事 (6) 過電流継電器更新工事 (7) 電器流量計取替工事</p>	<p>経年劣化等に伴う不具合等については速やかに修繕を行うとともに，更新が必要な設備等の調査等を行うなど館利用者等の利便性向上に寄与した。</p>																																																			
<p>(2) 会議室，宿泊室の利用促進</p>	<p>① 本会ホームページの掲載内容見直しのほか，来館者に県社会福祉センターのリーフレットやチラシ「宿泊室のご案内」を作成し配布するなど，会議室・宿泊室の利用促進を図った。 なお，会議室及び宿泊室の利用状況は下表のとおり。 〔会議室の利用状況〕</p> <table border="1" data-bbox="651 930 1899 1066"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">福祉関係</th> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">合計</th> <th rowspan="2">対元年度 回数比較</th> <th rowspan="2">対元年度 金額比較</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>金額(円)</th> <th>回数</th> <th>金額(円)</th> <th>回数</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>394</td> <td>2,179,980</td> <td>154</td> <td>1,075,330</td> <td>548</td> <td>3,255,310</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>751</td> <td>5,831,560</td> <td>253</td> <td>4,954,590</td> <td>1,004</td> <td>10,786,150</td> <td>183.2%</td> <td>331.3%</td> </tr> </tbody> </table> <p>〔宿泊施設利用状況〕</p> <table border="1" data-bbox="651 1106 1344 1241"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">合計</th> <th rowspan="2">対元年度 人員比較</th> <th rowspan="2">対元年度 金額比較</th> </tr> <tr> <th>人員</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和元年度</td> <td>767</td> <td>2,030,250</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和2年度</td> <td>286</td> <td>769,400</td> <td>37.3%</td> <td>37.9%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	福祉関係		一般		合計		対元年度 回数比較	対元年度 金額比較	回数	金額(円)	回数	金額(円)	回数	金額(円)	令和元年度	394	2,179,980	154	1,075,330	548	3,255,310	—	—	令和2年度	751	5,831,560	253	4,954,590	1,004	10,786,150	183.2%	331.3%	年度	合計		対元年度 人員比較	対元年度 金額比較	人員	金額	令和元年度	767	2,030,250	—	—	令和2年度	286	769,400	37.3%	37.9%	<p>会議室利用は長期利用団体があったことから大幅に増加し，宿泊室はコロナウイルス感染拡大防止による一時閉鎖等の影響があり減少となった。</p>	
年度	福祉関係		一般		合計		対元年度 回数比較	対元年度 金額比較																																													
	回数	金額(円)	回数	金額(円)	回数	金額(円)																																															
令和元年度	394	2,179,980	154	1,075,330	548	3,255,310	—	—																																													
令和2年度	751	5,831,560	253	4,954,590	1,004	10,786,150	183.2%	331.3%																																													
年度	合計		対元年度 人員比較	対元年度 金額比較																																																	
	人員	金額																																																			
令和元年度	767	2,030,250	—	—																																																	
令和2年度	286	769,400	37.3%	37.9%																																																	
<p>(3) 省エネルギー対策の推進</p>	<p>① 休憩時間における照明の消灯やクールビズ・ウォームビズによる空調機器利用抑制等の省エネルギー対策を推進した。</p> <p>② 県社会福祉センター会議室1室の照明器具をLED照明に改修するなど，消費電力の低減に努めた。</p>	<p>ハードとソフト両面からの省エネ対策を推進することで，職員の省エネに対する意識の向上につながった。</p>																																																			

<p>(4) そのほか入居団体との連絡調整</p>	<p>県社会福祉センターにおける消防訓練（同時訓練）の実施など共通して取り組むべきこと及び県社会福祉センターの管理運営上協力が必要な事項や工事に関すること等について、随時入居団体と連絡調整を行った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染拡大防止や感染者発生時の対応を確認するため、入居団体における感染防止マニュアルを策定し、入居団体連絡会を開催した。</p>	<p>入居団体及び県青少年会館と連携することで、同一敷地内に勤務する全ての職員の防災意識等の向上や連携・協力体制の構築に資することができた。</p>
---------------------------	--	--

XII 地域医療介護総合確保基金事業の推進

1 介護の仕事理解促進事業	所管部署	介護実習・普及センターほか																						
令和2年度事業計画	事業実施概要等		具体的成果等																					
<p>(1) 地域ジュニア福祉体験教室開催事業 高齢者疑似体験, 車いす体験, ユニバーサルデザイン・自助具体験の実施 ア 実施数 31か所程度 ⇒25か所へ契約変更 イ 実施場所 離島及び鹿児島市から遠隔地の小・中学校, 高等学校, 専門学校</p>	<p>遠隔地等の小・中学校, 高等学校を訪問して, 福祉体験教室を開催した。児童・生徒の高齢者や障害のある人に対する理解促進並びに福祉の心の涵養を図り, 将来の介護の担い手育成に資することを目的に高齢者疑似体験・車いす体験・ユニバーサルデザイン及び自助具体験を行った。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため1か所中止</p> <table border="1" data-bbox="770 485 1554 671"> <thead> <tr> <th>実施期間</th> <th>区分</th> <th>学校数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">令和2年 6月23日 、 令和3年 2月12日</td> <td>小学校</td> <td>18校</td> <td>390人</td> </tr> <tr> <td>小・中併設校</td> <td>1校</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>5校</td> <td>128人</td> </tr> <tr> <td>高等学校</td> <td>1校</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>25校</td> <td>556人</td> </tr> </tbody> </table>		実施期間	区分	学校数	参加者数	令和2年 6月23日 、 令和3年 2月12日	小学校	18校	390人	小・中併設校	1校	24人	中学校	5校	128人	高等学校	1校	14人	合計	25校	556人	<p>① 児童・生徒に, 介護等の体験ができる場を広く提供することにより, 福祉に対する理解が深まり, 高齢者等に対しての思いやりの心の醸成につながった。 ② 児童・生徒の介護の仕事への理解と関心を高めることができた。 ③ 教育現場における福祉体験活動の普及が図られた。</p>	
実施期間	区分	学校数	参加者数																					
令和2年 6月23日 、 令和3年 2月12日	小学校	18校	390人																					
	小・中併設校	1校	24人																					
	中学校	5校	128人																					
	高等学校	1校	14人																					
	合計	25校	556人																					
<p>(2) 未来の福祉・介護担い手スタートアップ事業 ア 小中高校及び介護事業所等のマッチングを実施。 イ 「小中高校生等と介護事業所の職員等との相互訪問」を10回程度実施。</p>	<p>子どもたちの福祉・介護の職場への興味や関心を高めるため, 小・中・高校や介護事業所において, 介護に関する講和等を実施した。 実施校数 14校 (小学校6, 中学校4, 高等学校4) 参加児童・生徒数 528人 協力事業所数 18事業所</p> <table border="1" data-bbox="815 826 1541 911"> <tbody> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>7</td> <td>介護老人保健施設</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>有料老人ホーム</td> <td>3</td> <td>デイサービス</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>グループホーム</td> <td>4</td> <td>病院</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		特別養護老人ホーム	7	介護老人保健施設	2	有料老人ホーム	3	デイサービス	1	グループホーム	4	病院	1	<p>福祉・介護の職場に興味を持つ機会をつくることで, 将来一人でも多くの小中高校生が福祉・介護分野で活躍することへの希望をもつてもらえるよう, 小中高校生との理解を促進することができた。</p>									
特別養護老人ホーム	7	介護老人保健施設	2																					
有料老人ホーム	3	デイサービス	1																					
グループホーム	4	病院	1																					
<p>(3) 介護教室派遣事業 県内の事業所や各種団体等に理学療法士, 作業療法士, 認知症介護指導者, 社会福祉士等の専門家講師を派遣する ア 派遣数 22か所程度 ⇒6か所へ契約変更 イ 研修内容 (ア) 介護保険制度と福祉用具について (イ) 起居移乗の介助方法 (ウ) 着替え・入浴・排泄の介助方法 (エ) 食事の介助方法 (オ) 認知症について など</p>	<p>企業等における介護離職の防止や就労の継続を図るとともに, 地域における福祉人材の育成・確保につなげるため, 県内の事業所や団体等に, 福祉・介護・医療の専門家講師を派遣し, 介護教室を開催した。 〈実施期間〉令和2年7月7日～令和2年11月25日 ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため1か所中止</p> <table border="1" data-bbox="658 1114 1554 1374"> <thead> <tr> <th>講座名</th> <th>箇所数 (箇所)</th> <th>参加者数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本を知ろう!在宅介護の基礎</td> <td>1</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>知って安心!介護保険と福祉用具の利用方法</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>認知症って?認知症の理解と対応</td> <td>3</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>お口のケアと飲み込む体操</td> <td>2</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>健康寿命を延ばす足腰げんき体操</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table>		講座名	箇所数 (箇所)	参加者数 (人)	基本を知ろう!在宅介護の基礎	1	17	知って安心!介護保険と福祉用具の利用方法	0	0	認知症って?認知症の理解と対応	3	87	お口のケアと飲み込む体操	2	58	健康寿命を延ばす足腰げんき体操	0	0	計	6	162	<p>介護の基礎的知識や技術を習得出来る機会を身近な場所で提供することにより, 介護は社会全体で支えるものという考え方の醸成が図られ, 介護と仕事の両立並びに地域の介護人材の育成に資することができた。</p>
講座名	箇所数 (箇所)	参加者数 (人)																						
基本を知ろう!在宅介護の基礎	1	17																						
知って安心!介護保険と福祉用具の利用方法	0	0																						
認知症って?認知症の理解と対応	3	87																						
お口のケアと飲み込む体操	2	58																						
健康寿命を延ばす足腰げんき体操	0	0																						
計	6	162																						

2 介護職員チームリーダー養成研修支援事業	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
<p>県内各地域での研修支援 県社協に申込のあった介護事業所等のうちから、15か所程度（同一地域原則2回開催）を決定して実施</p>	<p>新人職員の定着と質の高い介護サービスの提供を促すため、介護事業所に勤務する中堅職員等を対象に新人職員への指導方法等も含めたスキルアップ研修を実施した。 研修実施箇所 14か所（離島2か所） 研修実施回数 14回 参加事業所数 63事業所 研修参加人数 351人（研修会1回当たり参加人数約25名）</p>	<p>介護事業所に勤務する中堅職員等を対象に、開催地ごとの要望に応じた研修や新人職員への指導方法等も含めたスキルアップ研修を実施することにより、質の高い介護サービスの提供や新人職員の定着等に資することができた。</p>
3 元気高齢者等介護職場インターンシップ事業	事業実施概要等	所管部署 ボランティアセンター
<p>(1) 実施箇所 県内11高齢者保健福祉圏域</p> <p>(2) 受入施設 高齢者福祉施設 (特養、老健、養護、軽費老人ホーム、グループホーム)</p> <p>(3) 体験期間 5日間（補助・軽作業中心）</p>	<p>高齢者等の就労機会を創出するとともに介護従事者の確保を図るため、元気な高齢者等が福祉の現場において貴重な担い手として活躍できるよう職場体験を通じた就労支援を次のとおり行った。</p> <p>職場体験の受入介護施設は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、グループホームの5種別とし、県内11か所の高齢者保健福祉圏域ごとに拠点社協を配置して、職場体験者の募集、職場体験プログラム（1日3時間を5日間）の実施及び就労希望調査等を担ってもらった。</p> <p>なお、事業実施にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業実施要綱等の一部を見直し、職場体験希望者には県を跨ぐ移動制限や職場体験に入る前の健康観察を義務づけるとともに、職場体験時に要する不織布マスクや携行用手指消毒剤を配布するなど感染拡大防止策を講じた上で、9月上旬の鹿児島東部圏域を皮切りに募集体制の整った圏域順に職場体験希望者の募集を始めた。</p> <p>① 受入対象施設への説明会 ア 集合説明会 鹿児島東部圏域（8/17）、鹿児島西部圏域（8/20） 川薩圏域（8/18）、出水圏域（8/18）、始良・伊佐圏域（8/21） 曾於圏域（8/21）、肝属圏域（8/25） イ オンライン説明会（Zoom） 南薩圏域（8/27） 熊毛圏域、奄美北部圏域及び奄美南部圏域（8/19） ウ 参加実績 参加施設数48施設、出席人数54人</p>	<p>この事業については、実施自体が危ぶまれたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限注力した結果、多くの施設の協力と体験者の獲得に繋がり、採用人数も前年度実績の6割を確保した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募者目標100人に対して応募人数73人（前年度比△24人） ・受入施設20施設に対して51施設（前年度比△42施設） ・体験人数61人（前年度比△24人）のうち採用人数が13人（前年度比△8人）

② 実施箇所、応募・体験人数及び受入施設等

	圏域	拠点社協	応募人数	体験人数	受入承諾施設数及び種別内訳						体験プログラム
					施設合計	特養	老健	養老	軽老	グループホーム	
1	鹿児島(東部)	鹿児島市	38	28	12	5	1	0	0	6	体験プログラムは、概ね次のような内容で、1日3時間、概ね2週間以内に5日間の体験を実施した。 〈1日目又は2日目まで〉 事業説明や体験先施設の紹介、福祉制度や生活介護の心得等 〈2日目又3日目から5日目まで〉 介護業務の周辺作業や軽作業等を中心とした介護施設での職場体験、就労意向調査等
2	鹿児島(西部)	日置市	9	8	4	0	0	0	0	4	
3	南薩	南九州市	2	2	4	2	1	0	0	1	
4	川薩	薩摩川内市	10	10	4	1	0	1	0	2	
5	出水	出水市	3	3	4	1	0	1	1	1	
6	始良・伊佐	霧島市	2	2	4	0	1	0	0	3	
7	曾於	曾於市	3	3	7	2	2	1	0	2	
8	肝属	鹿屋市	2	2	5	1	0	1	0	3	
9	熊毛	南種子町	1	1	3	2	0	0	0	1	
10	奄美(北部)	奄美市	1	1	2	1	1	0	0	0	
11	奄美(南部)	徳之島町	2	1	2	1	0	0	0	1	
合計			73	61	51	16	6	4	1	24	

③ 体験者募集のための広報活動

ア 県社協

県下統一の体験者募集チラシを65,000枚作成し、必要枚数を拠点社協に配布するとともに、県社協ホームページへも掲載した。そのほか体験者募集チラシは、介護講座等を実施する関係団体・部署等を通じて広く配布した。

(ア) 県アクティブシニア活躍推進協議会

(イ) 福祉人材・研修センター及び介護実習・普及センター

イ 拠点社協(市町村社協)

回覧板や使送便等による全戸配布、社協だよりやお知らせ版への募集記事の掲載、施設周辺地域での新聞折り込みによる配布、防災無線、地元ケーブルテレビ等を活用した募集を行った。

④ 事業報告会の開催

拠点社協による活動実績や成果、課題等について報告・検討する事業報告会を次のとおり実施した。

〈日時〉 令和3年2月4日(木)13:30~15:30

〈場所〉 県社会福祉センター7階 第3会議室

〈参加者〉 拠点社協10か所(10人)、県社協(2人)の計12人

〈内容〉 令和2年度活動報告(1月現在)

アンケートに基づく意見交換

事業報告書作成にかかる情報提供のお願い ほか

⑤ 事業報告書の作成

事業実施の最終年度にあたるため、3カ年間の事業実施内容等をまとめた「元気高齢者等介護職場インターンシップ事業報告書~3年間の事業を終えて~」を850部作成し、受入対象施設や県内市町村社協等の関係各所に配布した。

4 離職介護職員の登録促進事業	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画	事業実施概要等	具体的成果等
<p>(1) 届出制度に関する相談及び問合せ対応</p> <p>(2) 市町村社協、介護事業所、養成校等におけるポスター、リーフレット等を活用した周知広報</p> <p>(3) 届出システムの運用及び届出情報の管理</p> <p>(4) インターネット利用環境にない者の届出の受付及びシステム入力</p> <p>(5) 届出システムと福祉人材情報システム等との連携等</p>	<p>① 届出制度に関する相談対応(21か所) 市町村社協、養成校等を訪問し、「求職者用システム活用マニュアル」やチラシを用いたインターネットによる登録方法を説明した際、登録のための相談・サポートを実施した。</p> <p>② リーフレット等を活用した周知広報(173か所) 当協議会が作成した福祉人材無料職業紹介所の周知用チラシ及び中央人材センターが作成したリーフレットを配布し、「介護福祉士の資格等取得者の届出制度」の周知を図った。</p> <p>③ 届出システムの運用及び届出を促進するための取組 ・ 介護の有資格者のマイページ登録の促進を図るため、啓発用ポスターを作成した。(350部) ・ 市町村社協、養成校等を訪問し、「求職者用システム活用マニュアル」やチラシを用いたインターネットによる登録方法の説明及び登録のサポートを実施するとともに、インターネット環境にない方からの届出票提出による福祉人材情報システムへの代行入力を行った。</p> <p>④ 届出システムと福祉人材情報システム等との連携等(35件) 届出者等に対し、就職面談会やセミナー等の開催に関する情報提供などを行った。</p>	<p>登録者が離職した場合に、登録情報を基にした就業支援を行うことで、再就業の促進が期待できる。</p> <p>令和2年度 新規登録者数 226人 (内訳) 本人登録 225人 代行登録 1人</p> <p>(参考：登録者数) 令和2年度末 登録者数864人 令和元年度末 登録者数638人 平成30年度末 登録者数502人 平成29年度末 登録者数269人)</p>
5 介護の入門的研修事業	事業実施概要等	所管部署 福祉人材・研修センター
<p>(1) 介護の入門的研修の実施 ア 実施か所 県内7か所 イ 対象者 定年退職予定者、中高年齢者、子育てが一段落した者など ウ 研修時間 21時間(7時間×3日間) エ 研修内容 基礎知識、認知症・障害への理解、基本的な介護の方法など</p> <p>(2) 研修終了者へのフォローアップ 就労を希望する者に対する就職支援</p>	<p>① 介護の入門的研修の実施 〈実施か所〉 県内7か所 〈参加者数〉 受講者数 108名(修了者数98名) 〈研修時間〉 21時間(1地区7時間×3日間) 〈研修内容〉 基礎知識、認知症・障害への理解、基本的な介護の方法など</p> <p>② 研修終了者へのフォローアップ 就労を希望する者に対する就職支援 求職票提出者数 23名 届出票提出者数 54名 就労決定者数 1名</p>	<p>介護未経験者が、介護の業務に携わる上で、知っておくべき基本的な介護技術を内容とする入門的研修の実施により、介護業務に携わる上での不安を払拭し、介護分野への参入のきっかけづくりを行うとともに、多様な人材の参入の促進が期待できる。</p>

6	新 介護分野への元気高齢者等参入促進セミナー事業	所管部署	福祉人材・研修センター
令和2年度事業計画		事業実施概要等	
		具体的成果等	
<p>(1) 高齢者等を対象とするセミナー等の開催</p> <p>ア セミナー等の開催（県内4か所） 介護に関する高齢者向けセミナーを開催することにより介護分野への就労に向けた気運を醸成し、就職面談会への参加を促進する。</p> <p>イ 出張講座の開催（県内13か所） 高齢者向けイベント等の機会を活用し、介護の入門的研修や元気高齢者介護職場インターンシップ事業等の事業を紹介する。</p> <p>(2) セミナー受講者等へのフォローアップ 就労を希望する者に対する就職支援を実施する。</p>	<p>高齢者等（概ね55歳以上）を対象とするセミナー及び出張講座を開催した。</p> <p>① 〈開催地区〉 4地区（大隅、大島、北薩、鹿児島） （鹿児島地区は、福祉人材講座（福祉職場就活応援セミナー）と合同で開催） 〈参加人数〉 79人</p> <p>② 〈開催地区〉 7か所（始良市、日置市、南種子町、出水市、西之表市、南さつま市、鹿児島市） 〈参加人数〉 150人 ※ 新型コロナウイルス禍のため、相手団体との調整がつかず、7か所となった。</p> <p>③ 求職票提出数 21人 就職面談会参加者数 21人 採用決定者数 4人</p>		<p>介護未経験者や介護の仕事に興味のある高齢者等を対象とするセミナー及び就職面談会への参加並びに出張講座の開催を通じ、高齢者等の介護分野への参入のきっかけをつくり、多様な人材の参入を促進することができた。</p>